

長岡京市文化財調査報告書

第72冊

2019

長岡京市教育委員会

編集 公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

長岡京市文化財調査報告書

第72冊

(二〇一九)

長岡京市教育委員会

長岡京市文化財調査報告書

第 72 冊

2 0 1 9

長 岡 京 市 教 育 委 員 会

編 集 公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター

序 文

私たちの長岡京市は、豊かな水と緑に恵まれた良好な環境と大都市を結ぶ交通の利便性により発展してきたまちです。

古くは旧石器時代から人々が生活を営んだことがわかっており、特に 784 年に「長岡京」という当時のわが国の都が置かれた地として、全国的に知られています。

また、市内には史跡乙訓古墳群を構成する首長墓や、勝龍寺城などの城館跡、乙訓寺・長岡天満宮といった神社仏閣など、数多くの文化遺産が存在し、現代に至るまで豊かな歴史と文化を守り育んできました。

しかし、こうした遺跡は、まちの発展の一方でかつての姿が失われつつあります。本市では、これらの遺跡の調査・保護に力を入れるとともに普及・啓発に努め、地域全体で風土や文化遺産を守るまちづくりを進めています。

さて、本報告書は平成 30 年度に長岡京市教育委員会が実施した発掘調査と詳細分布調査の成果をまとめたものです。

乙訓寺第 25 次調査では、古代の正方位を指向する掘立柱建物や、東西に並ぶ柱穴を検出しました。これらは創建当時の構造を知るうえで貴重な成果と考えられます。長法寺七ツ塚 7 号墳では初めて発掘調査を実施し、墳丘の状況を確認することができました。

詳細分布調査では、市域の約半分を占め市街地のほぼ全域を包括する長岡京跡やその他の遺跡に関する情報の蓄積が進んでいます。

最後になりましたが、発掘調査にあたり数々のご助力をいただきました土地所有者や地元協力者の方々、ご指導・ご助言をいただいた諸先生方並びに調査を担当していただいた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターなどの関係機関に深く感謝いたします。

本書が文化財保護の普及・啓発の一助となり、また地域学習の資料として広く活用いただければ幸いです。

平成 31 年 3 月

長岡京市教育委員会

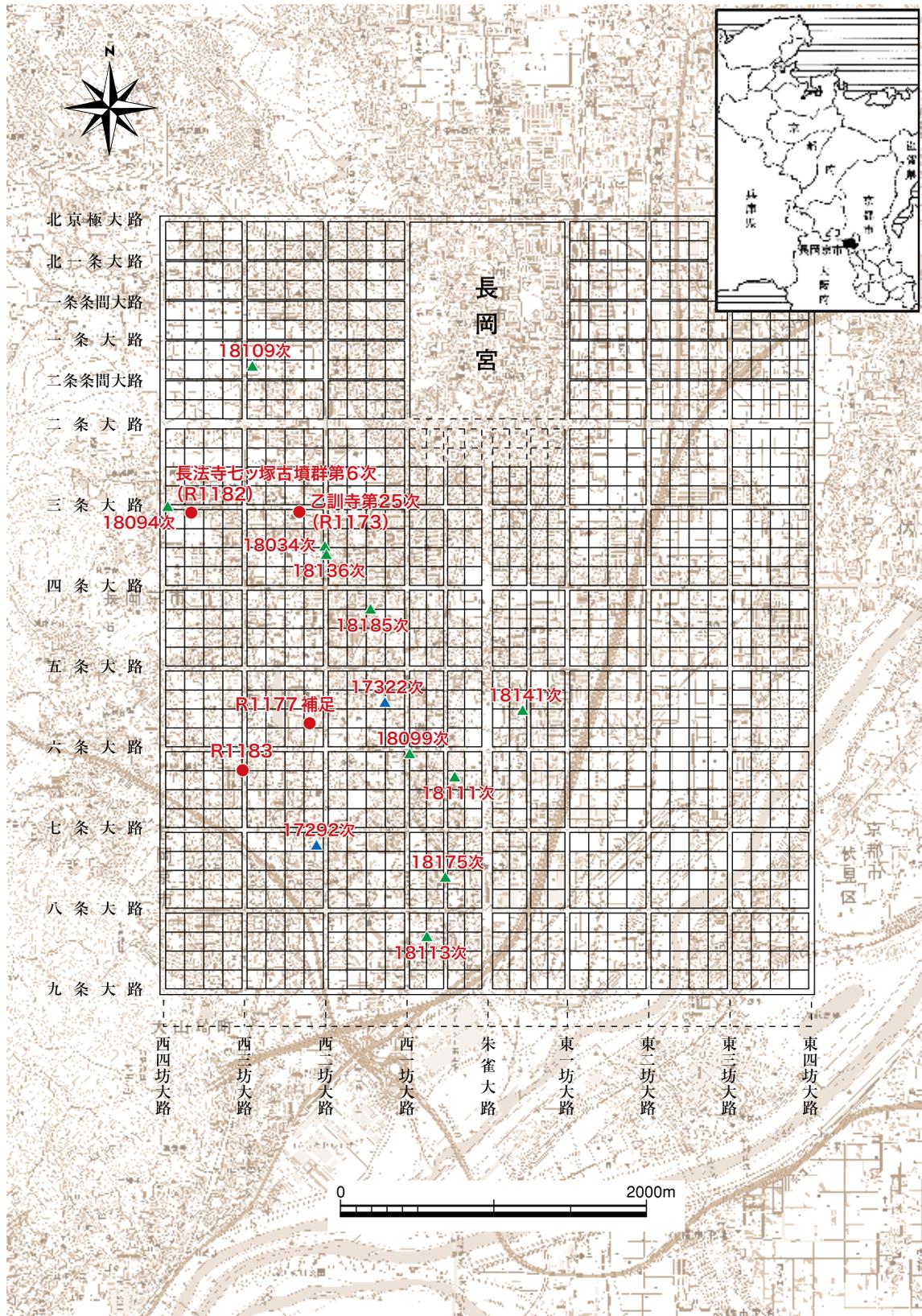
教育長 山本和紀

凡 例

1. 本書は、長岡京市教育委員会が国庫補助事業として公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターに事業を委託して実施した、平成 30 年度の発掘調査および平成 29・30 年度の詳細分布調査に関する概要報告である。
2. 調査対象地は、第 1 図および付表-1 に表示した。このうち、長岡京跡右京第 1177 次補足調査、長法寺七ツ塚古墳群第 6 次調査（右京第 1182 次）と長岡京跡右京第 1183 次調査の概要は整理作業終了後の次年度に報告する。
3. 長岡京跡の調査次数は、右京域と左京域に分けて通算したものである。また、調査地区名は、前半が奈良文化財研究所の遺跡分類表示、後半が京都府教育委員会『埋蔵文化財発掘調査概報』（1977 年）収録の旧大字小字名による地区割りと同地区内における調査回数を示す。
4. 長岡京跡の条坊名称は、山中章「古代条坊制論」『考古学研究』第 38 巻第 4 号（1992 年）の復原案に従った。
5. 本書で使用する地形区分は、特に断らない限り「長岡京市域地形分類図」『長岡京市史』資料編一（1991 年）によった。
6. 各章（注）に示した報告書のうち使用頻度の高いものは、『長岡京市埋蔵文化財発掘調査資料選』（十）公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター（2018 年）に従って略記した。
7. 本書において使用している遺構番号は、長岡京跡に関する調査の場合、調査次数＋番号であるが、煩雑さを避けるため、調査次数を省略している。「SD01」の場合、調査次数を冠した「SD〇〇〇〇 01」が正式な番号である。
8. 本書で使用している方位と国土座標値は世界測地系による。平面直角座標系は第 VI 系である。
9. 本書の挿図の土層名で〈〉を付けて表示した記号は、『新版標準土色帳』（1997 年版）の JIS 表記法による土色名である。
10. 遺物写真は、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所に撮影を依頼した。
11. 本書は、第 1 章を福家恭、第 2 章を山本輝雄が執筆し、全体の編集は技術補佐員・整理員の協力のもと中島皆夫が行った。

付表-1 本書報告調査地一覧表

調査次数	地区名	所在地	現地調査期間	面積	備考
乙訓寺第 25 次調査 (長岡京跡右京第 1173 次)	7AN IHR-10	長岡京市今里三丁目 14-7	2018 年 6 月 18 日 2018 年 8 月 3 日	150㎡	今里遺跡
長岡京跡右京第 1177 次補足調査	7AN KJS-4	長岡京市天神一丁目 213-1 他	2018 年 11 月 9 日 2018 年 12 月 11 日	33㎡	開田城ノ内遺跡 十三遺跡
長法寺七ツ塚古墳群第 6 次調査 (長岡京跡右京第 1182 次)	7AN JKK-7	長岡京市長法寺北畠地内	2018 年 11 月 19 日 2018 年 11 月 29 日	11㎡	長法寺七ツ塚 7 号墳
長岡京跡右京第 1183 次調査	7AN OUK-1	長岡京市梅が丘二丁目 60 番	2018 年 12 月 4 日 2018 年 12 月 14 日	8㎡	
平成 29 年度詳細分布調査			付表-3 参照		
平成 30 年度詳細分布調査			付表-4 参照		



- 平成30年度 発掘調査
- ▲ 平成29年度 詳細分布調査 (内、詳細を掲載した調査)
- ▲ 平成30年度 詳細分布調査 (内、詳細を掲載した調査)

第1図 長岡京と調査地の位置 (1/40000)

本文目次

第1章 乙訓寺第25次調査概要

— 長岡京跡右京第1173次(7AN IHR-10地区)調査 —

1	はじめに	1
2	調査経過	2
3	検出遺構	2
4	出土遺物	11
5	まとめ	17

第2章 長岡京市内遺跡詳細分布調査概要

1	はじめに	19
2	調査概要	19
3	主な調査成果	20

図版目次

乙訓寺第25次調査

- 図版 1 調査区全景（南から）
- 図版 2 (1) 調査区全景（東から） (2) 整地層及びSX01 堆積状況（北西から）
- 図版 3 (1) SX01 底面の様子（南から） (2) 柱穴 P64（東から）
 (3) 柱穴 P65 遺物出土状況（北から） (4) 土坑 SK76 遺物出土状況（西から）
 (5) 土坑 SK62 検出状況（西から） (6) 土坑 SK62 遺物出土状況（西から）
- 図版 4 (1) 区画溝 SD15（東から） (2) 柱穴 P18（西から）
 (3) 柱穴 P19（西から） (4) 掘立柱建物 SB101（東から）
- 図版 5 (1) 土坑 SK45（北西から） (2) 土坑 SK45 堆積状況（南西から）
 (3) 土坑 SK82（南東から） (4) 土坑 SK82 堆積状況（北東から）
 (5) 大型土坑群 SX34・35・44（南から） (6) 紡錘車出土状況（北東から）
 (7) 土坑 SK63 遺物出土状況（北西から） (8) 土坑 SK70 遺物出土状況（北西から）
- 図版 6 (1) 2・3区検出状況（東から） (2) 2～5区検出状況（北東から）
- 図版 7 出土遺物-1
- 図版 8 出土遺物-2
- 図版 9 出土遺物-3
- 図版 10 出土遺物-4

長岡京市内遺跡詳細分布調査

- 図版 11 (1) 出土遺物-1 (2) 出土遺物-2
- 図版 12 出土遺物-3

挿 図 目 次

第 1 図	長岡京と調査地の位置 (1/40000)	iii
-------	----------------------	-----

乙訓寺第 25 次調査

第 2 図	発掘調査地位置図 (1/5000)	1
第 3 図	関係者説明会の様子	2
第 4 図	調査区検出遺構図 (1/150)	3
第 5 図	調査区土層図 (1/50)	5
第 6 図	中・近世の遺構平・断面図 (1/20・1/50)	6
第 7 図	調査区検出遺構図 (1/80)	7
第 8 図	長岡京期の遺構断面図 (1/50)	8
第 9 図	古墳時代の遺構平・断面図 (1/20・1/50)	9
第 10 図	遺構断面図-1 (1/50)	10
第 11 図	遺構断面図-2 (1/50)	11
第 12 図	出土遺物実測図-1 (1/4)	13
第 13 図	出土遺物実測図-2 (1/4)	14
第 14 図	土坑 SK70 出土遺物実測図 (1/4)	15
第 15 図	大型土坑群出土遺物実測図 (1/4・1/2)	15
第 16 図	出土遺物実測図-3 (1/4)	16
第 17 図	出土遺物実測図-4 (1/2)	17
第 18 図	乙訓寺南東域関連調査検出遺構配置図 (1/400)	18

長岡京市内遺跡詳細分布調査

第 19 図	第 17292 次調査地位置図 (1/5000)	20
第 20 図	第 17292 次調査地全景 (南東から)	20
第 21 図	第 17292 次調査断面 (南東から)	20
第 22 図	第 17292 次調査断面 (南から)	20
第 23 図	第 17322 次調査地位置図 (1/5000)	21
第 24 図	第 17322 次調査地全景 (東から)	21
第 25 図	第 17322 次調査 SE01 (南東から)	21
第 26 図	第 17322 次調査 SK02 (西から)	21
第 27 図	第 17322 次調査平・断面略測図 (1/80・1/400)	22
第 28 図	第 17322 次調査断面略測図 (1/40)	22

第 29 図	出土遺物実測図- 1 (1/4)	23
第 30 図	第 18034 次調査地位置図 (1/5000)	24
第 31 図	第 18034 次調査地全景 (東から)	24
第 32 図	第 18034 次調査 SK03 (東から)	24
第 33 図	第 18034 次調査 P1 断面 (西から)	24
第 34 図	第 18034 次調査平・断面略測図 (1/40・1/400)	24
第 35 図	第 18094 次調査地位置図 (1/5000)	25
第 36 図	第 18094 次調査地全景 (東から)	25
第 37 図	第 18099 次調査地位置図 (1/5000)	25
第 38 図	第 18099 次調査地全景 (南東から)	25
第 39 図	第 18099 次調査断面 (北東から)	25
第 40 図	第 18099 次調査断面 (西から)	25
第 41 図	第 18109 次調査地位置図 (1/5000)	25
第 42 図	第 18109 次調査地全景 (北西から)	25
第 43 図	第 18111 次調査地位置図 (1/5000)	28
第 44 図	第 18111 次調査断面 (南から)	28
第 45 図	第 18113 次調査地位置図 (1/5000)	28
第 46 図	第 18113 次調査地全景 (南から)	28
第 47 図	第 18136 次調査地位置図 (1/5000)	28
第 48 図	第 18136 次調査地全景 (南から)	28
第 49 図	第 18136 次調査断面 (南から)	28
第 50 図	第 18136 次調査断面略測図 (1/40)	28
第 51 図	第 18141 次調査地位置図 (1/5000)	30
第 52 図	第 18141 次調査断面 (南から)	30
第 53 図	出土遺物実測図- 2 (1/4)	30
第 54 図	出土遺物実測図- 3 (1/4)	31
第 55 図	第 18175 次調査地位置図 (1/5000)	32
第 56 図	第 18175 次調査地全景 (南西から)	32
第 57 図	第 18185 次調査地位置図 (1/5000)	32
第 58 図	第 18185 次調査地全景 (北から)	32
第 59 図	第 18185 次調査 SD01 (南西から)	32
第 60 図	第 18185 次調査 SK02 (東から)	32
第 61 図	第 18185 次調査平・断面略測図 (1/40・1/400)	32
第 62 図	出土遺物実測図- 4 (1/4)	33

付 表 目 次

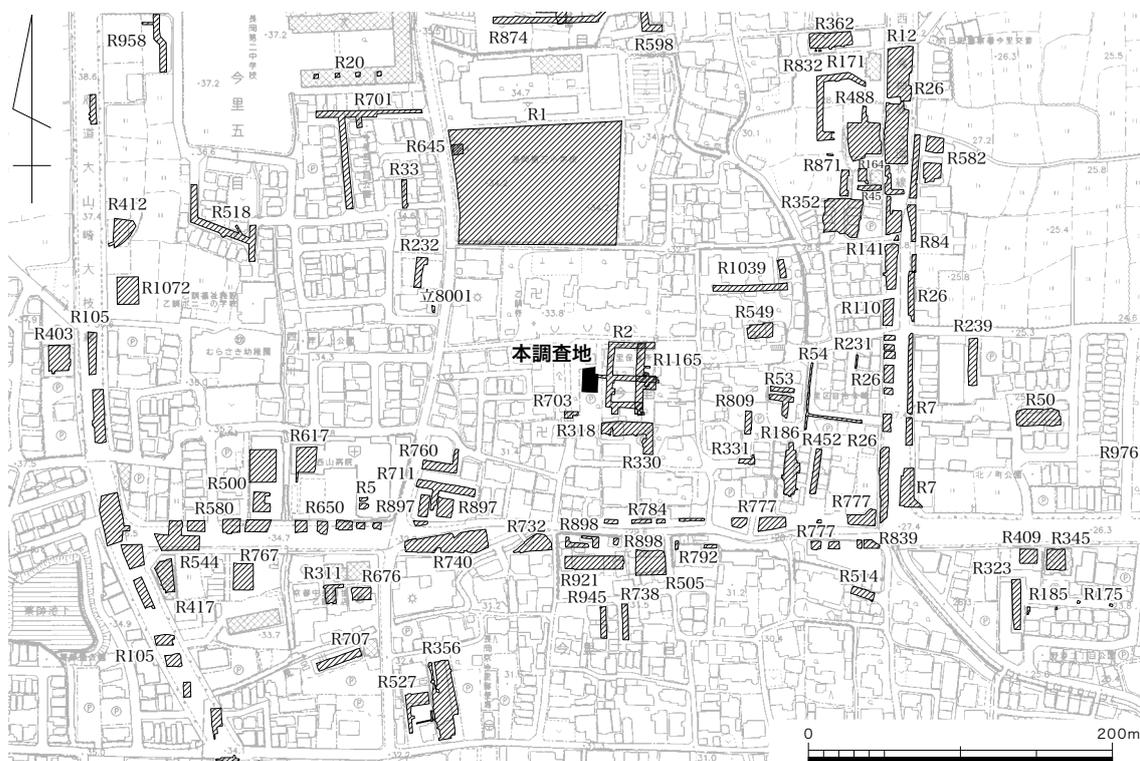
付表-1	本書報告調査地一覧表	ii
付表-2	遺跡別詳細分布調査件数一覧表（平成30年4月～11月）	19
付表-3	長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-1（平成30年1月～3月）	34
付表-4	長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-2（平成30年4月～11月）	37
付表-5	報告書抄録	47

第1章 乙訓寺第25次調査概要

— 長岡京跡右京第1173次 (7AN IHR-10地区) 調査 —

1 はじめに

- 1 本調査は、平成30(2018)年6月18日～8月3日まで、長岡京市今里三丁目14-7において実施した、乙訓寺第25次調査(長岡京跡右京第1173次調査)に関する調査概要である。
- 2 調査は、古代乙訓寺の伽藍配置や関連施設、長岡京造営との関わりについての情報を得る目的で実施した範囲確認調査である。調査面積は約150㎡であった。
- 3 調査地は、長岡京右京四条三坊八町および三条大路推定地や旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡である今里遺跡にも重複しているため、これらに関わる遺構・遺物の確認も合わせて行った。
- 4 発掘調査は、平成30年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施した。現地調査は公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター福家恭が行った。
- 5 発掘調査にあたっては、乙訓寺関係者各位をはじめ、周辺地権者の方々や関係機関に種々のご理解とご協力を賜った。
- 6 本報告の編集と執筆は福家が行った。



第2図 発掘調査地位置図 (1/5000)

2 調査経過

乙訓寺は、寺伝によれば飛鳥時代に推古天皇の命で建立され、長岡京期には大寺院となる。昭和41年の乙訓寺第1次調査で講堂と推定される建物跡と白鳳期の瓦が発見されて以降、乙訓寺及びその周辺でも調査を行っているが、古代乙訓寺の伽藍配置を復元する手がかりは未だ確認できていない。そのため、本年は中心伽藍および関連施設の発見が期待される現在の参道に近い地点を調査対象とした。

今回の調査は、現乙訓寺境内の参道東側に隣接する駐車場で実施したもので、昭和44（1969）年に実施された乙訓寺第2次（右京第2次）調査区の西側、第11次（右京第703次）の北側にあたる。昨年度の調査（乙訓寺第24次）をはじめ、これまでの周辺調査によって、弥生時代の周溝墓と土壙墓、古墳時代後期の掘立柱建物と柵、長岡京期の井戸、中近世の区画溝などが確認^(注1)されている。

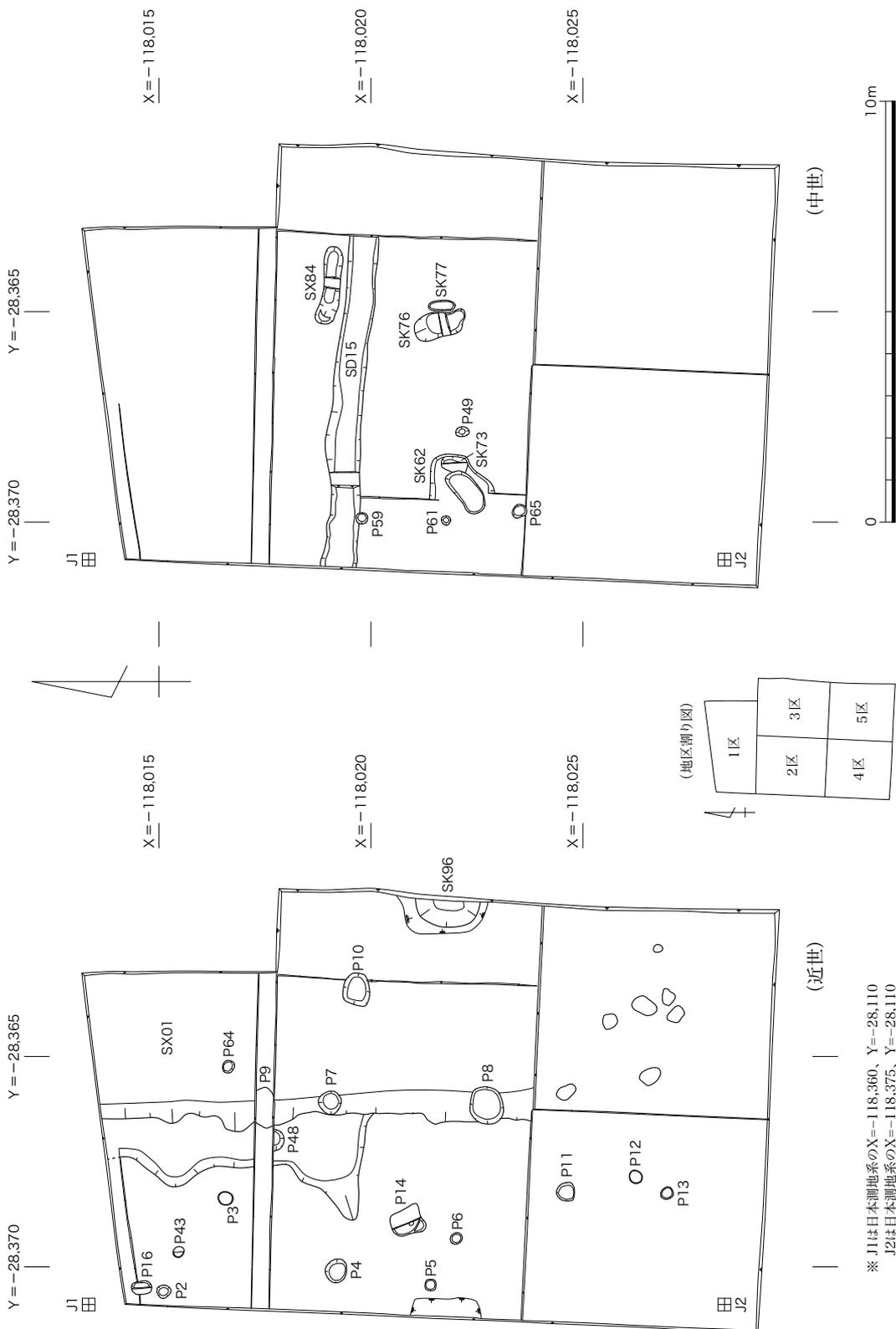
本調査は、南北15m、東西10mの調査区を設定し、さらに調査区内を5地区に分けて調査を行った。なお、現地調査は平成30年6月18日から実施し、7月26日に関係者説明会を開催した。埋め戻しは7月31日から開始し、全ての作業が終了したのは8月3日であった。



第3図 関係者説明会の様子

3 検出遺構

基本層序（第5図） 調査地付近は現在乙訓寺等に伴う造成によって平坦な地形となっているが、旧地形は西から東へと傾斜する低位段丘上に位置する。そのため、現況の駐車場に伴う碎石と盛土で広い平坦面を形成していると推定していたが、実際はそれらを取り除くと、近世～古代の瓦と礫が一面にひろがる整地面（包含層Ⅰ）が検出された。この包含層Ⅰの下層は、北端のⅠ区では褐色～明黄褐色粘質シルトの地山が検出されたが、2・3区では包含層Ⅱと下層遺構群が



第4図 調査区検出遺構図 (1/150)

4 検出遺構

複雑に切り合うことが確認されたため、4・5区については、包含層Ⅰ以下は現状を保存することにした。2・3区では黒褐色粘質土層が一面にひろがり、包含層Ⅱと遺構群の識別が困難であったため、1区の地山面で中世の遺構と古代～古墳時代の遺構が同一レベルで検出されたことを手掛かりに段階的に全体を下げ、中世遺構とそれ以前の遺構を検出していった。その結果、これらの遺構群はさらに下層の包含層Ⅲ又は遺構群の上面から掘削されたものであった。今回の調査では、この面で確認できた遺構を保護するため、遺構の調査は半裁など、最低限の確認に留め、下層遺構群は調査を行っていない。なお、遺構の底面や断ち割りなどにより、下層遺構群及び包含層Ⅲの下部が1区と同様の地山であることは、部分的に確認している。

近世の遺構（第4図）

整地層 SX01（第4図） 地表下0.05～0.1mで包含層Ⅰとした近世の整地面が検出された。整地層は浅いところで約0.05m、深いところでは約0.3mの厚さがある。黄褐色～褐灰色粘質シルトが堆積し、小礫とともに近世瓦の他、整理箱10箱程度の布目瓦が含まれる。特に東側は一段下がり、SX01として検出したが、包含層ⅠとSX01に埋土の差は確認できなかった。そのため、本来の地形が北西から東と南へ傾斜することや、近世以前の土地利用による改変などが影響して、場所によって厚さが異なるものと推定される。また、性格は不明であるが、1区東半のSX01底面には無数の凹凸が見られた（図版三（1））。

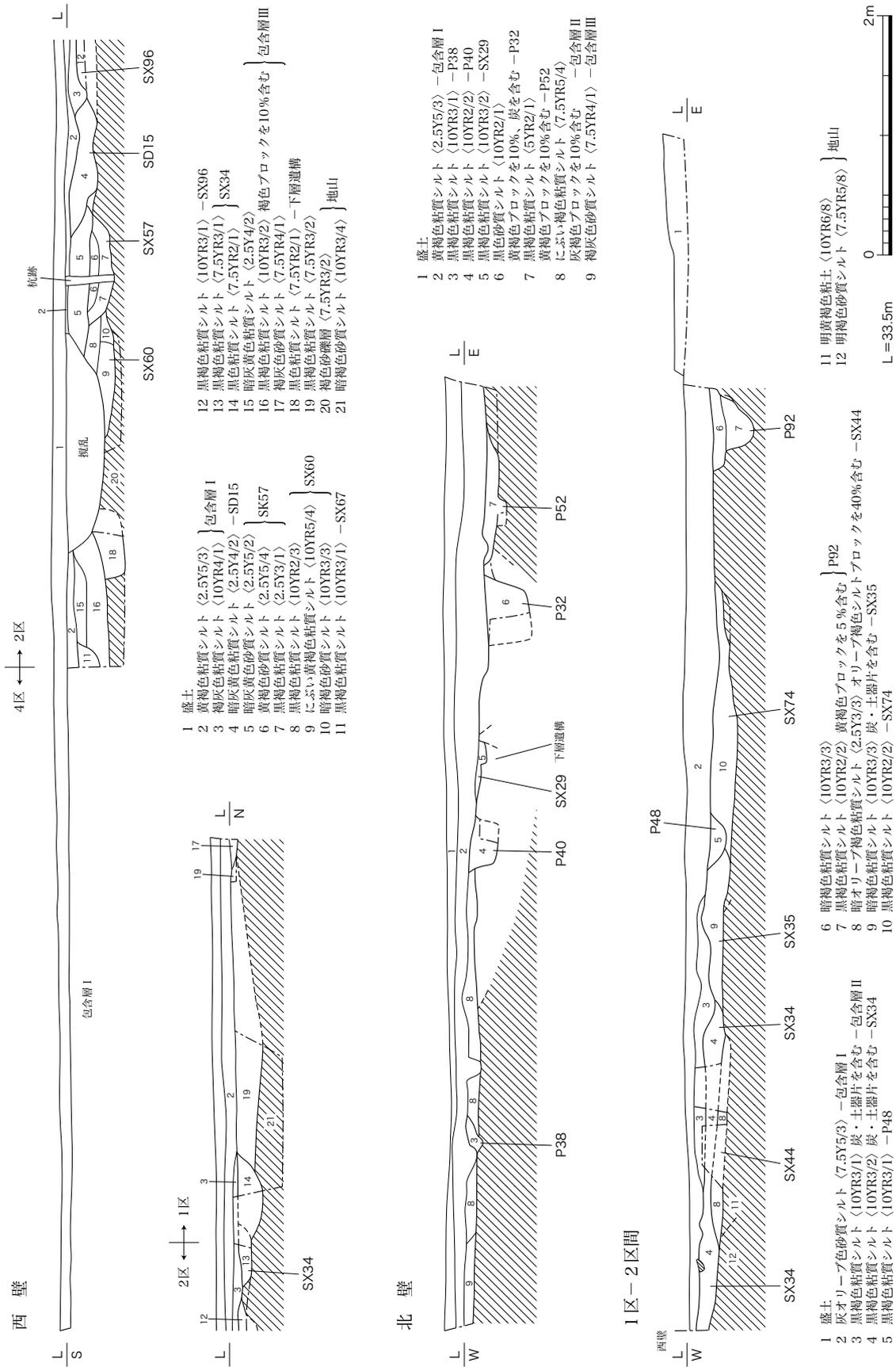
小穴群（第6図） 整地層（包含層Ⅰ）上面から掘られた遺構群である。P3・7・16・43・48は北西から南東方位を指向して並ぶように見えるが、詳細は不明である。仮に柵として復元するならば、柱間は約1.7mとなる。このような径0.3～0.6m程度の小穴は未調査のものも含め20基以上確認でき、P64のように石柱状の石材が入るものや1m前後の大型のものもある。ただし、いずれも正方位に並びそうなものはなく、現状では建物の復元は困難である。

中世の遺構（第4図）

区画溝 SD15（第6図） 近世の整地面の下層に掘られた東西にのびる溝である。2・3区を横断する約8m分が確認され、幅約0.7m、深さ0.3m前後が残存する。やや南に振っているが、直線的にのびており、南北の領域を区画する目的であろう。また、北側に隣接するSX84も平行する小溝であり、SD15と一連のものである可能性がある。さらに、昨年調査では東へ約80mの位置で南北方位の溝が検出されており、この溝と直交する位置に溝が西側へ張り出す箇所を確認できる。そのため、寺域内をこれらの溝によって区画していたものと推定される。

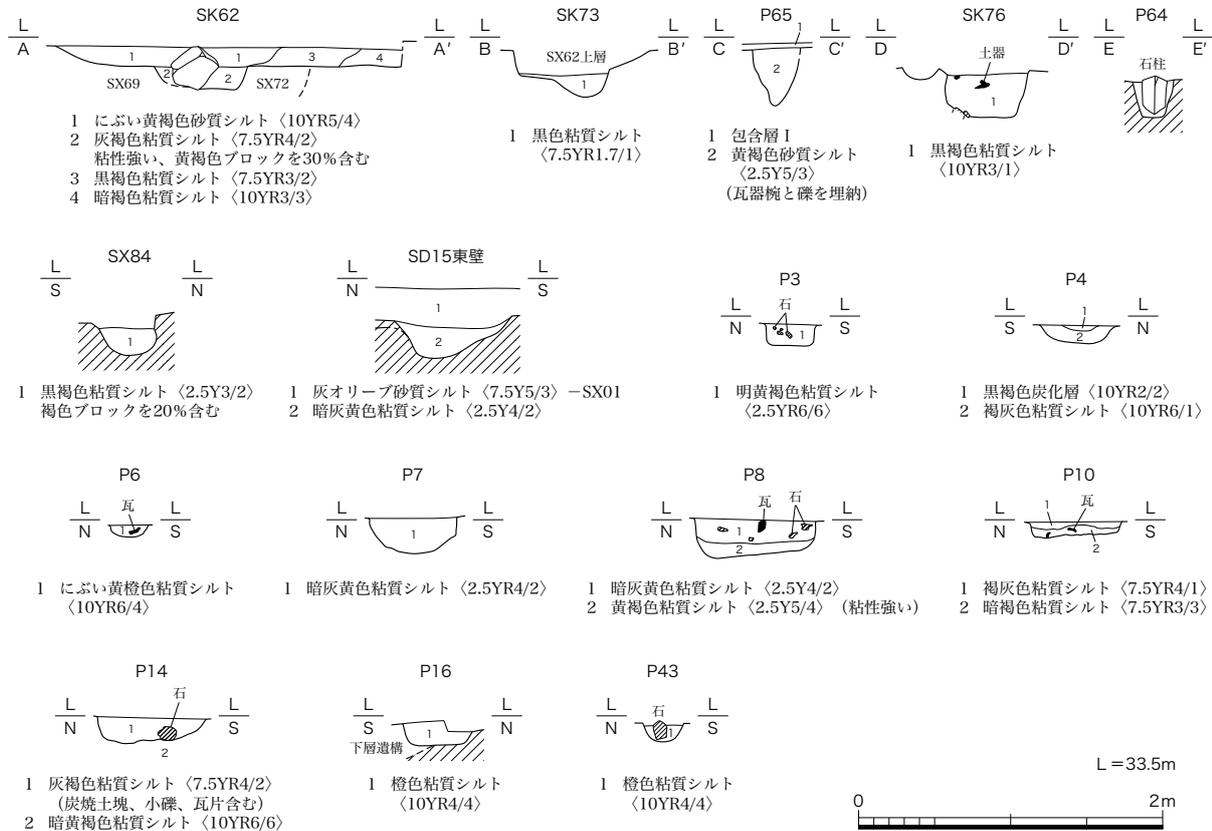
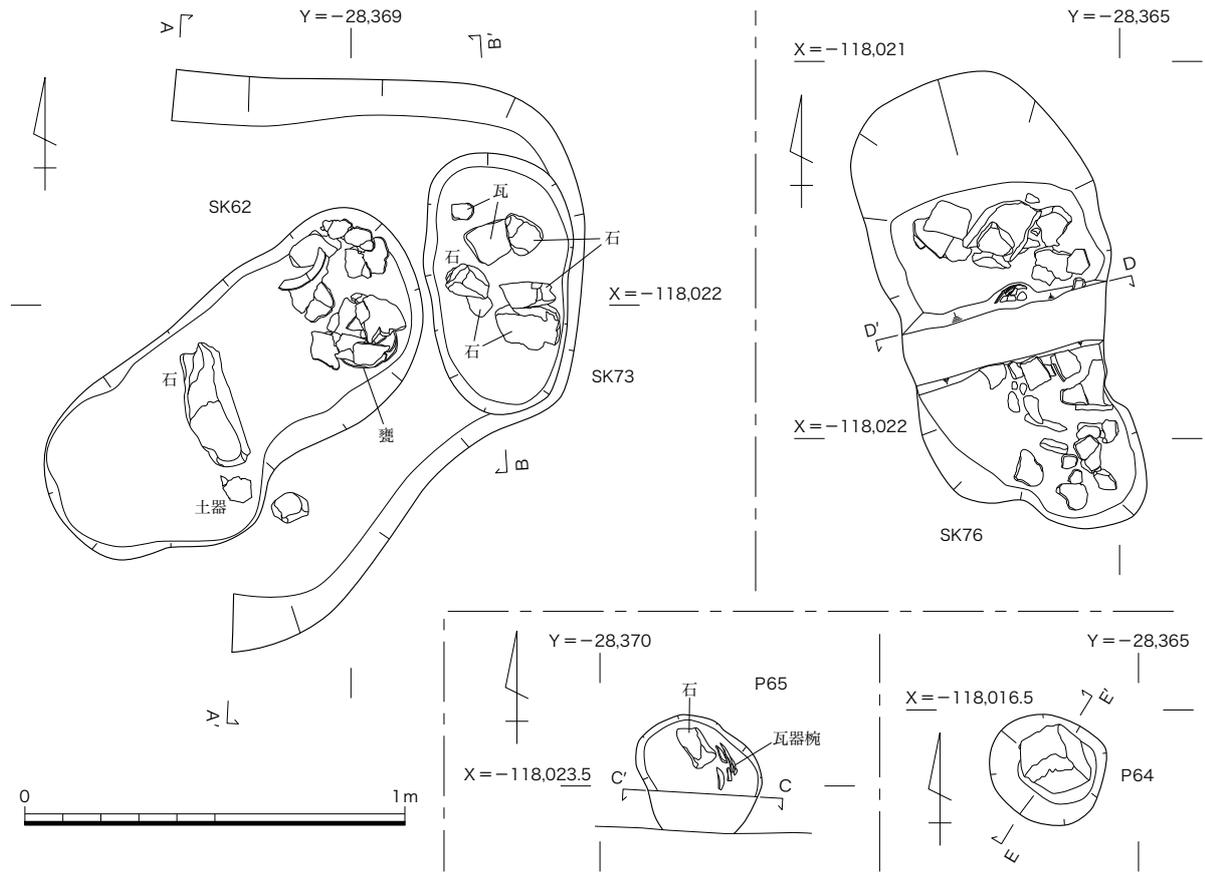
土坑 SK62（第6図） 2区の南寄りの地点で検出された最大径1.6mの土坑で、中央付近は長辺1.2m、短辺0.6mの楕円形状に掘り込まれる。土坑の中央部には縦30cm、横25cm、厚さ10cmの板石状の石材が落ち込んでおり、石材より東側には小礫とともに土師器甕2点分が出土した。また、隣接するSK73も小礫と瓦が複数出土しており、関連する遺構の可能性もあるが、土器が出土しておらず、時期は不明である。

土坑 SK76（第6図） SK62の東約5mの位置に掘られた土坑である。深さ約0.3mの楕円形状を呈し、多量の瓦片が投棄されていた。埋土には瓦器片も含まれる。

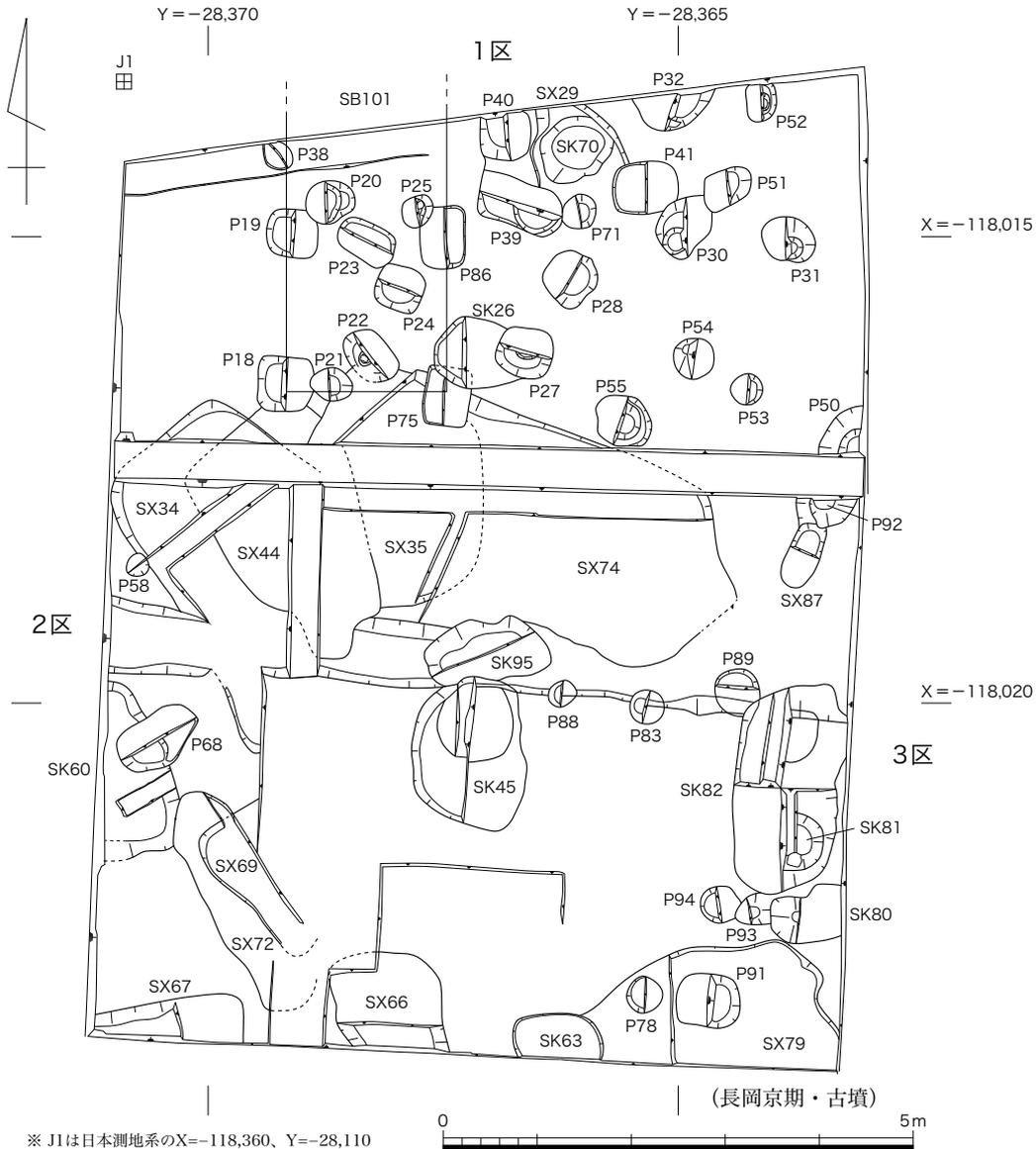


第5図 調査区土層図 (1/50)

6 検出遺構



第6図 中・近世の遺構平・断面図 (1/20・1/50)



第7図 調査区検出遺構図 (1/80)

小穴 P65 (第6図) SK62の南約1mの位置にある小穴で、径0.3m程の中に瓦器碗2点が重ねられた状態で埋納されていた。

長岡京期の遺構 (第7図)

掘立柱建物 SB101 (第8図) 正方位に並ぶ東西1間、南北1間以上の建物の可能性がある柱列を確認した。本来の規模は不明であるが、柱間は東西、南北ともに約1.6mで、柱穴は0.5~0.6m四方の隅円方形のものが並ぶ。他に東西にも南側にも並ぶ柱穴が確認できないことから、北側にひろがるものと推定される。

土坑群 SK45・60・82 (第8・10図) これらは掘立柱建物 SB101 から南約3mに位置する。最も残存状態の良いSK45は南北1.6m、東西1.0mの楕円形状を呈する。深さは0.6m前後であり、一部0.8mまで下がっている。一見すると0.3m前後の柱痕跡と掘形を思わせる形状であり、埋土も黄褐色ブロックを多く含む黒褐色粘質シルト層が堆積する。特に北半は抜き取りの痕

8 検出遺構

跡であろうか、径1 m前後の範囲が再掘削されている。また、SK45の東西には、SK60とSK82が3.6m間隔に並ぶ。それぞれの掘形の北端は揃っているが、いずれも形状は歪である。

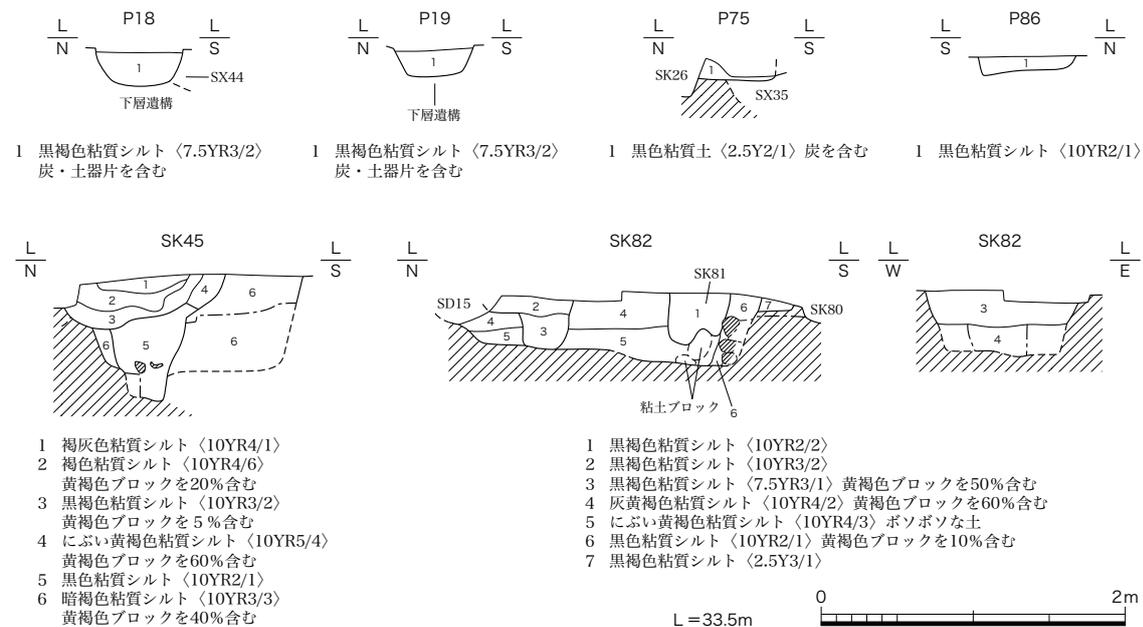
SK82は南北2.2 m、東西1.1 mの歪な楕円形状を呈し、南端には石材3石が重なって置かれていた。また、北と南に掘り込みが見られ、北側のものは径約0.6 m、深さ約0.34 mで、南側のSK81は径約0.4 m、深さ約0.32 mである。これらを一連の遺構として調査を行ったが、切り合う別遺構の可能性もあり、周辺調査の進展による遺構配置の状況を合わせて検討していく必要があるだろう。一方、SK60は上半を攪乱と近世以降の落ち込みSX57によって大きく削平されており、詳細は不明である。ただし、これらの土坑群は一定の間隔で並び、おおむね正方位を指向する遺構であることから、古代乙訓寺に関連する構造物となるかもしれない。

古墳時代の遺構 (第7図)

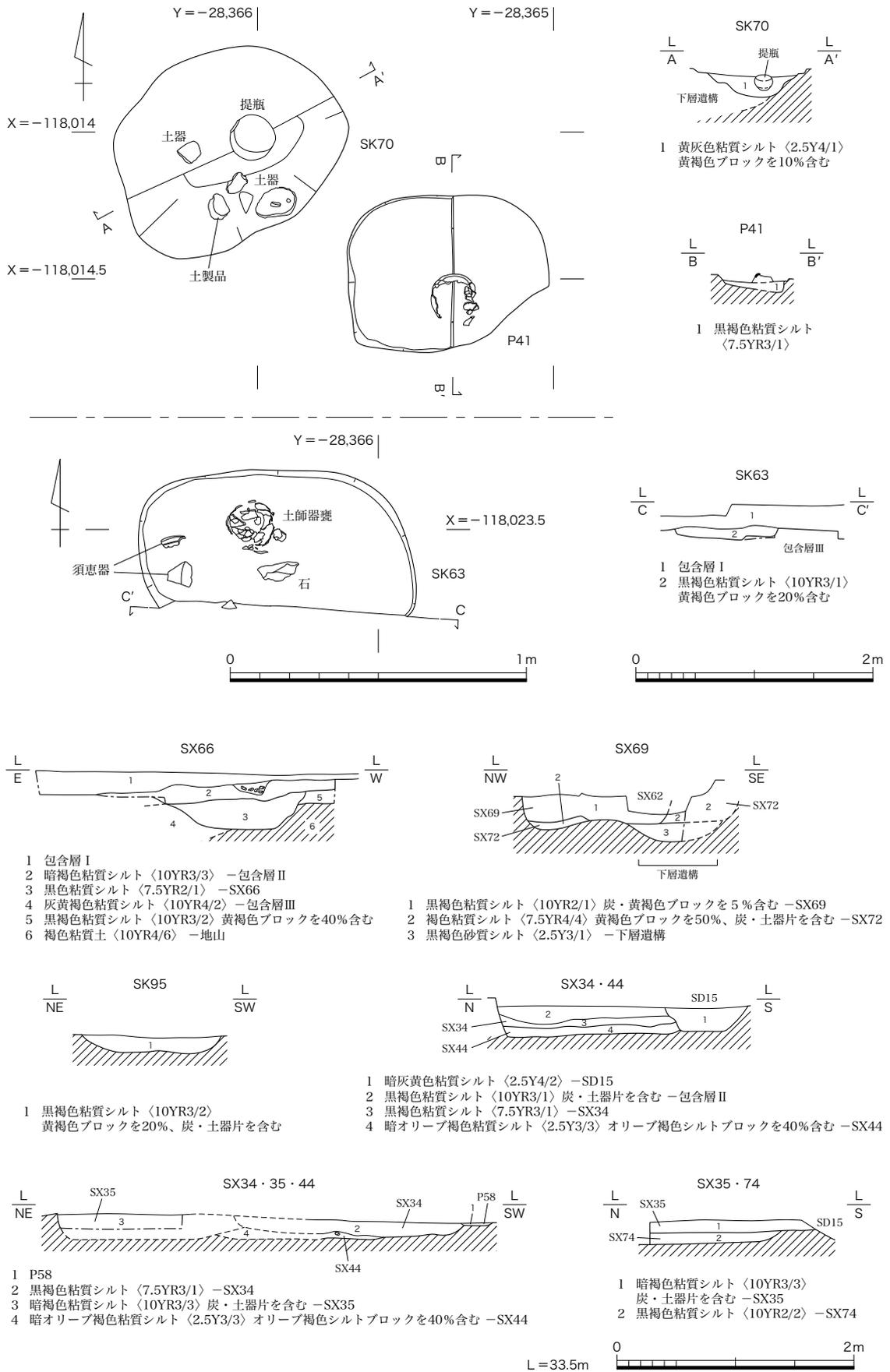
土坑 SK63 (第9図) 東西0.9 m、南北0.45 m以上、深さ0.1 m以上の規模をもつ土坑で、古墳時代の土師器甕と須恵器壺の破片、小礫などが出土している。SK63は包含層Ⅰの下層、包含層Ⅲ(下層遺構)の上面から掘削されている。

土坑 SK70 (第9図) 古墳時代後期の須恵器埴瓶が埋納された土坑である。埴瓶は横倒しの状態で埋められ、口縁部から頸部は残存しない。土坑は東西約0.9 m、南北約0.7 m、深さ約0.2 mの規模をもつ楕円形状を呈す。上層はSX29に削平されているか、一帯的なものかの判別はできなかった。

大型土坑群 SX34・35・44・74 (第9図) 長辺2.5～3.5m、短辺1.3～1.8mの規模をもつ隅円方形の大型土坑が近接してつくられる。1区と2・3区の境付近では、少なくとも4基の土坑が密集して掘削されている。埋土には6世紀後半～7世紀初頭の須恵器片が含まれ、SX35の北半からは滑石製の紡錘車も出土した。

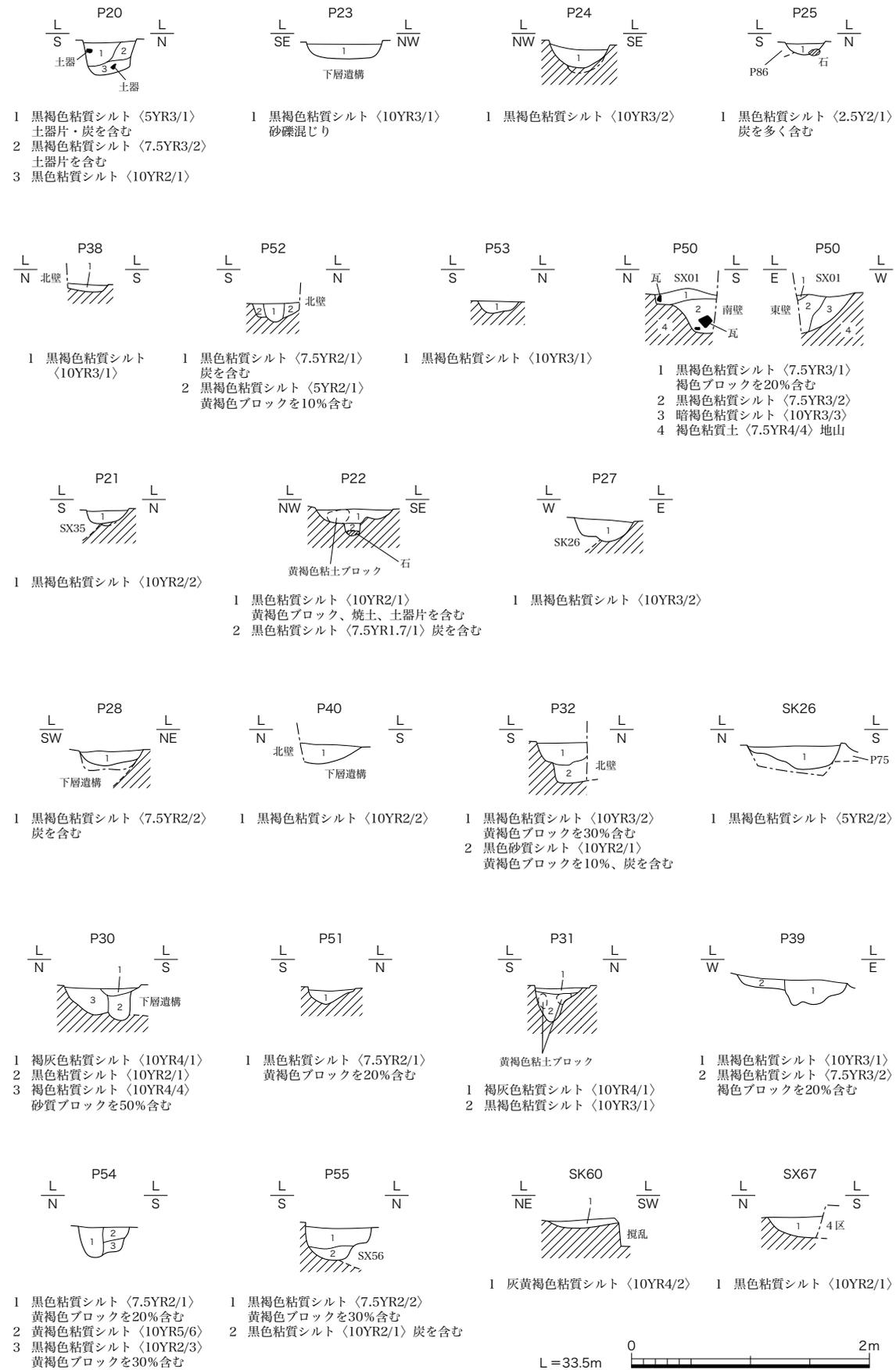


第8図 長岡京期の遺構断面図 (1/50)

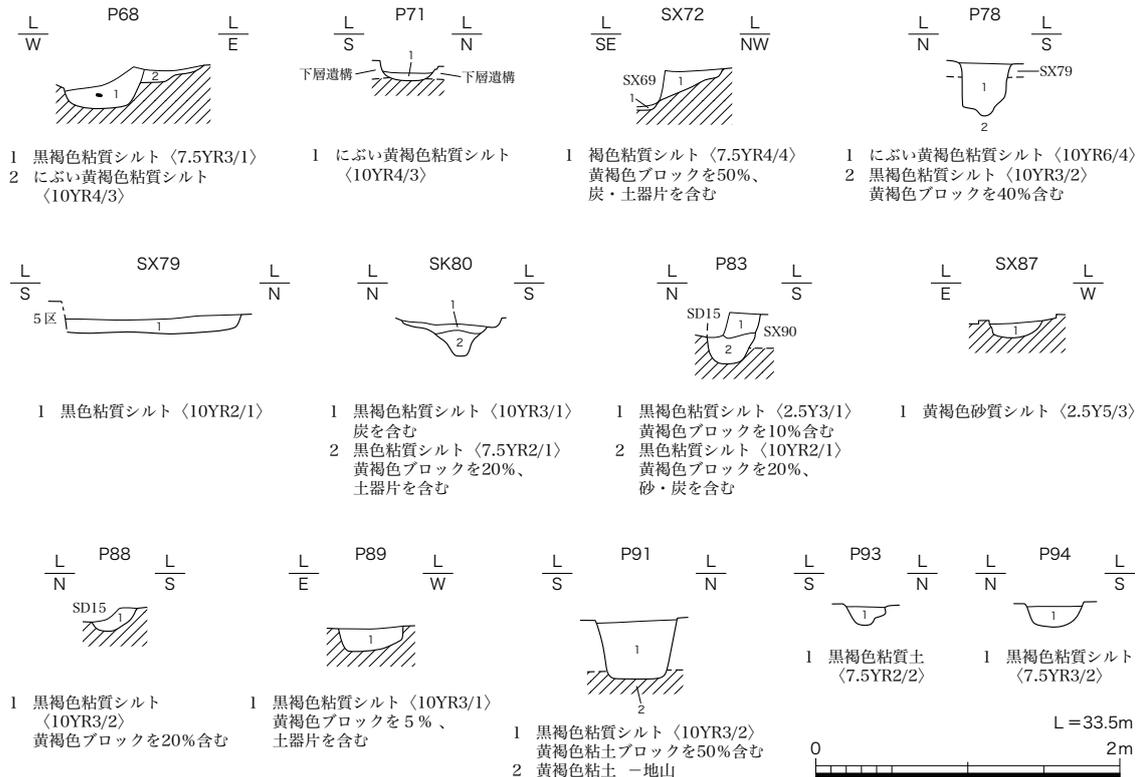


第9図 古墳時代の遺構平・断面図 (1/20・1/50)

10 検出遺構



第10図 遺構断面図-1 (1/50)



第11図 遺構断面図-2 (1/50)

土坑群 SX66・67・69・72 (第9～11図) 大型土坑群のすぐ南側では1.5m×1.0m前後の土坑3基と、長辺約2.6m、短辺約0.7mの細長い形状のSX72が確認できる。SX72はSX69に先行する土坑で、形状の違いなどからも性格や時期が異なる可能性もある。また、SX66は包含層Ⅱの下層、包含層Ⅲの上面から掘削されており、土坑群付近の包含層Ⅱからは埴輪片や管玉なども出土している。ただし、いずれの土坑も出土遺物は少なく正確な時期は不明である。

柱穴群 (第9・10図) 柱穴は0.5～0.6m四方の隅円方形や円形のもの複数検出された。明確に構造物を復元できるものはないが、基本的には正方位に対して斜行する方位に並ぶようである。仮に復元するとすれば、P24・27・55の3基が北西-南東方位に、P27・28・41・32の4基が南西-北東方位にそれぞれ柱間1.4m間隔で並ぶ。

その他の遺構

今回検出している遺構群の下層にも弥生時代の遺物を含む遺構が存在するようである。特に2区の南西角付近では、弥生時代後期の溝状の遺構が推定される。しかし、古代の遺構の検出面である包含層Ⅲについては、遺構を保護するために取り除いていない。そのため、下層遺構群は、後世の遺構の底面や断ち割りにより存在を確認した。

4 出土遺物

本調査では近世から弥生時代の遺物が整理箱18箱分出土した。その内、10箱は近世から古代の瓦であり、大半は布目瓦である。なかには古代の軒丸・軒平瓦(3点)、格子目タタキを凸

面に施すもの（17点）なども確認された。

中・近世遺構の出土遺物

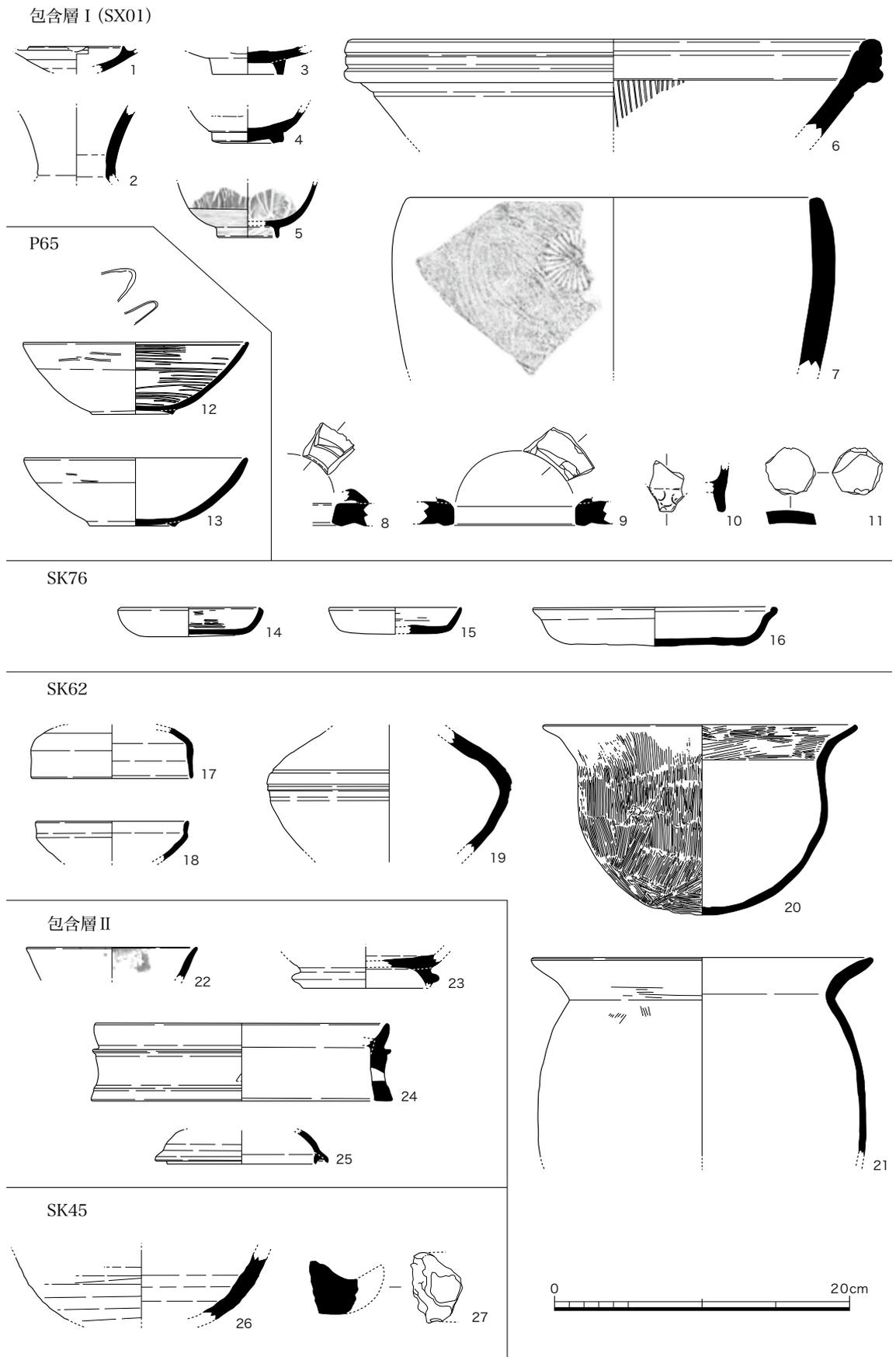
中近世段階の乙訓寺の様子を窺うことができる遺物も僅かながら出土している。1～6は整地層である包含層Ⅰから出土した近世陶器で、1は灯明皿、2は瀬戸美濃産の壺頸部である。碗類には、見込みの釉薬をかき取る肥前産のもの（3）、瀬戸美濃産の内黒のもの（4）、唐津産の褐色に施釉する櫛刷毛目碗（5）などをはじめ、有田産の染付や京都産の陶器片なども見られた。6は播鉢、7は口径27.4cmの瓦器火鉢で、胴部上半に菊文が施される。8～10は輸入青磁であるが、器形は不明である。8・9は同様の形状のもので、内側は円形状を呈し、下部には低い高台状のものを削り出す。上部にも付属物の痕跡があり、何かの台のような器形となっている。10は脚部と考えられるが、上部の器形は不明である。11は須恵器を円形にした土製品。12・13はP65から重なった状態で出土した瓦器碗である。口径15cm、器高4.8～5.0cmで、摩滅しているが内外面にミガキを施す。13世紀頃のもので、12には口縁部内面に沈線、見込みに暗文も見られる。このように多様な出土遺物の状況からも中・近世における乙訓寺の繁栄の一端を窺える。

その他の中世遺構からは、古墳時代～長岡京期の遺物も出土している。14・15の土師器皿Cは口縁端部形状が異なるものの、口径9.0cm前後、器高2.0cm前後に復元される。また、これらは長岡京期の土師器皿AⅡである16や軒丸瓦（29）、布目瓦（39）の他、瓦器片などとともにSK76から出土したものである。SK62出土の20・21は、土坑の東半から出土した土師器甕で、他に6世紀後半の須恵器杯蓋・身（17・18）や奈良時代の須恵器壺（19）などとともに出土している。

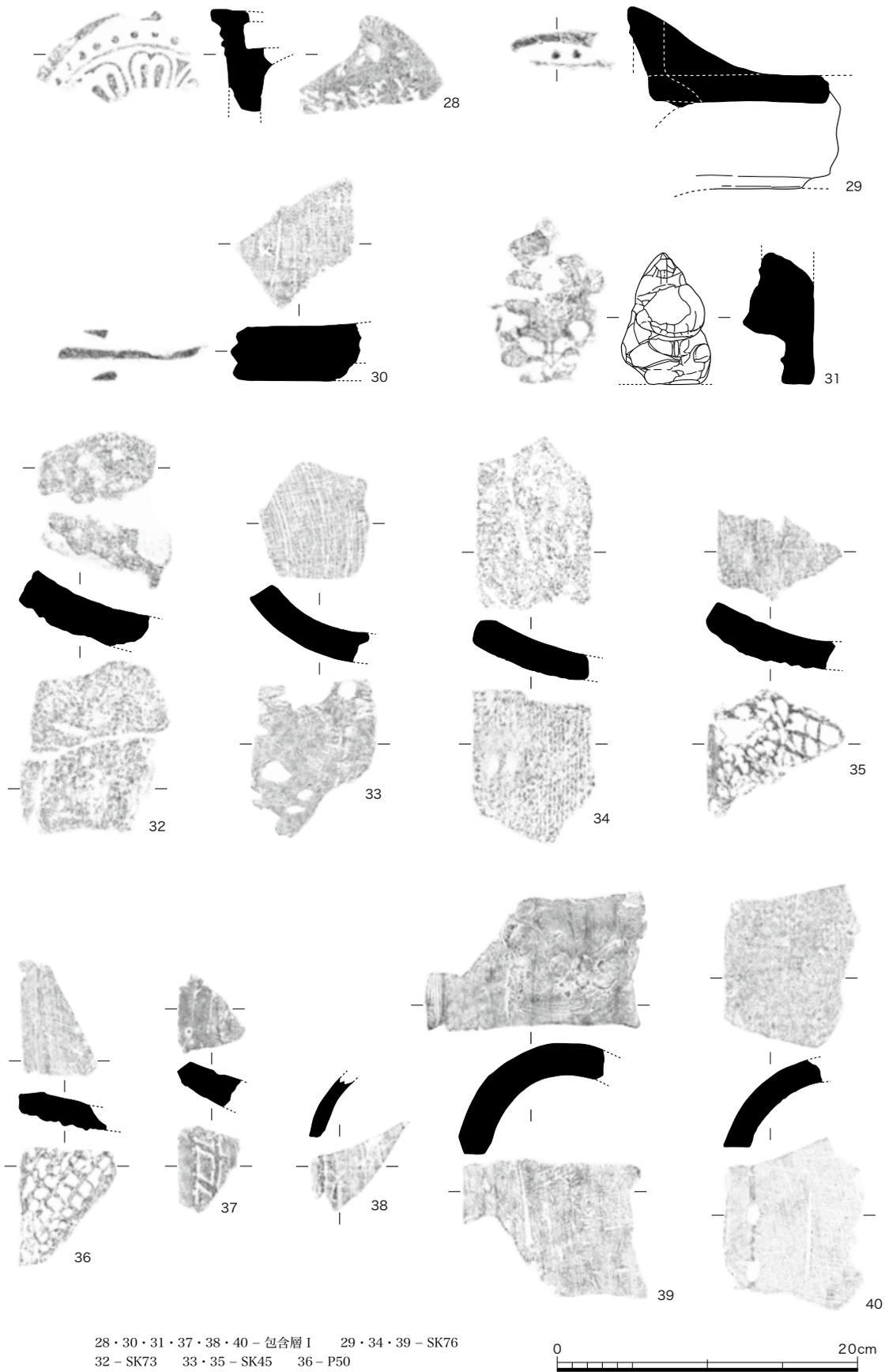
飛鳥時代～長岡京期の出土遺物

長岡京期を含むそれ以前の包含層Ⅱからは、22～25の遺物が出土している。いずれも須恵器で、22の杯Aの破片は内面と割れ面に漆が付着しており、破片の状態ですべて二次利用された可能性が高い。24は口径19.8cm、器高5.4cm、側面に三角形の透かしをもつ円面硯で、硯面に墨の痕跡残る。25は7世紀前半の杯G蓋である。また、長岡京期に推定されるSK45には、古墳時代後期のロクロナデ成形の須恵器壺底部（26）と土師器把手（27）の他、埋土中には布目瓦（33・35）が含まれていた。

瓦類は、軒丸瓦に瓦当面の外区外縁に連珠文を配し、内区に複弁蓮華文が残るもの（28）と、外区外縁のみが残存するもの（29）があり、三重弧文軒平瓦（30）も出土している。31は鬼瓦の鼻から前歯にかけての部位で、幅4.7cmの鼻には鼻の穴をくぼませている。鼻の下には2条のすじも表現されている。時期は不明であるが、これまでに見つかっているものとは形状が異なる⁽²⁾。また、出土した瓦類の多くは布目瓦であるが、凸面の縄目をナデ消すもの（32・33・38・39）と縄目を残すもの（34・40）、斜格子目タタキを施すもの（35・36）、一辺の間隔が広い斜格子目タタキを施すもの（37）が確認された。さらに37・38は硬質に焼成されており、複数の種類の瓦が利用されていたことがわかる。



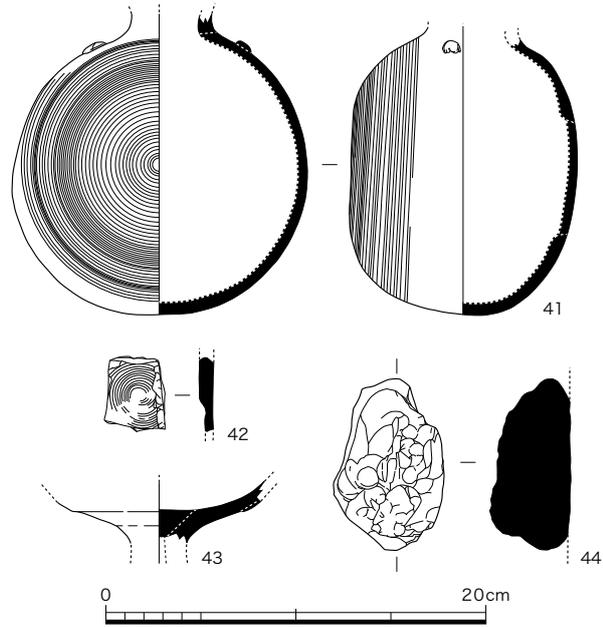
第12図 出土遺物実測図-1 (1/4)



第13図 出土遺物実測図-2 (1/4)

古墳時代の出土遺物

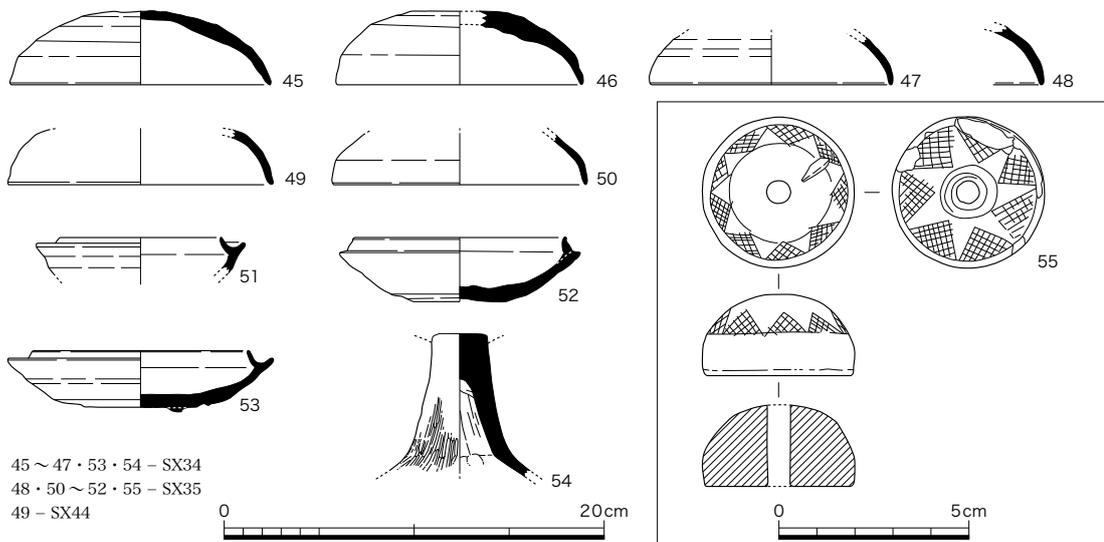
41～44はSK70、45～55はSX34・35・44、56～58はSK63、59・60はSK95、61はSX66、62はSX69から出土したものである。41は須恵器提瓶で、把手部分の表現が円形の粘土貼り付けた形状に形骸化している。外面はロクロナデとカキメで調整される。42も須恵器提瓶の一部で外面にカキメ、内面に棒状工具を押し当てた痕跡が残る。44は外面をナデで成形しているが、用途不明の土製品である高さ9cm、幅5.8cm分が残る。45～50・56・59の杯蓋は、口径12.6～13.8cm、内外面をロクロナデで



第14図 土坑SK70出土遺物実測図(1/4)

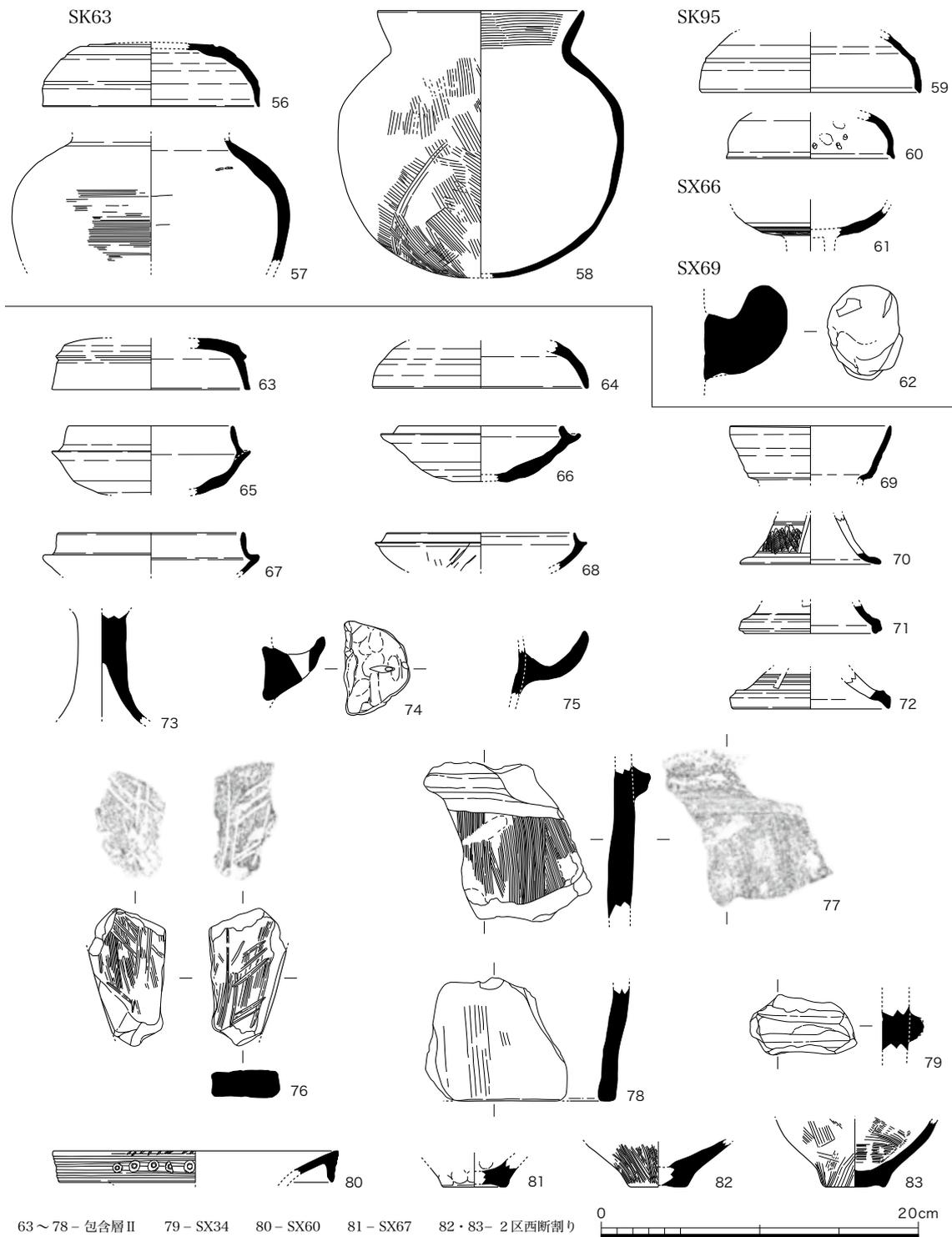
成形するもので、56や59のように肩部の稜が明瞭なものも見られる。51～53は口径8.4cmと11.2cm前後の杯身で、いずれも短く立ち上がる受け部をもつ。57は外面にカキメを施す須恵器壺、58は丸底の土師器甕、62は土師器の把手である。また、SX35出土の滑石製紡錘車(55)は、上部と下部に格子目の鋸歯文を線刻し、下部中央には穿孔のまわりにも円形の線を2～3重に施す。側面は磨り減って角が取れており、日常的に利用していたものであろう。

包含層Ⅱ埋土からも、須恵器杯蓋(63・64)、杯身(65～68)、壺(69)、高杯(70～72)、土師器高杯(73)、把手(74・75)が出土している。これらの遺物は、概ねTK10からTK209型式併行期にあたる。須恵器には、動物の爪のような痕跡である3つの刺突が60の内面に、引っ掻いたような痕が68の外面に見られる。また、SX34と包含層Ⅱからは埴輪片も出土しており、



45～47・53・54 - SX34
48・50～52・55 - SX35
49 - SX44

第15図 大型土坑群出土遺物実測図(1/4・1/2)



第16図 出土遺物実測図-3 (1/4)

76は蓋形埴輪の立飾り、77・78の円筒埴輪は外面を縦方向のハケメで調整している。77のタガは比較的明瞭な形状であり、いずれも6世紀の所産と考えられる。

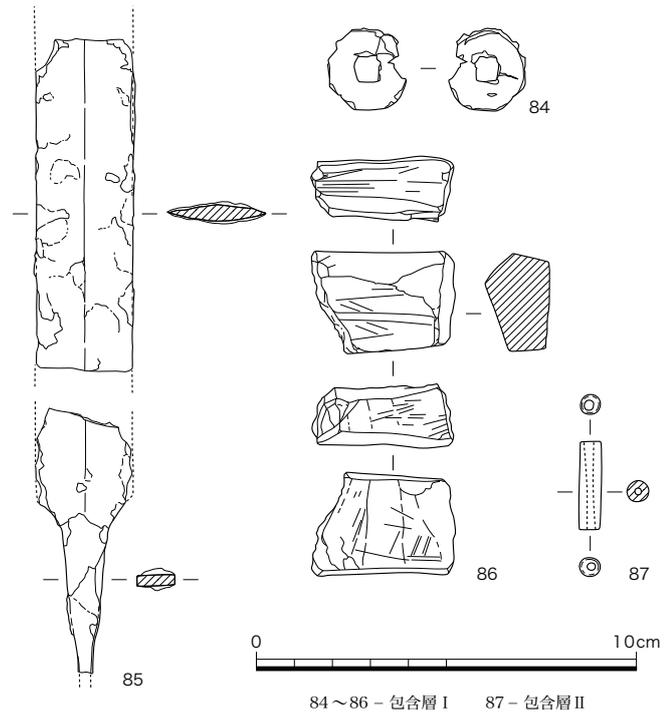
その他の出土遺物

僅かではあるが、弥生時代後期の壺の破片(80～83)も出土している。80は垂下した口縁

部に凹線文と円形浮文を施し、端部にキザミを入れている。底部は82は外面ミガキ、83は内外面をハケで調整する。

金属器には、84の銭貨が出土しているが、劣化により銘は不明である。また、包含層に混じって鉄剣(85)が出土している。幅2.5cm、茎部を含む長さ15.8cm分が残存する。時期は不明である。

石製品には、砥石(86)と管玉(87)があり、砥石は4面を利用している。管玉は径0.6cmの細身のもので、両側面から穿孔している。



第17図 出土遺物実測図-4 (1/2)

5 まとめ

本調査では、弥生時代から近世に至る乙訓寺および今里遺跡の遺構を検出した。このうち、乙訓寺に関連するものは近世・中世・長岡京期の遺構・遺物、今里遺跡に属するものは古墳時代・弥生時代の遺構・遺物があった。

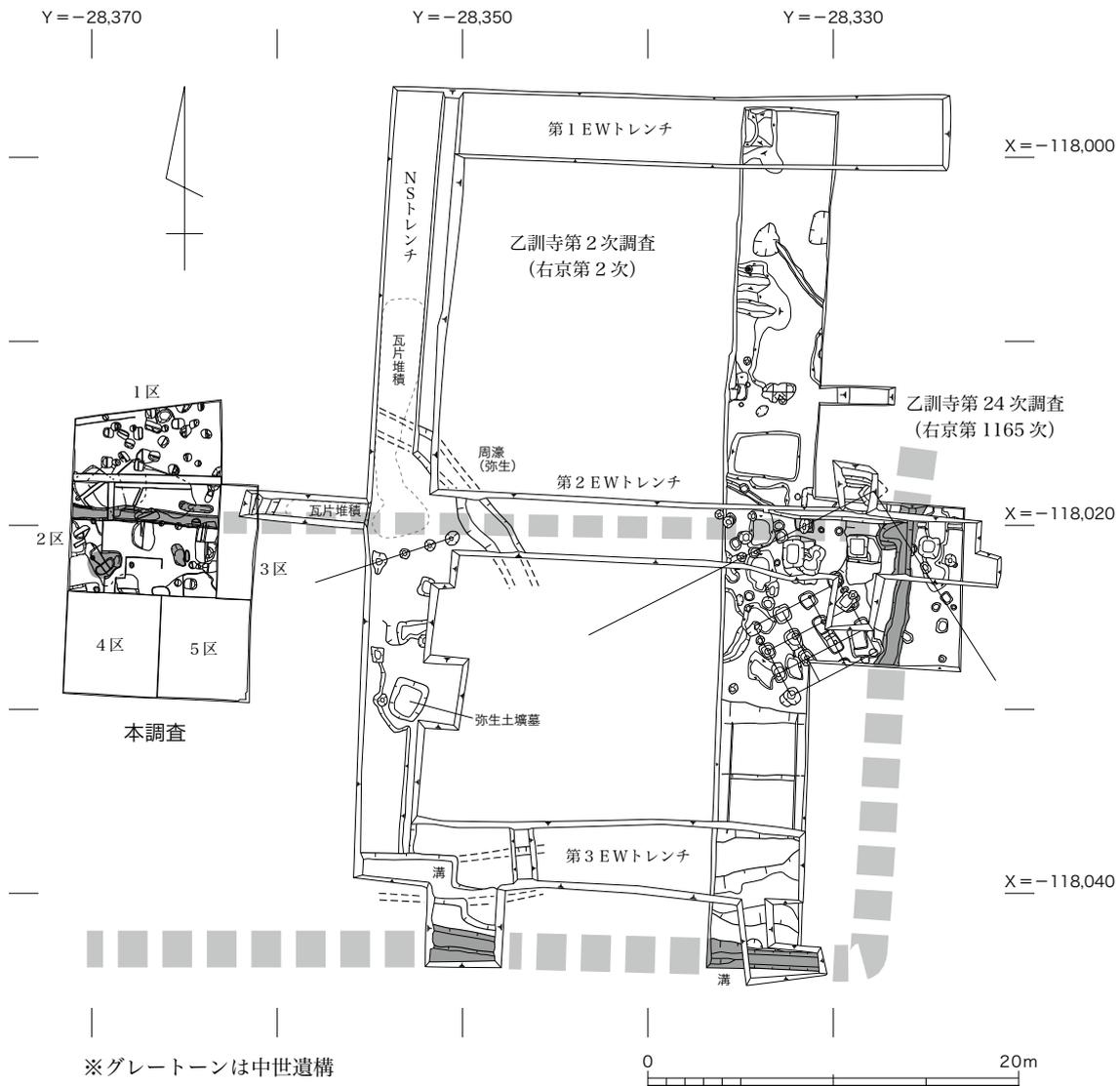
まず、乙訓寺関係から見ていくと、近世の整地及び遺構群は、江戸～明治時代の⁽³⁾絵図に「大聖院旧跡」や「大聖院跡」として記されている場所に該当するため、それに関連した施設や土地利用の一端を捉えている可能性がある。中世の区画溝SD15は、乙訓寺第24次調査で検出された現・東門につながる南北溝SD53に連結すると考えられる。また、これまでに確認されている現・南門につながる区画溝に対して、北側へ約23mに位置し、寺域の南側を溝によって二重に区画していたことが明らかとなった。つまり、現在の乙訓寺境内区画の南半は、中世段階にはほぼ同様の規格・規模であったことがわかる(第18図)。

一方、ほとんど詳細のわかっていない古代乙訓寺についても、正方位を指向する建物SB101や土坑群SK45・60・82が新たに確認された。明確に構造を復元する手掛かりを得たわけではないが、関連する時期の遺構が見つかった意義は大きいと言える。

また、下層遺構は、正方位に対し、斜め方位の柱穴や土坑が多い。これは旧地形の影響によるものと考えられ、時期は明確ではないが、古代乙訓寺の整備よりも古い遺構群になると推定される。特に、6世紀後半に推定される遺構群が高密度で検出されており、乙訓寺第24次の総柱建物SB51とそれを囲う柵などと合わせて考えると、この付近は古墳時代後期段階の拠点的な場所であったと言える。さらに、同時期の大型土坑群や土器が入れられた土坑、蓋形埴輪などの埴輪片が複数出土した点も注目される。

最後に、今回の調査成果をもとに、今後も継続的に調査することで古代乙訓寺の中心伽藍や関連施設の構造を解明していくことが、遺跡保護の一助になれば幸いである。

- 注1) 原 秀樹「長岡京跡右京第703次調査概要」『長岡京市報告書』第43冊 2002年
 大高義寛「乙訓寺第24次調査概要」『長岡京市報告書』第71冊 2018年
 2) 中尾秀正「乙訓寺の瓦」『向日市報告書』第20集 1987年
 3) 「今里村乙訓寺惣指図」(中井家文書)、「乙訓寺修営指図」(乙訓寺文書)、「乙訓寺境内指図」(乙訓寺文書)ほか



第18図 乙訓寺南東域関連調査検出遺構配置図 (1/400)

第2章 長岡京市内遺跡詳細分布調査概要

1 はじめに

- 1 本報告は、平成30(2018)年1月9日から3月30日までの平成29年度分、および平成30(2018)年4月2日から11月30日までの平成30年度に実施した詳細分布調査に関するものである。平成30年度のうち平成30(2018)年12月から平成31年3月末までの調査分^(注)に関しては次年度、また平成30年度の原因者負担金によって実施した立会調査については別途(『長岡京市埋蔵文化財センター年報』平成30年度)に報告する予定である。
- 2 調査は、平成30年度国庫補助事業として長岡京市教育委員会が主体となり、教育委員会から委託を受けた公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 3 調査にあたっては、工事の申請者や土地所有者をはじめ、工事施工業者の方々に種々のご理解とご協力を賜った。現地での調査は、中島皆夫、原秀樹、湯本整、岩崎誠、山本輝雄が担当した。
- 4 本報告の編集と執筆は、山本が行った。

2 調査概要

平成30年1月9日から11月30日までに実施した詳細分布調査は、総数307件であった。そのうち、平成29年度の下期にあたる1月9日から3月30日まで実施した調査は75件、平成30年度にあたる4月2日から11月30日までは232件である。

付表-2 遺跡別詳細分布調査件数一覧表(平成30年4月～11月)

遺跡名	件数	遺跡名	件数	遺跡名	件数
長岡京跡右京域	185	陶器町遺跡	6	長法寺遺跡	1
長岡京跡左京域	23	開田古墳群	6	脇山遺跡	1
長岡京跡関連遺跡	1	上里遺跡	5	十三遺跡	1
今里遺跡	22	井ノ内遺跡	5	西山田遺跡	1
奥海印寺遺跡	21	明星野遺跡	3	裕遺跡	1
開田遺跡	14	東代遺跡	2	谷山遺跡	1
雲宮遺跡	14	東代古墳群	2	光明寺古墳群	1
南栗ヶ塚遺跡	14	開田城ノ内遺跡	2	脇山遺跡	1
友岡遺跡	13	今里北ノ町遺跡	2	乙訓寺	1
海印寺跡	12	久保古墳群	2	舞塚古墳群	1
神足遺跡	11	鞆岡廃寺	2	長岡京域外	1
勝龍寺城跡	11	長法寺七ツ塚古墳群	1		
下海印寺遺跡	6	伊賀寺遺跡	1		

詳細分布調査の原因の大多数を占めているのが建築面積の小さな個人の住宅建設であり、その他に集合住宅や店舗の建設、それから宅地造成工事などといった民間主体の事業に加え、上下水道事業を除く長岡京市が計画した公共事業に関わる工事についても行っている。

調査地点は、長岡京市内一円に広く及んでいるが、遺跡別でみると、長岡京跡の右京域が185件であるのに対して、左京域は23件と非常に乏しい状況であり、長岡京域外にあたる奥海印寺遺跡が21件と近年増加の傾向が認められる。この他、長岡京跡と重複している遺跡としては、22件の今里遺跡を筆頭に、開田遺跡、雲宮遺跡、南栗ヶ塚遺跡が14件、次いで友岡遺跡が13件などと10件を超過するものが9遺跡ある他、6件の下海印寺遺跡や陶器町遺跡、開田古墳群なども比較的件数の多い部類に属している。

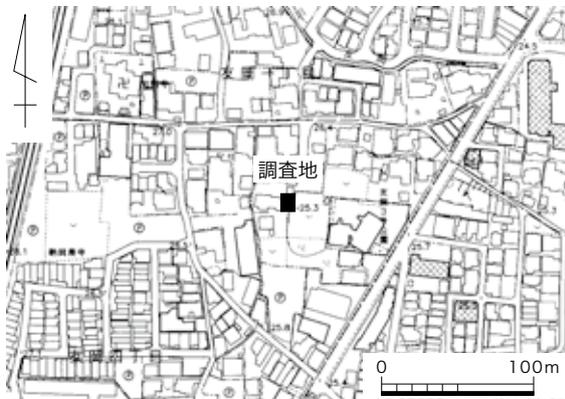
以下では、成果を得ることができた主要な調査について、平成29年度分と平成30年度分に分けてその概要を報告する。

3 主な調査成果

1. 平成29年度分

(1) 第17292次調査 (第19～22・29図、図版11(1))

本調査は、木造2階建ての個人住宅建設工事に伴い実施したものである。調査地は、友岡四丁目218-1に所在し、長岡京の条坊復原では右京八条三坊一町、および友岡遺跡にも相当する。



第19図 第17292次調査地位置図 (1/5000)



第20図 第17292次調査地全景 (南東から)



第21図 第17292次調査断面 (南東から)



第22図 第17292次調査断面 (南から)

当該地を地形的にみると、標高が25.5 m前後の低位段丘I上に立地している。

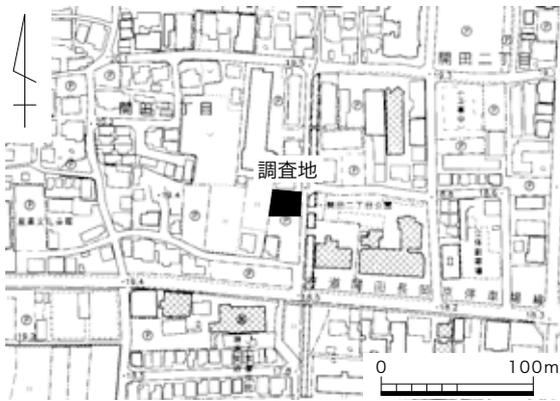
調査は、平成30年2月16日に実施した。調査地の現状は宅地であって、地表下約0.4 mまで表層地盤改良工事による掘削が行われた。旧建物の基礎などにより攪乱を受けている箇所も少なくなかったが、旧状が遺存している部分では地表下約0.2 mで橙褐色粘質土層の地山を検出し、それを掘り込んだ土坑状の窪みを確認した。形態や規模などは不明だが、埋土は炭が混じった茶褐色粘質土層であり、弥生土器や須恵器の杯B・甕、瓦器碗など弥生時代、長岡京期前後、そして中世に比定できる新旧の遺物が混在した状態で出土している。

第29図4は、弥生土器甕の口縁部から頸部にかけての破片で、口縁端部は丸くおさめている。全体的に摩滅しているが、外面には縦方向に施されたハケメの痕跡をとどめている。内面はナデ調整と考えられる。口径は約26 cmに復元でき、残存高は約10.4 cmであった。弥生時代中期に比定できるものであろう。

(2) 第17322次調査 (第23～29図、図版11(1))

本調査は、鉄骨2階建ての施設建設工事に伴い実施したものである。調査地は、開田三丁目207-5、227-12の一部に所在し、長岡京の条坊復原によると右京六条二坊七町に相当するとともに、縄文時代から近世にかけての重複遺跡である開田遺跡の範囲にも含まれる所で、地形的には小畑川がつくった標高が19 m前後ある扇状地上に立地していた。

調査は、平成30年3月22・23・26日の延べ3日間実施した。調査地の現状は宅地であり、



第23図 第17322次調査地位置図 (1/5000)



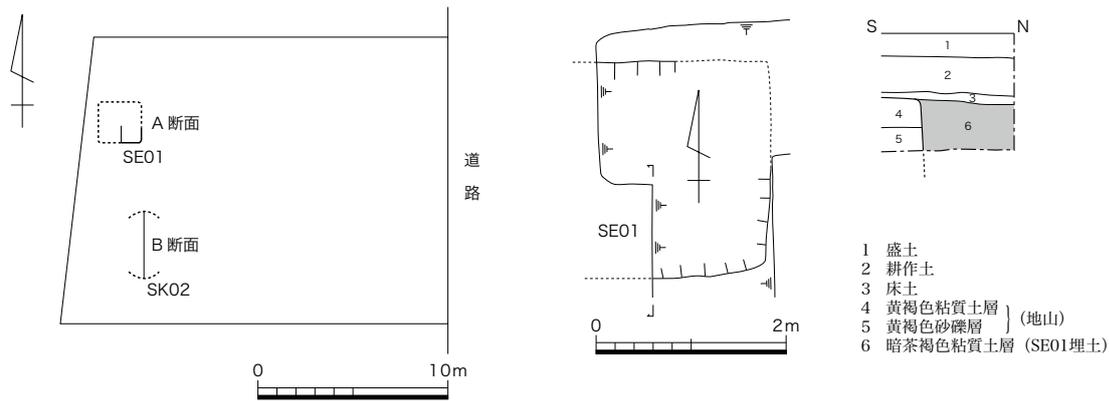
第24図 第17322次調査地全景 (東から)



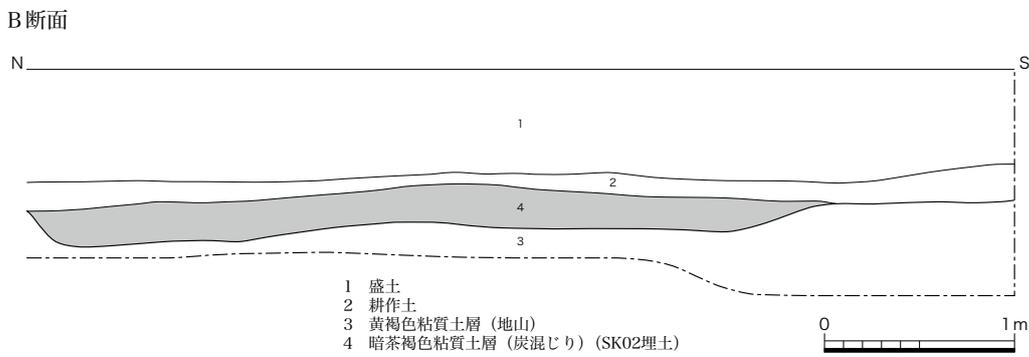
第25図 第17322次調査 SE01 (南東から)



第26図 第17322次調査 SK02 (西から)



第 27 図 第 17322 次調査平・断面略測図 (1/80・1/400)

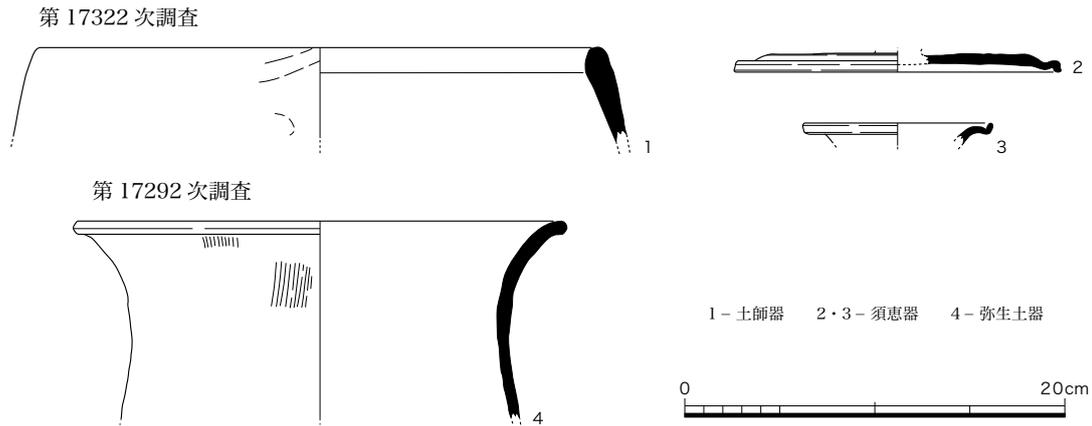


第 28 図 第 17322 次調査断面略測図 (1/40)

地表下 1 ~ 1.2 m までの掘削が行われた。基本層序は、上から盛土、耕作土、床土の順で堆積し、地表下約 0.7 m で黄褐色粘質土層の地山に至ることを確認し、この地山を掘り込んだ井戸 SE01、土坑 SK02 など右京六条二坊七町の宅地に関する遺構を検出することができた。

井戸 SE01 は、調査地の北西隅部において検出した。井戸の掘形は、方形を呈しており、東西 1.6 m 以上、南北約 2.2 m の規模に復原でき、掘形東辺の方位は、おおむね真北を向いているようである。掘形内の埋土は、暗茶褐色粘質土層のみであり、井戸側の痕跡を確認することができなかったことから、抜き取られた可能性が考えられる。遺物は、土師器や須恵器の破片が少量出土している。土坑 SK02 は、井戸 SE01 から南東部の東壁断面において確認したもので、形態は不明であるが、南北長約 4.2 m、深さ約 0.2 m の規模がある。埋土は、炭が混じった暗茶褐色粘質土層で、土師器や須恵器の破片が出土している。

第 29 図の 1・3 は土坑 SK02、2 は井戸 SE01 から出土したものである。1 は、土師質に焼成された移動式カマドの上縁部と考えられる破片である。残存高は約 5.1 cm、径は 29.5 cm に復元することができ、内外面ともナデ調整して仕上げ、外面には煤の付着が認められる。胎土に角閃石を含み、焦げ茶色を呈する特徴があることから、生駒西麓産のものと考えられる。2 は須恵器杯 B 蓋の口縁部片で、天井部のつまみを欠損している。口縁端部が屈曲する形態で、端部には重ね焼きの痕跡をとどめている。残存高は 1 cm、口径は 17.2 cm に復元できた。内面



第29図 出土遺物実測図-1 (1/4)

が平滑になっていることからみて、硯に転用された可能性が考えられる。3は須恵器壺Lの口縁部片で、口縁端部を受け口状に屈曲させている。残存高は約1.1cm、口径は約10cmに復元できる。これらの遺物は、いずれも長岡京期の時期に比定することができる。

2. 平成30年度分

(1) 第18034次調査 (第30～34図)

本調査は、木造2階建ての集合住宅建設工事に伴うものとして実施したものである。調査地は、今里一丁目4-3に所在し、長岡京跡右京四条二坊十四町および陶器町遺跡に相当する。地形的には、低位段丘I上に立地していて、地表面での標高は約30mを測る。

調査は、平成30年5月8・9日の2日間実施した。調査地の現状は宅地であって、表層地盤改良による掘削が地表下0.6～0.7mまで行われた。盛土の直下、地表下0.25～0.3mで橙褐色粘質土層の地山を検出し、それを掘り込んだ小穴や土坑などの遺構を平面および壁面で確認した。小穴と土坑は、形態や規模は多様であるが、深さは0.2m程度であった。小穴P1・P2、土坑SK03・SK04・SK09などからは、土師器の破片が少量出土しているが、細片のために形態はもとより明確な時期を判断することはできなかった。

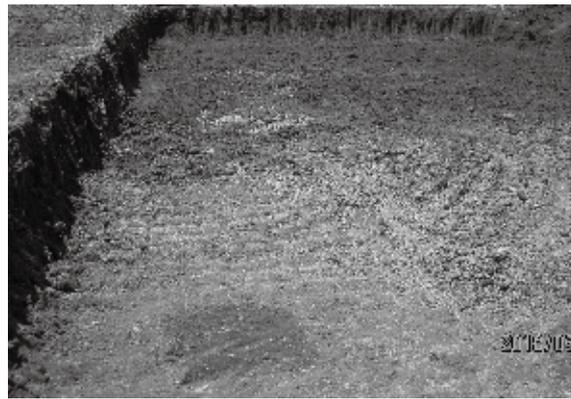
(2) 第18094次調査 (第35・36・53図、図版11(2))

本調査は、長法寺七ツ塚2号墳の除草作業が終了した後に遺跡パトロールとして実施したものである。2号墳は、長法寺北畠15に所在し、地形的には標高が50m前後の段丘を覆う扇状地上に立地するが、長岡京の条坊復原によると右京四条三坊三町にも相当していた。墳丘の大半は過去に大きく削平を受けてほとんど残存していないが、第5次調査(長岡京跡右京第604次調査)で北辺と西辺を画する幅約3mの周溝が確認され、一辺13m以上の方墳と考えられていた。

調査は、平成30年7月3日に実施したが、その際に須恵器甕の体部片を3点採集した。第53図5～7がそれで、6の外表面は平行タタキのみであるが、5・7はさらにカキメを加えて調整し、内面はいずれも同心円の当て具痕をとどめている。器壁の厚さは約0.5cmと薄いことから、それほど大きな甕ではない可能性が考えられる。胎土は緻密で、焼成は良好であった。副葬品の一部と考えられ、6世紀代のものと考えられるが、詳細な時期を特定できない。



第 30 図 第 18034 次調査地位置図 (1/5000)



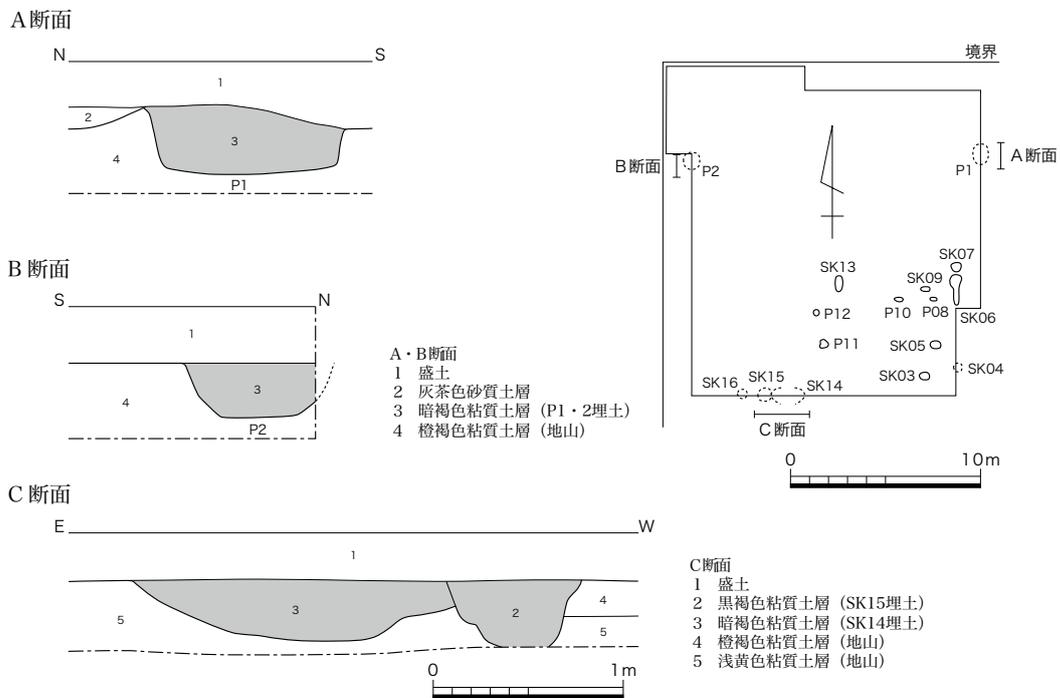
第 31 図 第 18034 次調査地全景 (東から)



第 32 図 第 18034 次調査 SK03 (東から)



第 33 図 第 18034 次調査 P1 断面 (西から)



第 34 図 第 18034 次調査平・断面略測図 (1/40・1/400)



第35図 第18094次調査地位置図 (1/5000)



第36図 第18094次調査地全景 (東から)



第37図 第18099次調査地位置図 (1/5000)



第38図 第18099次調査地全景 (南東から)



第39図 第18099次調査断面 (北東から)



第40図 第18099次調査断面 (西から)



第41図 第18109次調査地位置図 (1/5000)



第42図 第18109次調査地全景 (北西から)

(3) 第 18099 次調査 (第 37～40・53 図、図版 11 (2))

本調査は、鉄骨 2 階建ての店舗建設工事に伴うものとして実施したものである。調査地は、神足三丁目 105-2、105-3、137 に所在し、すぐ東側には府道御陵山崎線（新西国街道）が南北に走っている。長岡京の条坊復原では、右京七条一坊十六町で西一坊大路が想定されるとともに開田遺跡の範囲にも含まれており、地形的には標高 15.5 m ほどの低位段丘上に立地している。

調査は、平成 30 年 7 月 9・10・17 日の 3 日間実施した。調査地の現状は宅地であって、地表下 1.2～1.5 m まで掘削が行われた。基本層序は、上から盛土、暗灰褐色砂質土層の順で堆積しており、地表下 0.8～1.3 m で橙褐色粘質土層の地山を確認した。西辺の壁面では、地山を掘り込んだ小穴を、また東辺の壁面では厚さ約 0.15 m の黒褐色粘質土層の堆積を確認でき、この層から土師器と須恵器の破片が少量出土した。遺物包含層である可能性が濃厚だが、遺構の埋土、とりわけ西一坊大路の側溝と考える余地も残されている。

第 53 図 8 は、黒褐色粘質土層から出土した土師器皿 A の口縁部片で、口径は 15.9 cm に復元でき、外面調整のヘラケズリは口縁端部まで及んでいない。口縁端部に油煙の痕跡が認められることから、灯火器に転用されたものと考えられる。9 は、黒褐色粘質土層から出土した高台径 9.5 cm に復元できる須恵器杯 B の底部片で、8 とともに長岡京期に比定することができる。

(4) 第 18109 次調査 (第 41・42・54 図、図版 12)

平成 30 年 7 月 17 日、井ノ内在住の市民の方より平成 3・4 (1991・92) 年頃に採集した遺物を引き取ってほしい旨の連絡が当埋蔵文化財センターにあった。直ちに現地へ赴き、聞き取りと出土地点の状況などを遺跡パトロールとして実施した。出土地点は、井ノ内西ノ口に所在し、藪土の掘削作業中に出土したものというが、出土してからかなりの年月が経過していたため、明確な出土地点を特定するまでには至らなかった。当該地は、長岡京の条坊では右京二条三坊十五町および上里遺跡にも含まれていて、地形的には標高が 41 m 程度の低位段丘上に立地している。付近の調査では、弥生時代や古墳～飛鳥時代、中世など各時代にわたる遺構や遺物が確認されていた。採集されていた遺物は、整理箱に 1 箱あり、古墳時代から近世に至るまでのものが混在していた。主要な遺物を図示したものが第 54 図である。21 は、土師器炮烙の口縁部片で、口縁部下端に断面三角形の短い鍰を巡らせ、口縁端部を丸くおさめる。硬質に焼成されていて、口径は約 34 cm に復元でき、外面には煤の付着が認められる。22・23 は、染付碗の底部片で、22 は高台径約 3.6 cm、23 は高台径約 4.2 cm で、23 の内面には釉剥ぎの痕跡を認めることができる。24 は陶器碗の底部片で、回転ケズリによって調整した後に灰オリーブ色の釉を施しているが、底部外面には及んでいない。釉には貫入が認められ、内面にトチンの痕跡をとどめている。高台径は約 11.8 cm に復元でき、残存高は約 6.1 cm ある。26 は、土師器壺の底部片と考えられるもので、高台径は 15.4 cm に復元できた。25 は瓦器碗の口縁部片で、口縁端部内面に沈線を 1 条巡らせている。内外面のヘラミガキは粗雑であり、口径 14.3 cm に復元できる。27 は、土師器の杯 B 蓋と考えられる形態で、天井頂部のつまみを欠損する。外面をヘラケズリ調整した後にヘラミガキを付加して仕上げている。口径は、約 15.2 cm に復元でき、残存高は約 2.1 cm であった。

28は土師器の甕片で、くの字状に屈曲する頸部と大きく開く口縁部からなる形態である。全体に摩滅しているため、調整は不明瞭であり、口径は17.8cmに復元できた。29～31は須恵器杯身（杯H）で、いずれも立ち上がりが短く内傾し、底部は若干丸味を帯びる形態である。29は、口径約9cm、器高約3.3cmに復元でき、底部外面には焼成前にヘラ記号を施している。30は、口径約11cm、器高約3.7cmに復元できる。31は口径10.6cmで、軟質に焼成され、重ね焼きの痕跡をとどめる。32は須恵器杯蓋（杯H蓋）の天井部と考えられる破片で、外面は回転ヘラケズリを施して調整している。33は、天井部のつまみを欠損する須恵器杯蓋（杯G蓋）で、口縁部内面にかえりを付加している。口径約11.6cmに復元でき、天井部全体に自然釉の付着が認められる。34・35は、底部に高台を貼り付けた須恵器杯Bで、34は口径14.2cm、器高3.5cmに復元できる。35は、高台径9.9cmを測り、外面には薄く付着した自然釉が認められる。36は平瓶の口縁部片で、口径は8.2cmに復元でき、外面には自然釉の付着が認められる。37は、外側に張り出す高台をもつ須恵器壺の底部片で、高台径は8.4cmある。38も、須恵器壺の底部片と考えられるもので、平底の底部径は8.2cmに復元できた。39～41は、須恵器甕の体部片で、内面には同心円の当て具痕が明瞭に残り、外面は平行タタキを施した後にカキメを加えて調整している。硬質に焼成されていて、色調は灰色を呈している。以上の遺物のうち、21～24・26は江戸時代、25は鎌倉時代、27・34・35・37・38は長岡京期前後、そして28～33・36は飛鳥時代に比定することができよう。

(5) 第18111次調査（第43・44図）

本調査は、鉄骨2階建ての個人住宅建設工事に伴って実施したものである。調査地は、JR長岡京駅より南方約450mにあたる東神足二丁目17の一部に所在する。地形的には低位段丘I上に立地していて、標高にすると約15.5mを測る。長岡京の条坊では、右京七条一坊七町および神足遺跡、さらには勝龍寺城跡の範囲にも相当する。

調査は、平成30年7月18日に実施した。調査地の現状は宅地であって、地表下約1.5mまで掘削された結果、地表下約0.5mで黄橙色粘質土層の地山を検出し、その上面から掘り込まれた溝を1条確認した。この溝は、北西から南東の方向に延びていて、溝幅は不明だが、深さは約0.5mの規模に復元できた。溝の埋土は、黒褐色粘質土層であったが、出土した遺物がないために時期を確定するまでには至らなかった。溝の方位などからみて、これまで周辺の発掘調査などで確認されている弥生時代中期の方形周溝墓になる可能性も考えられる。

(6) 第18113次調査（第45・46図）

本調査は、木造2階建ての個人住宅建設工事に伴って実施した。調査地は、中山修一記念館の南方約100mに位置する久貝三丁目13-5に所在しており、長岡京の南部地域にあたる右京九条一坊十五町に想定される。さらに当該地は、南栗ヶ塚遺跡や久保古墳群の範囲にも含まれている所であって、地形的には標高が17m前後ある高位段丘上に立地している。

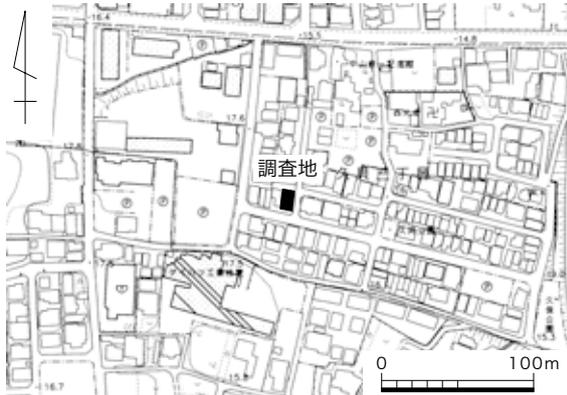
調査は、平成30年7月18日に実施した。調査地の現状は宅地であり、地表下約0.8mまでの掘削が行われた。盛土の下、地表下約0.6mで黄橙色粘質土層の地山を確認し、その上面で小



第 43 図 第 18111 次調査地位置図 (1/5000)



第 44 図 第 18111 次調査断面 (南から)



第 45 図 第 18113 次調査地位置図 (1/5000)



第 46 図 第 18113 次調査地全景 (南から)



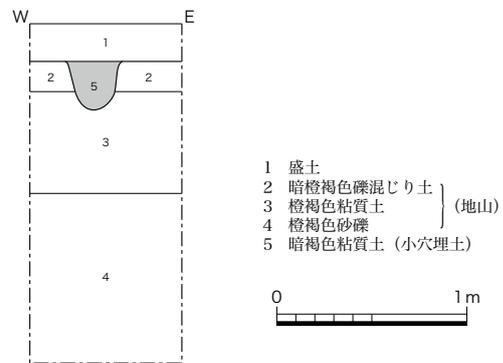
第 47 図 第 18136 次調査地位置図 (1/5000)



第 48 図 第 18136 次調査地全景 (南から)



第 49 図 第 18136 次調査断面 (南から)



第 50 図 第 18136 次調査断面略測図 (1/40)

穴4基と土坑1基を検出することができた。いずれの遺構からも遺物は出土していないため、時期を決める情報はないが、埋土が黒褐色粘質土層（土坑と小穴1基）と黄褐色粘質土層（小穴3基）の二者あることから、少なくとも2時期の遺構が重複していると考えられる。

(7) 第18136次調査（第47～50図）

本調査は電柱設置工事に伴うものとして実施したものである。調査地は、今里一丁目地内に所在し、右京四条二坊十四町および陶器町遺跡に相当する。地形的には、低位段丘上に立地していて、先に述べた第18034次調査地のすぐ南側に位置している。

調査は、平成30年8月9日に実施した。調査地の現状は宅地であって、地表下約1.5mまで掘削が行われた。地表下約0.2mの盛土直下で暗橙褐色礫混じり土層の地山を確認し、それを掘り込んだ小穴を1基検出した。小穴は、東西約0.28m、深さ約0.25mの規模があり、埋土は暗褐色粘質土層であったが、出土した遺物が無いため、時期を決定することはできなかった。電柱の設置工事という狭小な調査であっても、遺構が確認できたことは注目すべきであろう。

(8) 第18141次調査（第51～53図、図版12）

本調査は、宅地造成工事に伴い実施したものである。調査地は、神足垣外ヶ内1、1-1に所在し、長岡京の左京六条一坊六町にあたることはもとより、雲宮遺跡に範囲内にも含まれていた。地形的にみると、小畑川がつくった扇状地上に立地しており、地表面の標高は14m前後を測る。

調査は、平成30年8月22日に実施した。調査地の現状は水田で、敷地の東辺と西辺の擁壁敷設工事に伴い地表下約0.6mまでの掘削が行われた。耕作土の下、地表下約0.2mで黄橙シルト層、地表下約0.35mで褐色粘質土層の堆積を確認し、両土層から遺物が少量出土した他、工事の上げ土からも土師器や須恵器、瓦器などの遺物を採集している。

第53図10～18のうち、褐色粘質土層から出土した12以外は、すべて上げ土から採集されたものである。10～12は、いずれも土師器の皿である。10は、口径8cm、器高1cmに復元できる小皿。11は、口径13cm、器高1.8cmあり、口縁端部に油煙の痕跡をとどめる。12は、口径22.4cm、器高1.7cm前後あり、口縁端部を肥厚させている。外面のヘラケズリは、口縁端部まで及んでいない。13・14は、須恵器の杯Bの底部片である。高台径は13が11.2cm、14が12cmに復元できた。15は、須恵器の鉢で、東播系のものと考えられる。口径は33.9cm、残存高は3.5cmを測り、口縁端部外面には重ね焼きの痕跡をとどめている。16～18は、瓦器碗の破片である。体部外面は未調整であるが、口縁部外面と内面をナデ調整し、内面はさらに粗雑なヘラミガキを加えて仕上げている。16は、口径12cmと小型品であるが、17は、15cm、18は14.4cmと口径は拮抗する。口縁端部は、16と18が丸く収めているのに対して、17は沈線を1条巡らせる特徴がある。以上の土器類のうち、10・15～18は鎌倉時代、11～14は、長岡京期に比定することができる。

(9) 第18175次調査（第55・56図）

本調査は、宅地造成工事に伴って実施したものである。調査地は、久貝二丁目616-1他に所在し、長岡京跡右京八条一坊十一町および南栗ヶ塚遺跡の範囲にも含まれていた。地形的には、

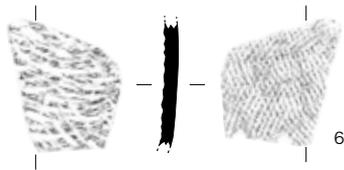


第 51 図 第 18141 次調査地位置図 (1/5000)



第 52 図 第 18141 次調査断面 (南から)

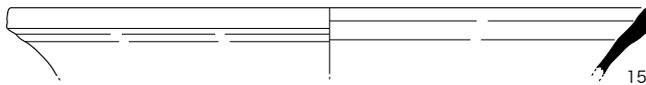
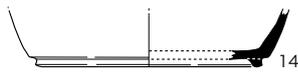
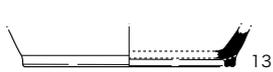
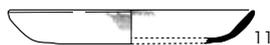
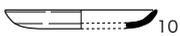
第 18094 次調査



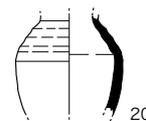
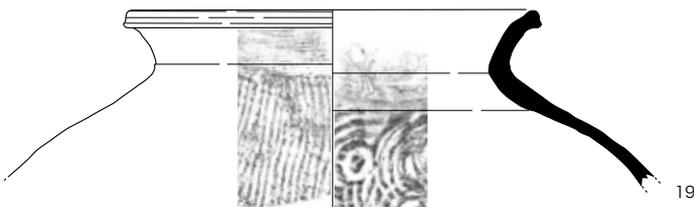
第 18099 次調査



第 18141 次調査



第 18249 次調査

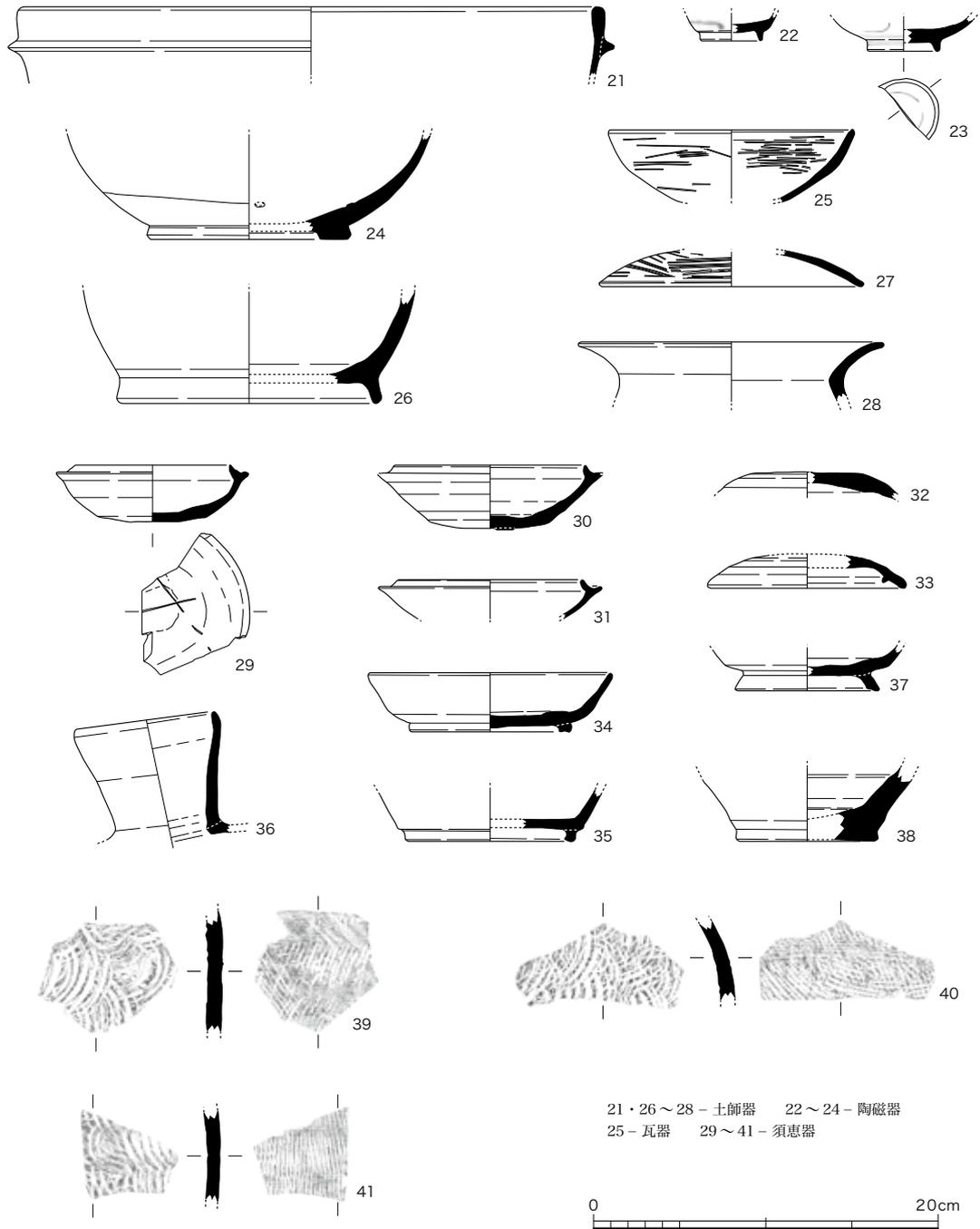


5 ~ 9 · 13 ~ 15 · 19 · 20 - 須恵器 10 ~ 12 - 土師器 16 ~ 18 - 瓦器



第 53 図 出土遺物実測図-2 (1/4)

第 18109 次調査



第 54 図 出土遺物実測図-3 (1/4)

標高が 12 m 前後の後背湿地上に立地している。

調査は、平成 30 年 9 月 28 日および 10 月 1 日に実施した。調査地の現状は水田であり、表層地盤改良工事に伴い地表下 0.4 ～ 0.6 m までの掘削が行われた。敷地の北部と南部とは土層が大きく異なり、前者では耕作土、床土、黒褐色礫混じり土層の堆積が認められ、黒褐色礫混じり土層から弥生土器や土師器の小片が少量出土している。一方、後者は耕作土の下に灰褐色砂質土層、暗茶褐色粘質土層の堆積を確認できたが、遺物は全く出土しなかった。



第 55 図 第 18175 次調査地位置図 (1/5000)



第 56 図 第 18175 次調査地全景 (南西から)



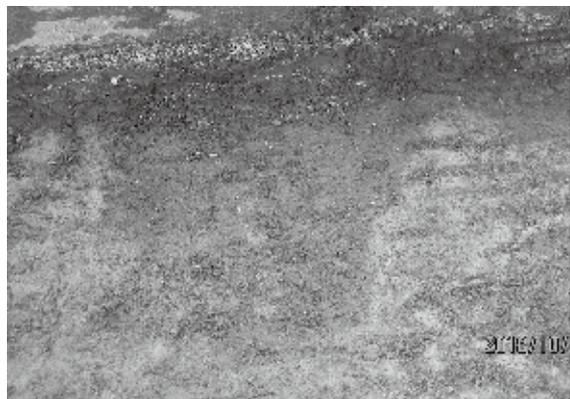
第 57 図 第 18185 次調査地位置図 (1/5000)



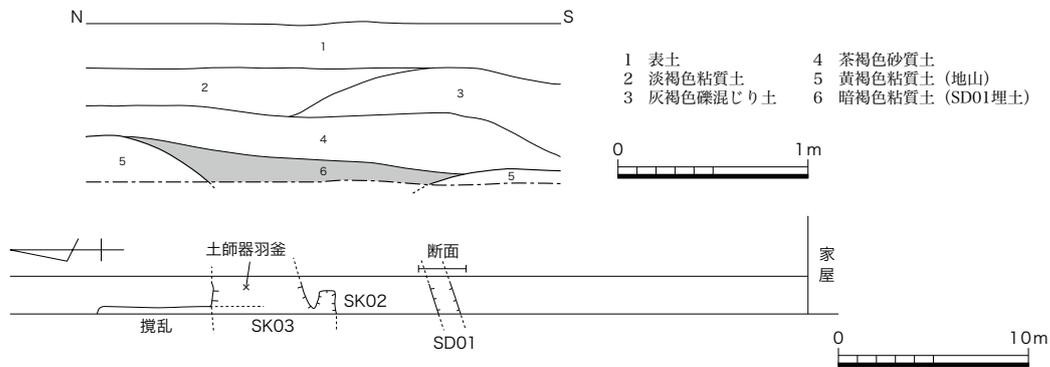
第 58 図 第 18185 次調査地全景 (北から)



第 59 図 第 18185 次調査 SD01 (南西から)



第 60 図 第 18185 次調査 SK02 (東から)



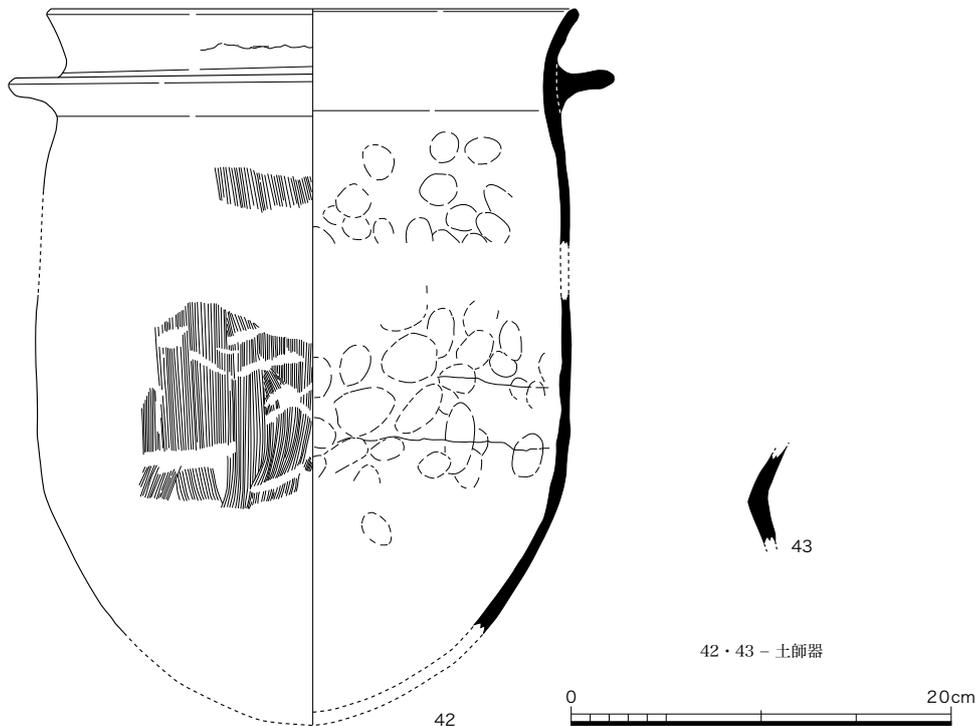
第 61 図 第 18185 次調査平・断面略測図 (1/40・1/400)

(10) 第18185次調査 (第57～62図)

本調査は、側溝敷設工事に伴う調査として実施したものである。調査地は、右京第1178次調査地に隣接する長岡一丁目511-3他に所在し、地形的には標高が24mほどの低位段丘上に立地している。当該地は、長岡京の右京五条二坊七町にあたることはもとより、古墳時代中期後半から後期にかけて形成された開田古墳群の範囲にも相当し、すぐ西側では埋没した開田10号墳と11号墳が発掘されている。

調査は、平成30年10月16・17日の2日間行った。調査地の現状は宅地で、幅約1.8m、深さが地表面下0.65～0.85mまでの掘削が行われた。地表下0.35～0.6mで黄褐色粘質土層の地山を検出し、地山を掘り込んだ溝SD01、土坑SK02・03などの遺構を検出した。溝SD01は、幅約1.2m、深さ0.25m以上の規模があり、南西から北東の方向に延びていた。埋土は、暗褐色粘質土層であり、土師器甕の小片が出土している(第62図43)。方墳の周溝になる可能性が考えられる。土坑SK02・03は南北に連結する不整形な形態で、SK02から遺物は出土しなかったが、SK03からは土師器の羽釜が1個体横位の状態で出土した。

第62図42は、土坑SK03から出土した土師器の羽釜で、外湾気味に立ち上がる口縁部の下端に3cm程度突出する齔を貼り付けている。口縁部の内外面は、ヨコナデを施して仕上げ、体部は外面をタテハケ、内面をナデとユビオサエして調整する。胎土に角閃石を含み、焦げ茶色を呈していることから、生駒西麓産のものと推察することができる。口径約28cm、齔径は約32cmに復元でき、齔より下には煤の付着がわずかに認められる。長岡京期の所産と考えられる。



第62図 出土遺物実測図-4 (1/4)

付表-3 長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-1 (平成30年1月~3月)

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
17257	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	神足森本 23-4	木造2階建	1月9日	柱状地盤改良済み。GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17258	長岡京跡右京七条一坊	神足太田 1-39	木造2階建	1月9日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17259	長岡京跡右京八条四坊	泉ヶ丘 27-30 地内	電柱支線設置	1月10日	GL-120cmの掘削、盛土のみを確認。
17260	長岡京跡右京三条四坊長法寺七ツ塚古墳群	長法寺北畠 23-12	木造2階建	1月10日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17261	長岡京跡右京三条四坊長法寺七ツ塚古墳群	長法寺北畠 23-11	木造2階建	1月10日	GL-40cmの掘削、盛土のみを確認。
17262	長岡京跡右京八条一坊勝龍寺城跡	勝竜寺 118-19	木造2階建	1月10・18日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17263	長岡京跡左京八条一坊	城の里 17-3 の一部	鉄骨2階建	1月11日	GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
17264	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺川向井 5-17 No9	木造2階建	1月15日	GL-40cmの掘削、盛土のみを確認。
17265	長岡京跡右京八条一坊	下海印寺川向井 5-19 No10	木造2階建	1月15日	GL-45cmの掘削、盛土のみを確認。
17266	長岡京跡右京四条一坊	柴の里 1-146	木造2階建	1月15日	GL-30cmの掘削、GL-30cmで黄褐色砂礫層の地山?を確認。
17267	長岡京跡右京六条四坊下海印寺遺跡	奥海印寺坂ノ尻 3-3	木造2階建	1月18日	柱状地盤改良工事、工法的に土層観察は不可であった。
17268	奥海印寺遺跡	奥海印寺新郷 1-9	木造2階建	1月22日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17269	奥海印寺遺跡	奥海印寺新郷 1-10	木造2階建	1月22日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17270	奥海印寺遺跡	奥海印寺新郷 1-8	木造2階建	1月23日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17271	奥海印寺遺跡	奥海印寺新郷 1-5	木造2階建	1月23日	既に工事は終了していた。GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17272	長岡京跡右京四条四坊長法寺七ツ塚古墳群	長法寺北畠 19-1、19-10、17-1 地内	電柱設置	1月23・24日	GL-340cmの掘削。盛土、黄褐色砂礫層、灰白色粘土層の堆積を確認。黄褐色砂礫層と灰白色粘土層は地山の可能性が濃厚である。
17273	長岡京跡右京四条四坊長法寺遺跡	長法寺中畠 18-22	木造2階建	1月24日	既に基礎工事は終了していた。
17274	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 301-28	木造3階建	1月24日	既に基礎工事は終了していた。
17275	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 26-40	木造2階建	1月25日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cmまでの掘削、盛土の範囲に収まる。
17276	長岡京跡右京七条四坊西山田遺跡	下海印寺西山田地内	側溝改修	1月29~31日 2月2・7日	GL-40~70cmの掘削、盛土のみを確認。
17277	長岡京跡右京二条三坊今里遺跡 井ノ内遺跡	井ノ内南内畑町 27-17	木造2階建	1月30日	GL-45cmの掘削、GL-40cmで黄褐色粘質土層の地山を確認。
17278	長岡京跡右京三条二坊今里遺跡	今里畔町 13-24	木造2階建	1月31日	GL-10cmの掘削、盛土のみを確認。
17279	長岡京跡右京八条一坊南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 402-10	木造2階建	2月1日	GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
17280	長岡京跡右京六条一坊開田遺跡 開田古墳群	開田二丁目 31-4、31-10	鉄骨2階建	2月1日	GL-40cmの掘削、盛土のみを確認。
17281	長岡京跡右京四条三坊陶器町遺跡	長岡三丁目 2 1-7 地内	電柱支線設置	2月2日	GL-180cmの掘削、掘削底面付近で黒色系のよく締まる粘質土層を確認。
17282	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目 8 の一部、8-2 の一部、8-5 の一部、23-2 の一部、24-9 の一部	木造2階建	2月5・7日	柱状地盤改良工事、GL-130cmの掘削、工法的に土層観察は不可。GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
17283	長岡京跡右京八条二坊	緑が丘 29-13 地先	電柱設置	2月6日	GL-300cmの掘削、深度は不明だが、盛土の下に黄褐色粘質土層の地山を確認。
17284	長岡京跡右京三条四坊 長法寺七ツ塚古墳群	長法寺北畠 28-3	木造2階建	2月6日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17285	長岡京跡右京七条四坊	梅が丘三丁目 118-1	木造2階建	2月9日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17286	長岡京跡右京三条四坊 今里遺跡	今里彦林 15-15	木造2階建	2月13日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17287	長岡京跡右京七条三坊	花山一丁目 58	鉄骨2階建	2月13日	GL-70cmの掘削、盛土のみを確認。
17288	長岡京跡右京七条一坊 勝龍寺城跡	勝龍寺 103-170	木造2階建	2月13日	GL-40cmの掘削、盛土のみを確認。
17289	長岡京跡右京二条二坊	西の京 15-98	木造3階建	2月14日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17290	長岡京跡右京九条三坊 南栗ヶ塚遺跡 畷遺跡	調子三丁目 1-1	鉄骨2階建	2月15日	GL-70cmの掘削、GL-55cmで茶褐色礫混じり土層の堆積層を確認したが、この層は盛土の可能性がある。
17291	長岡京跡右京四条三坊 陶器町遺跡	長岡三丁目 105-35	木造2階建	2月15日	GL-35cmの掘削、盛土のみを確認。
17292	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡	友岡四丁目 218-1	木造2階建	2月16日	本文に掲載。
17293	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	友岡三丁目地内	側溝改修	2月20～22日 3月7・9・ 15・16・19・ 20・23日	GL-70～90cmの掘削、盛土のみを確認。
17294	長岡京跡左京八条一坊	城の里 28-13	木造3階建	2月21日	GL-30cm、部分的にGL-120cmまでの掘削、GL-90cmで耕作土を確認。
17296	長岡京跡右京四条三坊 陶器町遺跡	長岡三丁目 302-7	木造3階建	2月20日	GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
17297	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目 439-3	木造2階建	2月20日	GL-20cmの掘削、盛土のみを確認。
17298	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	開田四丁目 34-15	木造2階建	2月21日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17299	長岡京跡左京八条一坊	城の里 28-17	木造3階建	2月21日	GL-100cmの掘削、盛土のみを確認。
17300	長岡京跡右京二条二坊	西の京 2-20	木造3階建	2月23・27日	柱状地盤改良工事、GL-450cmまでの掘削、工法的に土層観察は不可。GL-50cm、一部GL-80cmの掘削、盛土のみを確認。
17301	奥海印寺遺跡	奥海印寺新郷 1	木造2階建	2月26日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17302	奥海印寺遺跡	奥海印寺新郷 1-6	木造2階建	2月26日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17303	奥海印寺遺跡	奥海印寺新郷 1-7	木造2階建	2月26日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17304	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘二丁目 65	鉄骨2階建	2月26日 3月26日	敷地東辺の擁壁工事、GL-180cmの掘削、GL-110cmで褐色系の砂層からなる地山（大阪層群）を確認。GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
17305	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	神足三丁目地内	河川改修	2月27・28日 3月6・7・ 9・12～14・ 19・23・ 26～30日	GL-230cmの掘削、盛土のみを確認。
17308	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	友岡三丁目 31	木造1階建	2月28日	GL-40cmの掘削、盛土のみを確認。
17309	長岡京跡左京七条二坊 雲宮遺跡	神足暮角 1-1	鉄骨1階建	3月1日	坪掘り10ヶ所、GL-70cmまでの掘削、いずれも盛土内に収まる。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
17310	長岡京跡右京五条一坊 開田古墳群	開田一丁目 23-3	木造 2 階建	3 月 1 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
17311	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘一丁目 71-9	木造 2 階建	3 月 5 日	既に基礎工事は終了していた。
17312	奥海印寺遺跡	奥海印寺八戸木 14-6	木造 2 階建	3 月 6 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
17313	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 22-16 (22 号地)	木造 2 階建	3 月 8・13 日	表層地盤改良工事、GL-140cm までの掘削、盛土内に取まる。GL-20～40cm の掘削、GL-20cm で厚さ約 20cm の耕作土を確認。
17314	長岡京跡右京五条一坊	一文橋一丁目 20-24	木造 2 階建	3 月 8・19 日	柱状地盤改良工事、GL-450cm の掘削、工法的に断面観察は不可であった。GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
17315	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡 開田古墳群	開田三丁目 3-21 地先	電柱設置	3 月 9・12 日	試掘、GL-160cm の掘削、GL-40cm で暗褐色粘質土層、GL-55cm で橙褐色粘質土層の地山を確認。
17316	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12-15 (7 号地)	木造 2 階建	3 月 12 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
17317	長岡京跡右京四条一坊	一文橋一丁目 9-1	木造 2 階建	3 月 12 日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
17318	長岡京跡右京六条四坊 谷田遺跡	奥海印寺太鼓山 15-2	木造 2 階建	3 月 14 日	GL-20cm の掘削、盛土直下で黄褐色粘質土層を確認したが、地山か盛土かは不明。
17319	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12-5、12- 13、13-7 (5 号地)	木造 2 階建	3 月 14 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
17320	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 27-15	木造 2 階建	3 月 19 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
17321	長岡京跡左京七条一坊	神足太田 1-36	木造 2 階建	3 月 19 日	GL-150cm の掘削、盛土のみを確認。
17322	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	開田三丁目 207-5、227- 12 の一部	鉄骨 2 階建	3 月 22・23・ 26 日	本文に掲載。
17323	長岡京跡右京五条四坊 長法寺遺跡	長法寺力池 4-3、4-7 地 内	電柱設置	3 月 22 日	既にアースの掘削工事は終了していた。
17324	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足森本 17-28	鉄骨 3 階建	3 月 23 日	柱状地盤改良済み、GL-70cm の掘削、盛土のみを確認。
17326	長岡京跡右京五条四坊 長法寺遺跡	長法寺力池 4-4	木造 2 階建	3 月 28・29 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
17328	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺下内田 1-1 の一 部、1-2 の一部	鉄骨 3 階建	3 月 28 日	GL-20cm の掘削、耕作土内に取まる。
17329	長岡京跡右京七条三坊	花山一丁目 58	鉄骨 2 階建	3 月 29 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
17330	長岡京跡右京四条四坊	今里細塚 8-15	鉄骨 2 階建	3 月 29 日	柱状地盤改良工事、GL-260cm までの掘削、深度は不明だが、地山とみられる黄褐色粘質土層の堆積を確認。
17331	長岡京跡右京四条四坊 長法寺遺跡	長法寺中畠 6-6	木造 2 階建	3 月 30 日	GL-40cm の掘削、GL-35cm で耕作土を確認。

付表-4 長岡京市内遺跡詳細分布調査一覧表-2 (平成30年4月～11月)

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18001	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12-25、16-4 (19号地)	木造2階建	4月2日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cm、一部GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
18002	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12-18、13-10 (10号地)	木造2階建	4月2日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
18003	長岡京跡右京四条四坊	長法寺祭ノ神2番4	木造2階建	4月2日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
18004	長岡京跡右京六条二坊開田遺跡	開田三丁目10-2	木造2階建	4月2日	既に基礎工事は終了していた。GL-20cmの掘削、盛土内に収まる。
18005	長岡京跡右京五条四坊	天神三丁目42-17	木造2階建	4月3日	柱状地盤改良工事済み、GL-15cmの掘削、盛土のみを確認。
18006	長岡京跡右京五条一坊	馬場二丁目407-4地先	電柱設置	4月5日	試掘、GL-150cmの掘削、盛土のみを確認。
18007	長岡京跡右京七条四坊下海印寺遺跡	下海印寺北条30-1、31-1の一部	木造2階建	4月9・16日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cmの掘削、盛土内に収まる。
18008	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊18-3地内	電柱支線設置	4月10日	GL-180cmの掘削、盛土のみを確認。
18009	奥海印寺遺跡	奥海印寺竹ノ下11-36	木造2階建	4月10日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cmまでの掘削、盛土内に収まるようである。
18010	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目7-27	木造2階建	4月11日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
18011	長岡京跡右京六条二坊開田遺跡	開田三丁目2地先	電柱設置	4月16日	電柱2箇所試掘、控え1箇所本掘、電柱はGL-150cm、控えはGL-180cmまでの掘削、いずれも盛土内に収まる。
18012	長岡京跡右京六条一坊神足遺跡、開田古墳群	神足一丁目1の一部、3-1の一部	木造2階建	4月16日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cm、一部GL-50cmまでの掘削、盛土内に収まる。
18013	長岡京跡右京三条二坊今里遺跡	今里畔町5-15	木造2階建	4月16日	GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
18014	長岡京跡右京六条二坊開田遺跡 開田古墳群	開田三丁目101-7	看板設置	4月16日	GL-70cmの掘削、盛土のみを確認。
18015	長岡京跡右京八条二坊	友岡二丁目21-1の一部、21-14、21-17	宅地造成	4月16・23日	GL-70cmの掘削、GL-55cmで耕作土を確認。
18016	長岡京跡右京四条二坊陶器町遺跡	長岡三丁目37-32	木造3階建	4月17日	GL-30cmの掘削、GL-20cmで暗茶褐色土層の堆積層を確認。
18017	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	神足神田9-15	木造2階建	4月17日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cmまでの掘削、盛土内に収まるようである。
18018	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘一丁目71-8	木造2階建	4月18日	既に基礎工事は終了していた。
18019	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	東和苑9-15	木造2階建	4月18日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
18020	長岡京跡左京七条一坊	神足太田1-37	木造2階建	4月19日	柱状地盤改良工事、GL-320～430cmまでの掘削、工法的に土層観察は不可。
18021	長岡京跡左京六条一坊雲宮遺跡	神足神田9-5	木造2階建	4月20日	GL-25cmの掘削。盛土のみを確認。
18022	長岡京跡右京六条一坊神足遺跡 勝龍寺城跡	一里塚2-24	木造3階建	4月23日	GL-25cmの掘削、盛土のみを確認。
18023	奥海印寺遺跡	奥海印寺荒堀12-2の一部	宅地造成	4月23日	既に工事は終了していた。GL-40cmの掘削、耕作土の直下に黄褐色粘質土層の堆積を確認。この土層は、地山では無く、小泉川の堤防に関わる堆積物とみられる。
18024	長岡京跡右京七条四坊	梅が丘二丁目8-1	鉄骨2階建	4月23日	GL-30cm、一部GL-60cmまでの掘削、GL-40cmで橙褐色粘質土層の地山を確認。
18025	長岡京跡右京六条二坊開田遺跡	神足三丁目125-3の一部、125-10	木造2階建	4月24日	既に基礎工事は終了していた。GL-20cmの掘削、盛土内に収まっているようである。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18026	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-9	木造 2 階建	4 月 25 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18027	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	友岡一丁目 17	木造 2 階建	4 月 25 日	GL-20cm、一部 GL-50cm までの掘削、盛土のみを確認。
18028	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	友岡一丁目 17-8	木造 2 階建	4 月 26 日	GL-20cm、一部 GL-70cm までの掘削、盛土のみを確認。
18029	奥海印寺遺跡	奥海印寺多貝垣外 3-8、3-14	木造 2 階建	4 月 27 日	GL-50cm の掘削、掘削底面で茶灰色粘質土層の堆積を確認。
18030	長岡京跡右京四条四坊	うぐいす台 84	木造 2 階建	4 月 27 日	GL-10cm の面、一部 (西側) GL-55cm までの線掘削、GL-55cm で茶灰色粘質土層の堆積を確認。
18031	長岡京跡右京七条三坊	花山一丁目 55	木造 2 階建	4 月 27 日	GL-40cm、一部 GL-90cm までの掘削、GL-40cm で暗黄灰色粘土層および淡灰白色粘土層 (大阪層群) の地山を確認。
18032	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	花山三丁目 3	木造 2 階建	5 月 1 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18033	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 402-4	木造 2 階建	5 月 1 日	既に基礎工事は終了していた。GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18034	長岡京跡右京四条二坊 陶器町遺跡	今里一丁目 4-3	木造 2 階建	5 月 8・9 日	本文に掲載。
18035	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡 井ノ内遺跡	井ノ内坂川 1-3	鉄骨 2 階建	5 月 9 日	GL-50cm の掘削、掘削底面で黄褐色礫混じり砂層の地山を確認。
18036	長岡京跡右京四条二坊	長岡一丁目 209-30	木造 1 階建	5 月 11・14 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-60cm の掘削、GL-50cm で地山を確認。
18037	長岡京跡右京六条二坊 開田城ノ内遺跡	天神一丁目 7-3	鉄筋 2 階建 木造 3 階建	5 月 14 日	GL-90cm、一部 GL-160cm までの掘削、GL-100cm で淡黄白色粘質土層の地山を確認。
18038	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 402-5	木造 2 階建	5 月 14 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18039	長岡京跡右京五条四坊 谷山遺跡	長法寺平尾 8-38	鉄骨 3 階建	5 月 14・21 日	GL-50cm の掘削 盛土のみを確認。
18040	長岡京跡右京七条四坊	梅が丘二丁目 8-2	木造 1 階建	5 月 15 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18041	長岡京跡右京四条一坊	一文橋一丁目 26-11	木造 2 階建	5 月 15 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18042	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 12-16、13-3 (6 号地)	木造 2 階建	5 月 21 日	GL-20 ~ 30cm の掘削、盛土のみを確認。
18043	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-18 (11 号地)	木造 2 階建	5 月 21 日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cm、一部 GL-50cm の掘削、盛土のみを確認。
18044	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-20 (13 号地)	木造 2 階建	5 月 21 日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cm までの掘削、盛土の範囲内に収まる。
18045	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-10 (3 号地)	木造 2 階建	5 月 21 日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18046	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足堂ヶ内 16-20	木造 3 階建	5 月 21 日	柱状地盤改良工事済み、GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18047	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里更ノ町 28-2、29-3 他 (2 号地)	木造 2 階建	5 月 24 日	GL-25cm の掘削、盛土のみを確認。
18048	長岡京跡右京八条二坊	緑が丘 15-40	木造 3 階建	5 月 24 日	GL-50cm、一部 GL-80cm までの掘削、盛土のみを確認。
18049	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目 803-10	木造 2 階建	5 月 24 日	既に基礎工事は終了していた。基礎掘削はほとんど無いようである。
18050	長岡京跡右京五条一坊 神足遺跡	馬場一丁目 52-9 (F 号地)	木造 2 階建	5 月 25・28 日 6 月 1 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cm の掘削、掘削底面で暗黄褐色砂質土層を確認。
18051	光明寺古墳群	粟生西条ノ内 26-1	木造 1 階建	5 月 25 日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cm の掘削、盛土内に収まっているようである。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18052	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里五丁目 118-1 他の一 部	木造 2 階建	5 月 28 日	埋設管の工事済み。GL-30cm までの掘削、 盛土内に収まるようである。
18053	長岡京跡右京五条一坊 神足遺跡	馬場一丁目 52-7(D号地)	木造 2 階建	5 月 29 日 6 月 4 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cm の掘削、 盛土のみを確認。
18054	長岡京跡右京五条二坊 陶器町遺跡	長岡一丁目 40-9	木造 2 階建	5 月 30 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18055	長岡京跡右京二条三坊 上里遺跡	井ノ内北内畑 22-4	木造 2 階建	6 月 1 日	GL-20cm の掘削、掘削底面で橙褐色礫混じ り土層を確認。この層は、地山ではなく盛土 の可能性がある。
18056	長岡京跡右京七条三坊 十三遺跡	天神一丁目 225-6 の一部	木造 2 階建	6 月 1 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18057	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	東和苑 17-8	木造 2 階建	6 月 1・4 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cm の掘削、 盛土のみを確認。
18058	長岡京跡右京四条二坊	一文橋一丁目 5-99、5- 100 地内	電柱設置	6 月 1 日	試掘、GL-150cm の掘削、GL-130cm まで が盛土や埋設管の埋土であり、その下で暗灰 色系の粘土層の堆積を確認した。
18059	長岡京跡右京五条一坊 神足遺跡	馬場一丁目 52-8(E号地)	木造 2 階建	6 月 1 日	GL-30cm および GL-70cm までの掘削、GL -50cm で暗黄褐色砂質土層の堆積を確認。
18061	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	下海印寺下条 11-4 の一部	木造 2 階建	6 月 4 日	GL-25cm、一部 GL-70cm の掘削、GL- 60cm で厚さ 10cm の耕作土を確認。
18062	長岡京跡右京五条四坊	天神三丁目 210-203	木造 2 階建	6 月 4・11 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-20cm の掘削、 盛土のみを確認。
18063	長岡京跡左京七条一坊 雲宮遺跡	神足木寺町 27-4 の一部	鉄骨 4 階建	6 月 4・5・7・ 8・11 日	GL-70 ~ 130cm までの掘削、GL-100cm で 耕作土を確認。
18064	長岡京跡右京五条四坊 長法寺遺跡	長法寺川原谷 6-1	木造 2 階建	6 月 7 日	柱状地盤改良工事済み。GL-30cm の掘削、 盛土のみを確認。
18065	長岡京跡右京八条二坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝一丁目 401-6	木造 2 階建	6 月 7・12 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-20cm の掘削、 盛土のみを確認。
18066	長岡京跡右京五条二坊 明星野遺跡	開田一丁目 206-22	木造 2 階建	6 月 8 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18067	長岡京跡右京七条三坊	梅ヶ丘一丁目 72-13	木造 2 階建	6 月 11 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18068	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 402-6	鉄骨 2 階建	6 月 11 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18069	長岡京跡右京四条二坊 今里北ノ町遺跡	野添二丁目 110-10	木造 2 階建	6 月 14・18 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cm の掘削、 盛土のみを確認。
18070	長岡京跡右京七条四坊 西山田遺跡	下海印寺西山田 1-1	鉄骨 3 階建	6 月 14 日	掘削工事はすべて終了していた。給食室は GL -220cm までの掘削、GL-80cm で大阪層群 の砂層と粘土層の堆積を確認。エレベーター ホールでは GL-140cm の掘削、GL-40cm で 大阪層群の粘土層を確認。
18071	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 111-4	宅地造成	6 月 15 日 10 月 9 日	竹藪客土を除去しつつ伐根作業、GL-70 ~ 200cm までの掘削、客土の下に赤灰色系~黄 橙色系粘土層の地山を確認。
18072	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町一丁目 3-13	木造 2 階建	6 月 18 日	建物基礎は GL-10cm、下水管は GL-40cm までの掘削、盛土直下の GL-30cm で橙褐色 粘質土層の地山を確認。
18073	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目 42-22	木造 2 階建	6 月 18 日	GL-40cm までの掘削、盛土直下の GL-10 ~ 20cm で淡緑灰色の粘土層の堆積を確認。
18074	長岡京跡右京二条三坊 上里遺跡	井ノ内上印田地内	電柱支線設 置	6 月 20 日	GL-165cm の掘削、耕作土の下に暗黄褐色粘 質土層の厚い堆積を確認。
18075	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里五丁目 118-1 他の一 部	木造 2 階建	6 月 20 日	GL-35cm の掘削、掘削底面で耕作土を確認。
18076	長岡京跡右京八条四坊 脇山遺跡	泉ヶ丘 4-12	木造 3 階建	6 月 20 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。

40 分布調査一覧表

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18077	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡 乙訓寺	今里四丁目 5-10	鉄骨 1 階建	6月21・22・ 27日 7月19・24日 8月2・3・6・ 7日	GL-50～80cmの掘削、GL-30cmで黄褐色 砂礫層の地山を確認。
18078	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 2-10	木造 2 階建	6月21日	GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
18079	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里更ノ町 28-2、29-3 他 (5号地)	木造 2 階建	6月22日	GL-20cmの掘削、盛土のみを確認。
18080	長岡京跡右京七条四坊	梅が丘三丁目 93	木造 2 階建	6月25・27日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-25cmの掘削、 盛土のみを確認。
18082	長岡京跡右京四条二坊 今里北ノ町遺跡	野添一丁目 46-4	木造 2 階建	6月28日	表層地盤改良工事、GL-30cm までの掘削、 盛土内に取まる。
18084	長岡京跡左京六条二坊 雲宮遺跡	神足四ノ坪 7-1	木造 2 階建	6月29日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
18085	長岡京跡左京六条一坊	神足ミドロ 18-5 (3号地)	木造 2 階建	6月29日 7月2日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cmの掘削、 掘削底面で耕作土を確認。
18086	長岡京跡右京六条四坊	天神三丁目 1-8、208-1	木造 1 階建	7月2日	GL-30cmの掘削、盛土のみを確認。
18087	長岡京跡右京七条三坊	梅が丘一丁目 72-12	鉄骨 2 階建	7月2日	既に基礎工事は終了していた。GL-50cmの 掘削、盛土のみを確認。
18088	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 402-7	鉄骨 2 階建	7月2・3日	GL-40～100cmの掘削、盛土のみを確認。
18090	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 209-61	鉄骨 1 階建	7月3・12日	表層地盤改良と基礎掘削、GL-100cmの掘削 GL-20cmで茶褐色砂質土層を確認。
18091	長岡京跡右京五条一坊	一文橋一丁目 11-19	木造 3 階建	7月3日	GL-40cmの掘削、盛土のみを確認。
18092	長岡京跡左京六条一坊	神足ミドロ 18-9 (7号地)	木造 2 階建	7月3日	GL-25cmの掘削、盛土のみを確認。
18093	長岡京跡右京七条三坊	花山二丁目 7番1	鉄骨 2 階建	7月3・10日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-50～120cm の掘削、GL-55cmで地山を確認。
18094	長岡京跡右京四条四坊 長法寺七ツ塚古墳群	長法寺北畠 15	遺跡 パトロール	7月3日	本文に掲載。
18095	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	開田三丁目 207-4 地内	電柱設置	7月4日	GL-130cmの掘削、攪乱土を確認。
18096	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目 101-2	鉄骨 3 階建	7月5日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-50cmの掘削、 盛土のみを確認。
18097	長岡京跡左京七条二坊	神足桑ヶ本地先	電柱設置	7月6日	試掘、GL-160cm までの掘削、湧水が顕著で 盛土内に取まる。
18098	長岡京跡右京三条四坊 今里遺跡	今里彦林 18-31	木造 2 階建	7月10・18・ 20日	GL-50～130cmの掘削、盛土のみを確認。
18099	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	神足三丁目 105-2、105- 3、137	鉄骨 2 階建	7月10・11・ 17日	本文に掲載。
18100	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 402-3	木造 2 階建	7月11日	GL-35cmの掘削、盛土のみを確認。
18101	長岡京跡左京八条一坊	城の里地先	電柱設置	7月11日	アンカー設置工事、GL-100cmの掘削、盛土 のみを確認。
18102	長岡京跡右京八条三坊	下海印寺川向井 5-4 (No.4)	木造 2 階建	7月11日	GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
18103	長岡京跡右京二条二坊	西ノ京 2-2	木造 2 階建	7月12日 8月25日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cmの掘削、 盛土のみを確認。
18104	長岡京跡右京九条一坊	勝竜寺二ノ坪 3-1 (8号棟)	木造 2 階建	7月12・13日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cmの掘削、 盛土のみを確認。
18105	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-8	木造 2 階建	7月13日	表層地盤改良工事、GL-140cm までの掘削、 盛土内に取まる。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18106	長岡京跡右京七条一坊 勝龍寺城跡	勝龍寺 47-1 の一部	鉄骨 2 階建	7月17・26日 8月16・27日	GL-110cm の掘削、GL-50cm で黄褐色砂質土層の堆積を確認。
18107	長岡京跡左京七条一坊	城の里 10-22	木造 2 階建	7月17日	GL-70cm の掘削、盛土のみを確認。
18108	長岡京跡右京六条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺岡本 5-19、5-2 の一部	木造 2 階建	7月17日	GL-25cm の掘削、盛土のみを確認。
18109	長岡京跡右京二条三坊 上里遺跡	井ノ内西ノ口	遺跡 パトロール	7月17日	本文に掲載。
18110	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里五丁目 118 - 10 (15 号地)	木造 2 階建	7月18日	GL-25cm の掘削、盛土のみを確認。
18111	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡	東神足二丁目 17 の一部	鉄骨 2 階建	7月18日	本文に掲載。
18112	長岡京跡右京九条一坊	勝龍寺二ノ坪 3-1 の一部 (A号棟)	木造 2 階建	7月18日	GL-45cm の掘削、盛土のみを確認。
18113	長岡京跡右京九条一坊 南栗ヶ塚遺跡 久保古墳群	久貝三丁目 13-5	木造 2 階建	7月18日	本文に掲載。
18114	長岡京跡右京六条四坊 東代古墳群	天神二丁目 16-1 他	鉄骨 1 階建	7月19日 8月20～ 24・27～31日 9月1日	GL-220cm までの掘削、盛土直下の GL-50cm で大阪層群の地山を確認した。地山は、粘土層、砂層などが互層となって堆積していたが、水平堆積ではなく、層が立った状態であった。
18115	長岡京跡右京八条三坊	友岡川向井 1-29	木造 2 階建	7月23日 8月2日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-65～80cm の掘削、盛土内に収まる。
18116	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-19	木造 2 階建	7月23日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18117	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	開田一丁目 21-6	鉄骨 3 階建	7月24・30日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-50cm の掘削、盛土内に収まる。
18118	長岡京跡右京三条三坊 井ノ内遺跡	井ノ内横ヶ端 1-13	鉄骨 3 階建	7月26日	GL-60cm の掘削、掘削底面で耕作土の上面を確認。
18119	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 322-1 地内	電柱設置	7月26日	GL-220cm の掘削、盛土以下の GL-110cm 以下が褐色系の砂礫層を確認。この土層は地山か？
18120	長岡京跡右京四条四坊	うぐいす台 102	木造 2 階建	7月30日 8月6日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18121	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里畔町 7-8 (2号地)	木造 2 階建	7月30日	GL-25cm の掘削、盛土のみを確認。
18122	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺川向井 5-10 (No. 1)	木造 2 階建	7月30日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18124	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里畔町 7-7 (1号地)	木造 2 階建	7月30日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18125	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	東和苑地内	電柱支線設置	8月1日	GL-120cm の掘削、盛土、攪乱土を確認。
18126	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目地先	電柱設置	8月1日	GL-140cm の掘削、GL-75cm で暗褐色砂礫層の堆積を確認。この層は、小畑川の堆積層か。
18127	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目 39-153	木造 2 階建	8月1日	既に工事は終了していた。GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18128	長岡京跡右京九条二坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝一丁目地先	電柱設置	8月1日	GL-170cm の掘削、GL-135cm で耕作土を確認。
18129	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里五丁目 118-7 (1号地)	木造 2 階建	8月2日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18130	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	友岡一丁目 17-5、17-6、 17-7、17-9	鉄骨 2 階建	8月2日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18131	長岡京跡右京二条三坊 上里遺跡	井ノ内上印田 3-19	木造 3 階建	8月6日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。

42 分布調査一覧表

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18132	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 22-5 (21号地)	木造 2 階建	8 月 6 日	既に基礎工事は終了していた。GL-25cm の掘削、盛土のみを確認。
18133	長岡京跡右京六条一坊 神足遺跡 勝竜寺城跡	神足一丁目 126-75	木造 3 階建	8 月 7・21 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-50cm の掘削、盛土のみを確認。
18135	長岡京跡右京四条二坊	野添一丁目 2-4	木造 2 階建	8 月 8 日	GL-110cm の掘削、盛土のみを確認。
18136	長岡京跡右京四条二坊 陶器町遺跡	今里一丁目地内	電柱支線設置	8 月 9 日	本文に掲載。
18137	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 218-1 地内	電柱設置	8 月 13 日	試掘、GL-150cm の掘削、北半部はアースで攪乱を受けていたが、南半部では GL-30cm 以下が黄褐色系の粘質土層および砂礫層の地山を確認。
18138	長岡京跡右京二条三坊 井ノ内遺跡	井ノ内南内畑 27-8、27-11	木造 2 階建	8 月 20 日	GL-25cm の掘削、盛土のみを確認。
18139	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-17 (10号地)	木造 2 階建	8 月 20 日	GL-50cm の掘削、盛土のみを確認。
18140	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	調子一丁目 27-40	木造 1 階建	8 月 21 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18141	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足垣外ヶ内 1、1-1	宅地造成	8 月 22 日	本文に掲載。
18142	長岡京跡左京六条二坊 雲宮遺跡	神足神田 4-12、3-26	木造 3 階建	8 月 22 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18143	長岡京跡右京五条一坊 開田古墳群	開田 1-17-37 の一部	木造 2 階建	8 月 24 日	GL-30cm の掘削、GL-15cm で茶褐色礫混じり土層、掘削底面で橙褐色砂礫層の地山を確認。
18144	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里更ノ町 25-19	木造 3 階建	8 月 25・27 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18145	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡	友岡四丁目 218-2	木造 2 階建	8 月 25 日	GL-50cm の掘削、盛土下に攪乱が有り、部分的に地山面を確認。
18146	長岡京跡右京八条一坊 勝竜寺城跡	勝竜寺 118-2	鉄骨 2 階建	8 月 25・28 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18147	長岡京跡右京三条二坊	今里川原 2-52	木造 2 階建	8 月 27 日 9 月 19 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18148	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里三丁目 26-8	木造 2 階建	8 月 27 日	鋼管杭による柱状地盤改良工事済み。GL-40cm の掘削、掘削底面で耕作土層の上面を確認。
18150	長岡京跡右京八条二坊	緑が丘 12-31、101-9、150	木造 3 階建	8 月 28 日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cm の掘削、盛土内に収まる。
18152	長岡京跡右京三条一坊	今里川原 39-19	木造 2 階建	8 月 30 日	柱状地盤改良工事済み。GL-10cm の掘削、盛土のみを確認。
18153	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里五丁目 118-11、547-2	木造 2 階建	8 月 31 日	埋設管の工事、GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18154	長岡京跡右京八条四坊	泉が丘 13-9	木造 2 階建	8 月 31 日	GL-20cm、一部 GL-70cm の掘削、盛土直下の GL-50cm で黄白色礫混じり土層の地山を確認。
18155	長岡京跡右京七条二坊 友岡遺跡	友岡一丁目 307-10	木造 2 階建	9 月 1 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18156	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 402-8	木造 2 階建	9 月 3 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18157	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	下海印寺北条 48-1	鉄骨 2 階建	9 月 3・11 日	柱状地盤改良工事、GL-190～285cm までの掘削、湿式工法のため、土層観察は不可であった。GL-40cm の掘削、盛土直下の GL-35cm で耕作土を確認。
18158	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-15	木造 2 階建	9 月 5 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-120cm の掘削、盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18160	長岡京跡右京三条三坊 今里遺跡	今里五丁目 118-14	木造2階建	9月6日	GL-25cmの掘削、盛土のみを確認。
18161	長岡京跡右京六条四坊	奥海印寺谷田 15-1	鉄骨2階建	9月7日	GL-55cmの掘削、盛土直下のGL-10cmで 黄橙色砂礫層の地山を確認。
18162	長岡京跡右京八条二坊 友岡遺跡	友岡三丁目 5-4	木造2階建	9月7日	GL-65cmの掘削、盛土のみを確認。
18163	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 402-1	木造2階建	9月10日	GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
18164	長岡京跡右京八条三坊	調子一丁目 1068-2	木造2階建	9月12日	GL-20cmの掘削、盛土のみを確認。
18165	長岡京跡右京五条四坊 東代遺跡	天神三丁目 33-8(4号地)	木造2階建	9月13日	GL-30cmの掘削、掘削底面で橙褐色粘質土 層の地山を確認。
18166	長岡京跡右京四条四坊	長法寺祭ノ神2-2(1号地)	木造2階建	9月13日	GL-20～60cmの掘削、西側は掘削が浅く盛 土のみであるが、東側は掘削が深く、盛土は なくて耕土の下に淡黄灰色粘質土層、茶灰色 粘質土層の堆積を確認。
18167	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-14	木造2階建	9月14日	柱状地盤改良工事済み。既に基礎工事は終了 していた。GL-15～30cmまでの掘削、盛土 内に収まる。
18168	長岡京跡右京四条四坊	長法寺祭ノ神2-2(2号地)	木造2階建	9月18日	GL-60cmの掘削、盛土直下のGL-10cmで 黄褐色砂質土層の堆積を確認。
18169	長岡京跡右京四条四坊	長法寺祭ノ神2-2(3号地)	木造2階建	9月18日	GL-60cmの掘削、盛土、攪乱土を確認。
18170	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里更ノ町 28-2、29-3 他(3号地)	木造2階建	9月20日	GL-25cmの掘削、盛土のみを確認。
18171	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡	東神足二丁目 116-35(19 号地)	木造2階建	9月20日	柱状地盤改良工事済み。GL-20～30cmの掘 削、盛土のみを確認。
18173	長岡京跡右京三条四坊	粟生六反田地先	電柱設置	9月26日	GL-160cmの掘削、GL-120cmで明黄褐色 シルト層の地山を確認。
18174	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-16	木造2階建	9月27日	柱状地盤改良工事済み。GL-30～40cmの掘 削、盛土のみを確認。
18175	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 616-1 他	宅地造成	9月28日 10月1日	本文に掲載。
18176	長岡京跡右京五条三坊	長岡二丁目地内	エレベーター 設置	9月29日 10月5・6日	地中梁が埋設されているためGL-20cmの掘 削、盛土のみを確認。
18177	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	開田三丁目 401-2の一 部、402-1の一部、403- 1の一部	木造2階建	10月2・5・ 9日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-50～100cm の掘削、盛土直下で暗黄褐色砂質土層を確認。
18178	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足屋敷 59-1	鉄骨3階建	10月2・10日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30cmの掘削、 GL-10cmで旧表土層を確認。
18179	奥海印寺遺跡	奥海印寺東条 22-7	木造2階建	10月4日	既に基礎工事は終了していた。GL-30cmま での掘削、盛土内に収まる。
18180	長岡京跡右京七条一坊 勝龍寺城跡	勝竜寺 47-1 地内	電柱設置	10月4日	試掘2箇所、試掘1では褐色砂質土層から棧瓦、 陶磁器片が出土。
18181	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-21	木造2階建	10月6日	GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
18182	奥海印寺遺跡 海印寺跡	奥海印寺大見坊 2-11	木造2階建	10月6日	GL-80cmの掘削、耕作土直下のGL-70cm で地山を確認。
18183	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡 鞆岡廃寺	友岡四丁目 418-22	木造2階建	10月9日	GL-50cmの掘削、盛土のみを確認。
18184	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 145、106-9、11 -5	木造2階建	10月9日	GL-25cmの掘削、盛土のみを確認。
18185	長岡京跡右京五条二坊 開田古墳群	長岡一丁目 511-3 他	側溝敷設	10月16・17日	本文に掲載。

44 分布調査一覧表

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18186	長岡京跡右京二条三坊 井ノ内遺跡 今里遺跡	井ノ内南内畑 28-8	木造 2 階建	10 月 12 日	GL-20cm、一部 GL-70cm の掘削、盛土のみを確認。
18187	長岡京跡右京四条三坊 陶器町遺跡 舞塚古墳群	長岡三丁目 218-17	木造 2 階建	10 月 12 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18188	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡	東神足二丁目 220	鉄骨 2 階建	10 月 12 日	GL-80cm の掘削、掘削底面で橙褐色土斑入暗褐色礫混じり土層の堆積を確認。この土層は硬質で、土師器、須恵器の破片を包含していた。
18189	長岡京跡右京二条二坊	西の京 15-34	木造 3 階建	10 月 13 日 11 月 8 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18190	長岡京跡右京七条四坊 下海印寺遺跡	奥海印寺森ノ下 26-41	木造 2 階建	10 月 16 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18191	長岡京跡右京七条一坊	神足二丁目 611-3	木造 2 階建	10 月 17・22 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-30～80cm の掘削、GL-70cm で淡緑灰色粘質土層を確認。
18192	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足雲宮 5-81	鉄骨 2 階建	10 月 17・18 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-150cm の掘削、GL-70cm で灰褐色粘質土層を確認。
18193	長岡京跡右京四条四坊	長法寺祭ノ神 2-2 4 号地	木造 2 階建	10 月 17 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18194	長岡京跡右京四条四坊	長法寺祭ノ神 2-2 5 号地	木造 2 階建	10 月 17 日	GL-45cm の掘削、盛土のみを確認。
18195	長岡京跡右京七条三坊 友岡遺跡	友岡一丁目 211-14	鉄骨 2 階建	10 月 18 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18196	長岡京跡右京六条四坊	天神二丁目 111-3	宅地造成	10 月 18 日	擁壁工事、既に基礎工事は終了していた。GL-40～180cm の掘削、表土の下の GL-80cm 前後で地山になることを確認した。
18197	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目 10-2	木造 3 階建	10 月 22 日	GL-40cm の掘削、GL-20cm で淡黄灰色砂質土層、その下が茶灰色砂礫層の堆積を確認。
18198	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 419-19、517-5	木造 1 階建	10 月 23 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18199	長岡京跡右京六条四坊 東代古墳群	天神三丁目 210-174、 210-181	木造 2 階建	10 月 23 日	柱状地盤改良工事済み。GL-60cm の掘削、GL-45cm で大阪層群の地山を確認。
18200	長岡京跡右京六条一坊 開田遺跡	神足三丁目 510-2、511-4	鉄骨 3 階建	10 月 24・29 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18203	長岡京跡右京八条四坊	下海印寺川向井 5-18 (No.12)	木造 2 階建	10 月 25 日	GL-10cm の掘削、盛土のみを確認。
18204	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 222-20、222-13 の各一部	鉄骨 3 階建	10 月 25 日	GL-20cm、一部 GL-40cm の掘削、大半は盛土内に収まるが、北西部で GL-20cm で橙褐色粘質土層の地山を確認。
18205	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡	東神足二丁目 116-2	鉄骨 2 階建	10 月 26 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18206	長岡京跡右京七条一坊 神足遺跡 勝龍寺城跡	東神足二丁目 116-34 (18号地)	木造 2 階建	10 月 26 日	柱状地盤改良工事済み。GL-30cm、一部 GL-60cm の掘削、盛土のみを確認。
18207	長岡京跡左京七条一坊 雲宮遺跡	神足太田 20-19	木造 2 階建	10 月 29 日	GL-20cm、一部 GL-50cm までの掘削、盛土のみを確認。
18208	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目 18-10	木造 2 階建	10 月 30 日	GL-25cm の掘削、盛土のみを確認。
18209	長岡京跡右京五条四坊	天神三丁目 33-9	木造 2 階建	10 月 30 日	GL-10cm の掘削、盛土のみを確認。
18210	長岡京跡右京三条二坊 今里遺跡	今里畔町 3-10、4-10	木造 2 階建	10 月 31 日	GL-40m の掘削、盛土のみを確認。
18211	長岡京跡右京八条一坊 勝龍寺城跡	勝竜寺 26-4	木造 2 階建	11 月 1・6 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18212	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	開田四丁目 25-37	木造 3 階建	11 月 2 日	GL-60cm の掘削、盛土のみを確認。
18213	長岡京跡左京五条二坊	馬場六ノ坪 13-9 地内及 び地先	電柱設置	11 月 2 日	GL-150cm の掘削、耕作土の下に暗黄灰色粘 質土層、暗青灰色シルト層の堆積を確認。
18214	長岡京跡関連遺跡 下海印寺遺跡	奥海印寺三反畑 10-2、 27-1、森ノ下 3-3、33- 1	鉄骨 2 階建	11 月 5・12 日	柱状地盤改良と基礎掘削、GL-110cm の掘削、 GL-70cm で暗褐色礫混じり土層、その下で 地山を確認。
18215	長岡京跡右京七条三坊 伊賀寺遺跡 友岡遺跡	友岡西山 17-39	木造 2 階建	11 月 6 日	GL-30～60cm の掘削、盛土のみを確認。
18216	長岡京跡右京五条一坊	馬場一丁目 117-17	木造 2 階建	11 月 7 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18217	長岡京跡右京五条三坊 東代遺跡	天神四丁目 77-1、他 2 筆	鉄骨 2 階建	11 月 8 日	GL-50～60cm の掘削、GL-20～30cm で 橙褐色粘質土層の地山を確認。
18219	長岡京跡右京七条二坊	緑が丘 1-10	鉄骨 2 階建	11 月 8 日	GL-30cm、一部 GL-60cm の掘削、盛土のみ を確認。
18220	長岡京跡左京六条一坊 雲宮遺跡	神足垣外ヶ内 1、1-1	木造 2 階建	11 月 8 日	GL-60cm の掘削、盛土直下の GL-40cm で 耕作土を確認。
18221	長岡京跡右京五条一坊 開田古墳群	開田一丁目 4-3 の一部	鉄骨 2 階建	11 月 12 日	GL-50cm の掘削、盛土のみを確認。
18222	長岡京跡左京七条一坊	城の里 9-13	木造 2 階建	11 月 12 日	既に基礎工事は終了していた。GL-20～ 30cm の掘削、盛土内に収まる。
18223	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝二丁目 402-9	木造 2 階建	11 月 12 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18224	長岡京跡右京九条二坊 砦遺跡	調子三丁目 1-1	鉄筋設備機 器置き場	11 月 12 日	GL-350cm の掘削、盛土の下に赤灰色砂層、 暗青灰色礫混じり土層、青灰褐色砂礫層など の堆積を確認。
18225	長岡京跡左京七条一坊	城の里 9-13	木造 2 階建	11 月 13 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18226	長岡京跡右京七条二坊 開田遺跡	神足三丁目他地内	側溝工事	11 月 14～ 16・20・29 日	GL-55～100cm の掘削、GL-50～60cm で 地山を確認。
18228	長岡京跡右京五条三坊 陶器町遺跡	長岡二丁目 237-12 の一 部	木造 2 階建	11 月 15 日	GL-25cm、一部 GL-50cm の掘削、盛土のみ を確認。
18229	長岡京跡右京九条一坊 久保古墳群 宮脇遺跡	久貝三丁目 1-102	木造 3 階建	11 月 15 日	GL-25cm の掘削、盛土のみを確認。
18230	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡	友岡四丁目 218-3	木造 2 階建	11 月 15 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18231	長岡京跡右京五条二坊 明星野遺跡	開田一丁目地先	電柱設置	11 月 16 日	GL-100cm の掘削、GL-15cm で茶褐色土層、 GL-35cm で褐色砂礫層の地山を確認。
18233	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里五丁目 118-18、136 -12 (10 号地)	木造 2 階建	11 月 19 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18234	長岡京跡右京八条一坊 南栗ヶ塚遺跡	久貝一丁目 120 の一部	木造 1 階建	11 月 19 日	GL-20～50cm の掘削、GL-40cm で耕作土 の上面を確認。
18235	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里五丁目 118-9、547- 1 (14 号地)	木造 2 階建	11 月 19 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18236	長岡京跡右京五条二坊	長岡一丁目 209-12	木造 1 階建	11 月 19 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18237	長岡京跡右京二条二坊	滝ノ町二丁目 52-17	木造 2 階建	11 月 20 日	既に基礎工事は終了していた。GL-25cm ま での掘削、盛土内に収まる。
18238	長岡京跡右京五条四坊	長法寺力池 15-25	木造 2 階建	11 月 21 日	GL-40cm の掘削、盛土のみを確認。
18239	長岡京跡右京四条一坊	一文橋二丁目 3-22、3- 25	木造 3 階建	11 月 21 日	GL-120cm の掘削、盛土のみを確認。

調査 次数	遺 跡 名	所 在 地	工事内容	調 査 日	調 査 概 要
18241	長岡京跡右京五条二坊 明星野遺跡	開田一丁目 209-58	木造 2 階建	11 月 22 日	既に基礎工事は終了していた。
18242	長岡京跡右京二条四坊 井ノ内遺跡 上里遺跡	井ノ内広海道 34-14 の一 部 No.1	木造 2 階建	11 月 26 日	既に基礎工事は終了していた。GL-20cm までの掘削、葦土内に収まる。
18243	長岡京跡右京八条三坊 友岡遺跡 鞆岡廃寺	友岡四丁目 125-10、125-9	鉄骨 4 階建	11 月 26 日	GL-130～160cm の掘削、攪乱を受けている箇所が多いが、旧状が遺存している所では、GL-80cm で耕作土、その下に茶灰色粘質土層、その下が茶灰色砂礫層の地山を確認。
18245	長岡京跡右京四条一坊	一文橋一丁目 32-2	木造 2 階建	11 月 27 日	敷地東辺の擁壁工事、GL-140cm までの掘削、盛土の下に耕作土、暗青灰色粘土層の堆積を確認。
18246	長岡京跡右京五条二坊 開田城ノ内遺跡	長岡二丁目 408-5、412-11、412-15	木造 3 階建	11 月 28 日	GL-60cm の掘削、盛土のみを確認。
18247	長岡京跡右京四条三坊 今里遺跡	今里五丁目 118-12	木造 2 階建	11 月 29 日	GL-20cm の掘削、盛土のみを確認。
18248	長岡京跡右京六条二坊 開田遺跡	開田三丁目 10	郵便ポスト 設置	11 月 30 日	GL-30cm の掘削、盛土のみを確認。
18249	周知の遺跡に該当せず	奥海印寺池ノ尾	遺跡 パトロール		須恵器の甕、瓶子などが採集される。

(11) 第 18249 次調査 (第 53 図、図版 12)

平成 29 年 4 月 22 日、長岡京市西部の奥海印寺池ノ尾に所在する西山キャンプ場付近で採集したというメモ書きと遺物の入った袋が当埋蔵文化財センターの門扉に掛けられていた。届出た人物は不明であり、したがって遺物の採集に至る経緯や地点などの情報を知る手掛かりを得ることはできなかった。西山キャンプ場に至る山道は、台風や大雨などの影響で土砂崩れを起こす場合が度々あり、そうした崩落により出土した可能性が考えられたので、後日西山キャンプ場付近の山道沿いを遺跡パトロールとして探索したが、採集地点を特定することはできなかった。遺物が届出られたのは前年度のことであるが、諸般の事情により本年度に報告することとする。

第 53 図 19・20 は届けられた遺物であるが、2 点とも風化による摩滅がほとんど認められないため、長期間露頭していたものではなく、最近になって出土したものと推察することができた。19 は、須恵器甕の口縁部から体部上半にかけての破片である。くの字状に屈曲する口頸部をもち、口縁端部は外傾する面をもつ。口縁部の内外面は回転ナデを施して仕上げ、体部は外面が平行タタキの後にカキメ調整、内面は同心円の当て具痕の上から回転ナデを粗く加えている。口径は 21.5cm に復元でき、残存高は 9.3cm である。硬質に焼成されているが、色調は灰褐色を呈している。20 は須恵器の瓶子と考えられる体部の破片で、残存高は 5.3cm、体部最大径は 5.7cm に復元できる。内外面とも回転ナデによって調整し、外面には薄い自然釉の付着が認められる。19 の時期の詳細は不明であるが、20 は平安時代前期のものと推察することができる。

西山キャンプ場は山地に所在しており、長岡京域外にあることはもとより、付近に周知の遺跡がない空白地域から遺物が出土したことは重視すべきである。

注) 長岡京市では、行政指導上発掘や試掘調査に至らなかった土木工事に伴う調査について、国庫補助事業に伴う調査は詳細分布調査、原因者負担によるものについては立会調査と呼称を分けて実施している。

付表-5 報告書抄録

ふりがな	ながおかきょうしぶんかぎいちようさほうこくしよ
書名	長岡京市文化財調査報告書
副書名	
シリーズ名	長岡京市文化財調査報告書
シリーズ番号	第72冊
編著者名	福家恭、山本輝雄、中島皆夫
編集機関	公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
所在地	〒617-0853 京都府長岡京市奥海印寺東条10番地の1

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
いまごといせき 今里遺跡 おしくにでら 乙訓寺 ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京四条三坊八町)	ながおかきょうしいまごと 長岡京市今里三丁目14-7	26209	32	34°56'09"	135°41'22"	20180618) 20180803	150m ²	範囲 確認
			28					
			107					
かいでんしろのうちいせき 開田城ノ内遺跡 じゅうそらいせき 十三遺跡 ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京六条三坊三町)	ながおかきょうしてんじん 長岡京市天神一丁目213-1 他	26209	73	34°55'22"	135°41'26"	20181109) 20181211	33m ²	範囲 確認
			76					
			107					
ちようほうじななつづか 長法寺七ツ塚7号墳 ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京四条四坊九町)	ながおかきょうしちようほうじ 長岡京市長法寺 きたばたけ 北畠地内	26209	25-7	34°56'07"	135°40'56"	20181119) 20181129	11m ²	範囲 確認
			107					
ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京七条四坊二町)	ながおかきょうしうめ おか 長岡京市梅が丘二丁目60番	26209	107	34°55'13"	135°41'09"	20181204) 20181214	8m ²	個人 住宅
ともおかいせき 友岡遺跡 ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京八条三坊一町)	ながおかきょうしともおか 長岡京市友岡四丁目218-1	26209	97	34°54'56"	135°41'28"	20180216	-	個人 住宅
			107					
かいでんいせき 開田遺跡 ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京六条二坊七町)	ながおかきょうしかいでん 長岡京市開田三丁目207-5 他	26209	80	34°55'27"	135°41'46"	20180322・ 0323・0326	-	介護 施設
			107					
とうきまちいせき 陶器町遺跡 ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京四条二坊十四町)	ながおかきょうしいまごと 長岡京市今里一丁目4-3	26209	34	34°55'59"	135°41'30"	20180508・ 0509	-	集合 住宅
			107					
ちようほうじななつづか 長法寺七ツ塚2号墳 ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京四条四坊十六町)	ながおかきょうしちようほうじ 長岡京市長法寺 きたばたけ 北畠15	26209	25-2	34°56'09"	135°40'49"	20180703	-	遺跡 パト
			107					
かいでんいせき 開田遺跡 ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京七条一坊十六町)	ながおかきょうしこうたり 長岡京市神足三丁目105-2 他	26209	80	34°55'16"	135°41'52"	20180710・ 0711・0717	-	店舗
			107					
かみぎといせき 上里遺跡 ながおかきょうあと 長岡京跡 (右京二条三坊十五町)	ながおかきょうしいのうら 長岡京市井ノ内 にしのくち 西ノ口	26209	7	34°56'38"	135°41'11"	20180717	-	遺跡 パト
			107					

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
こうたりにせき 神足遺跡 ほそかわししゅうりゅうじょうと 細川氏勝龍寺城跡 ながおきょうあと 長岡京跡 (右京七条一坊七町)	ながおきょうしりがしこうたり 長岡京市東神足 二丁目17の一部	26209	83	34°55'11"	135°42'03"	20180718	-	個人住宅
84-1								
107								
みなみくりがづかいせき 南栗ヶ塚遺跡 くぼこふんぐん 久保古墳群 ながおきょうあと 長岡京跡 (右京九条一坊十五町)	ながおきょうしりがい 長岡京市久貝三丁目13-5	26209	103	34°54'37"	135°41'56"	20180718	-	個人住宅
118								
107								
とうきまいせき 陶器町遺跡 ながおきょうあと 長岡京跡 (右京四条二坊十四町)	ながおきょうしいまざと 長岡京市今里一丁目地内	26209	34	34°55'59"	135°41'30"	20180809	-	電柱設置
107								
くもみやいせき 雲宮遺跡 ながおきょうあと 長岡京跡 (左京六条一坊六町)	ながおきょうしりがし 長岡京市神足 かいとがうち 垣外ヶ内1他	26209	88	34°55'25"	135°42'21"	20180822	-	宅地造成
107								
みなみくりがづかいせき 南栗ヶ塚遺跡 ながおきょうあと 長岡京跡 (右京八条一坊十一町)	ながおきょうしりがい 長岡京市久貝二丁目616-1他	26209	103	34°54'49"	135°42'00"	20180928・1001	-	宅地造成
107								
かいでんこふんぐん 開田古墳群 ながおきょうあと 長岡京跡 (右京五条二坊七町)	ながおきょうしながおか 長岡京市長岡一丁目511-3他	26209	63	34°55'47"	135°41'42"	20181016・1017	-	側溝敷設
107								

※ 緯度、経度の測点は調査区の中心である。

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
今里遺跡	集落	弥生時代～近世	土坑群・小穴群	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、埴輪、瓦、管玉、砥石、鉄剣、銭貨	
乙訓寺	寺院	平安時代～近世	掘立柱建物1棟、土坑、溝、小穴		
長岡京跡 (右京第1173次)	都城	平安時代			
開田城ノ内遺跡	集落	弥生～古墳時代	流路	弥生土器、土師器、須恵器、瓦	右京第1177次調査で検出された掘立柱建物の規模確認
十三遺跡	散布地	平安時代	掘立柱建物、溝		
長岡京跡 (右京第1177次補足)	都城				
長法寺七ツ塚7号墳	古墳	古墳時代	墳丘盛土	須恵器	
長岡京跡 (右京第1182次)	都城				
長岡京跡 (右京第1183次)	都城		なし	なし	

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
友岡遺跡 長岡京跡 (第17292次)	集落 都城	弥生時代・中世 平安時代	土坑状の窪み1基	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器	
開田遺跡 長岡京跡 (第17322次)	集落 都城	平安時代	井戸1基、土坑1基	土師器、須恵器	右京六条二坊七町の宅地に関わる
陶器町遺跡 長岡京跡 (第18034次)	集落 都城	平安時代	小穴6基、土坑10基	土師器	
長法寺七ツ塚2号墳 長岡京跡 (第18094次)	古墳 都城	古墳時代		須恵器	
開田遺跡 長岡京跡 (第18099次)	集落 都城	平安時代	小穴2基	土師器、須恵器	
上里遺跡 長岡京跡 (第18109次)	集落 都城	平安時代		土師器、須恵器、瓦器、陶磁器	平成3・4(1991・92)年頃に採集
神足遺跡 長岡京跡 (第18111次) 細川氏勝龍寺城跡	集落 都城 城館	弥生時代 平安時代	溝1条		方形周溝墓か
南栗ヶ塚遺跡 久保古墳群 長岡京跡 (第18113次)	集落 古墳群 都城	平安時代	小穴4基、土坑1基		
陶器町遺跡 長岡京跡 (第18136次)	集落 都城	平安時代	小穴1基		
雲宮遺跡 長岡京跡 (第18141次)	集落 都城	平安時代		土師器、須恵器、瓦器 土師器	
南栗ヶ塚遺跡 長岡京跡 (第18175次)	集落 都城	弥生時代 平安時代		弥生土器	
開田古墳群 長岡京跡 (第18185次)	古墳群 都城	古墳時代、中世 平安時代	溝1条、土坑2基	土師器	溝は方墳周溝か

图 版



調査区全景（南から）

乙訓寺第 25 次調査

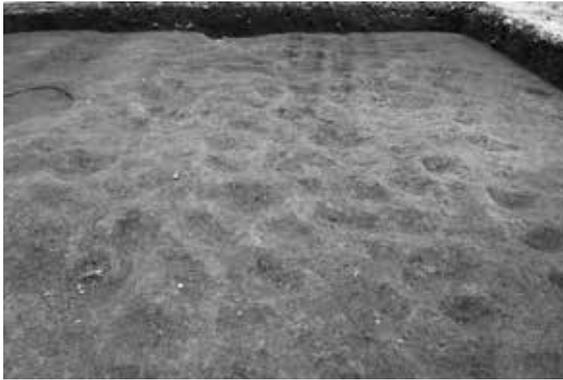
二
一
図



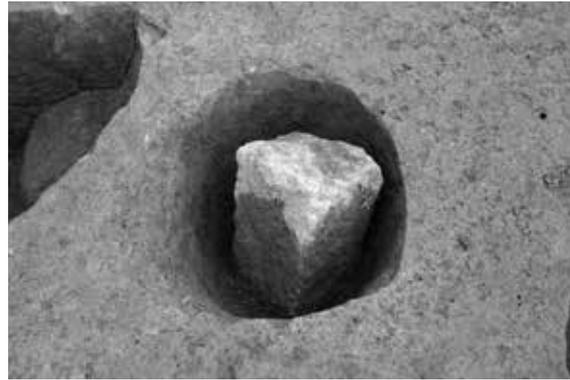
(1) 調査区全景 (東から)



(2) 整地層及び SX01 堆積状況 (北西から)



(1) SX01 底面の様子 (南から)



(2) 柱穴 P64 (東から)



(3) 柱穴 P65 遺物出土状況 (北から)



(4) 土坑 SK76 遺物出土状況 (西から)



(5) 土坑 SK62 検出状況 (西から)



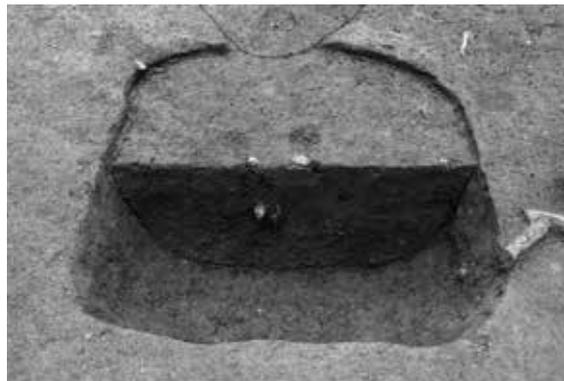
(6) 土坑 SK62 遺物出土状況 (西から)

乙訓寺第 25 次調査

図版四



(1) 区画溝 SD15 (東から)



(2) 柱穴 P18 (西から)



(3) 柱穴 P19 (西から)



(4) 掘立柱建物 SB101 (東から)



(1) 土坑 SK45 (北西から)



(2) 土坑 SK45 堆積状況 (南西から)



(3) 土坑 SK82 (南東から)



(4) 土坑 SK82 堆積状況 (北東から)



(5) 大型土坑群 SX34・35・44 (南から)



(6) 紡錘車出土状況 (北東から)



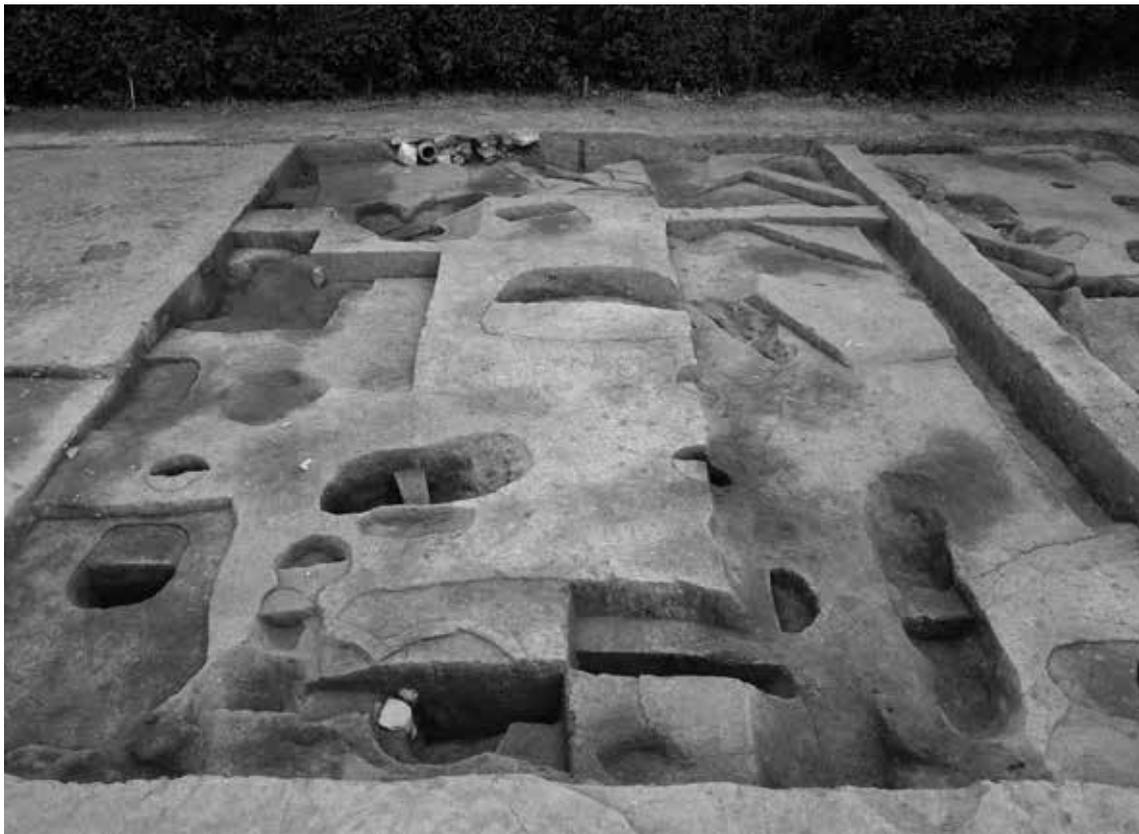
(7) 土坑 SK63 遺物出土状況 (北西から)



(8) 土坑 SK70 遺物出土状況 (北西から)

乙訓寺第 25 次調査

図版六



(1) 2・3区検出状況（東から）

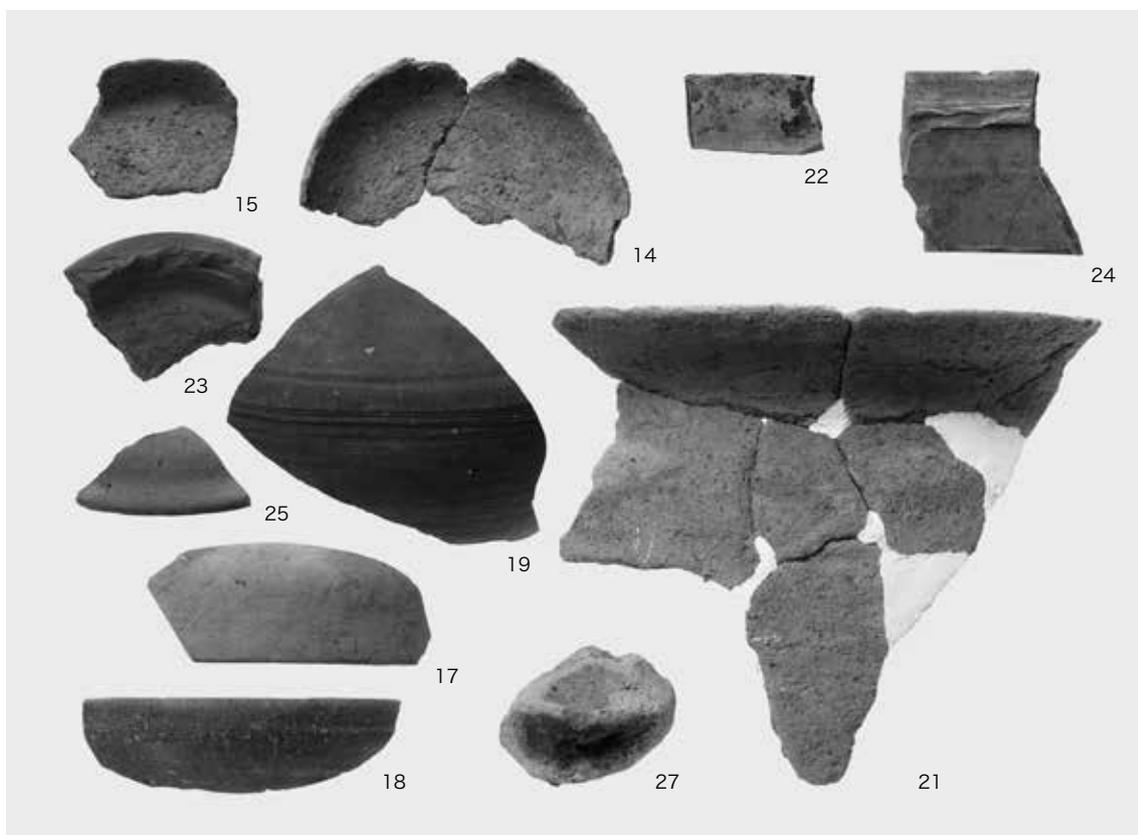
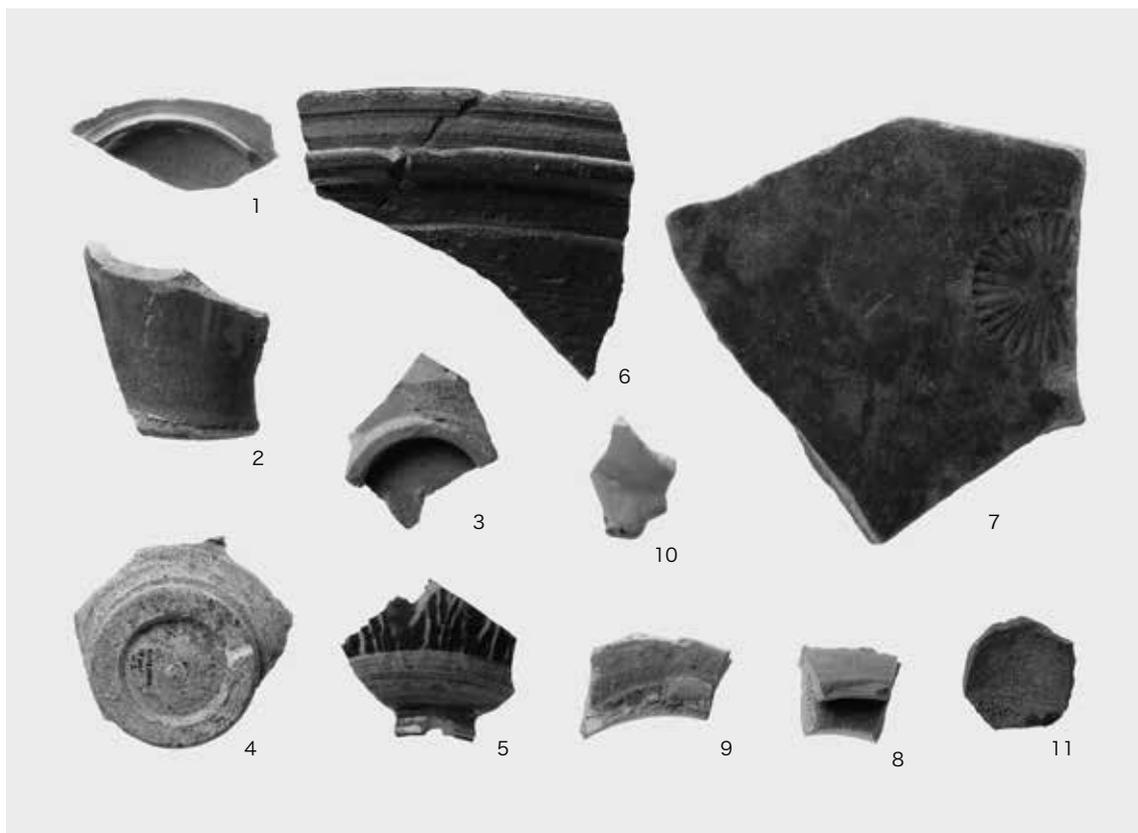


(2) 2～5区検出状況（北東から）

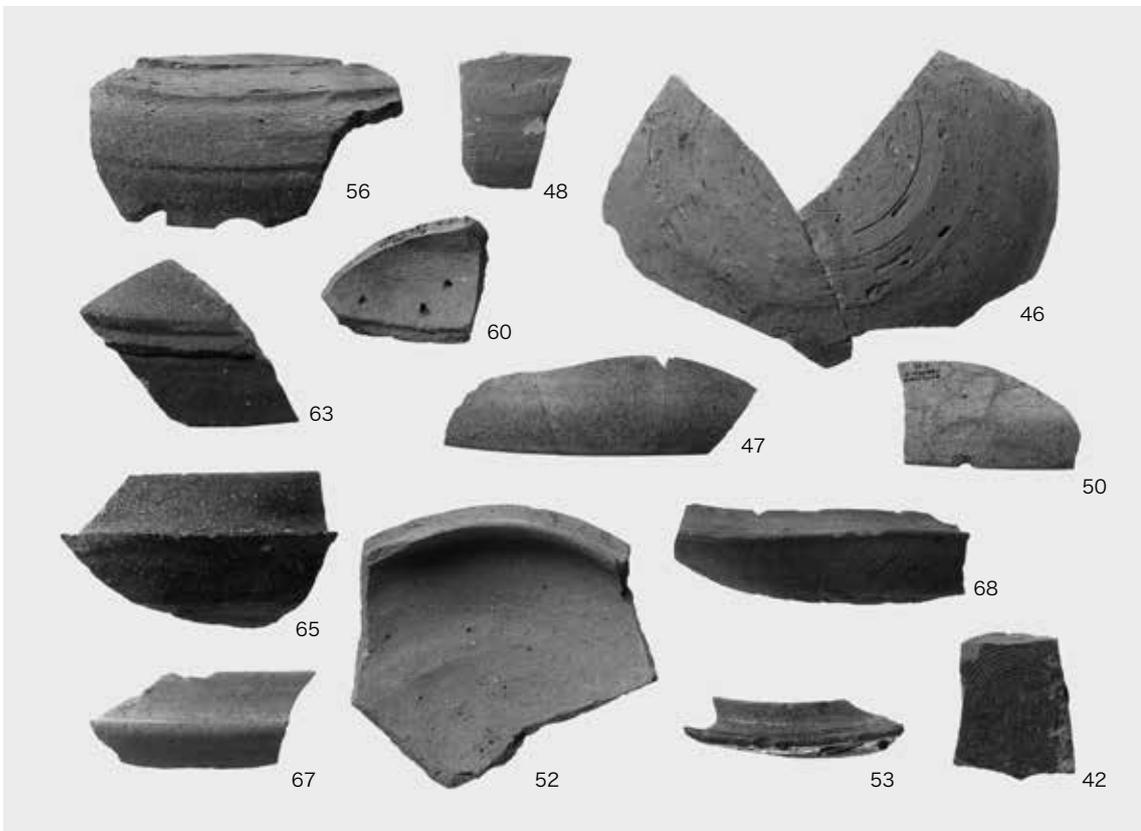
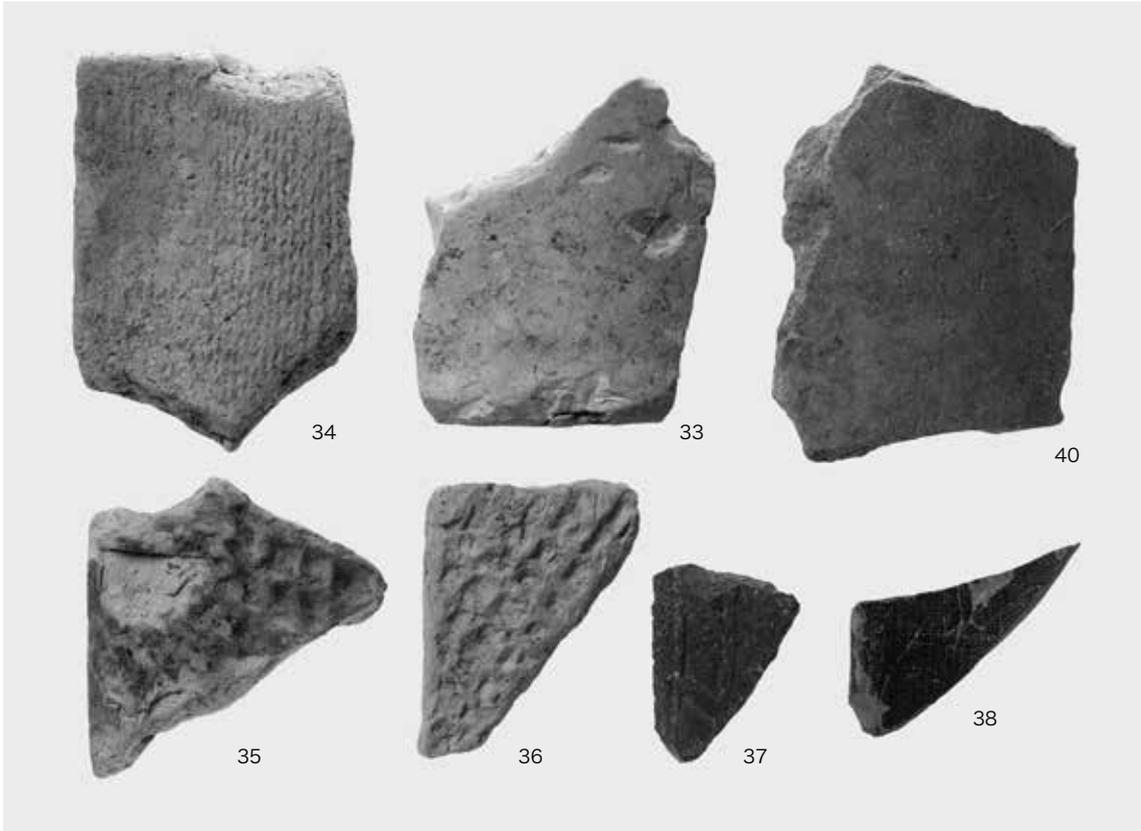


乙訓寺第 25 次調査

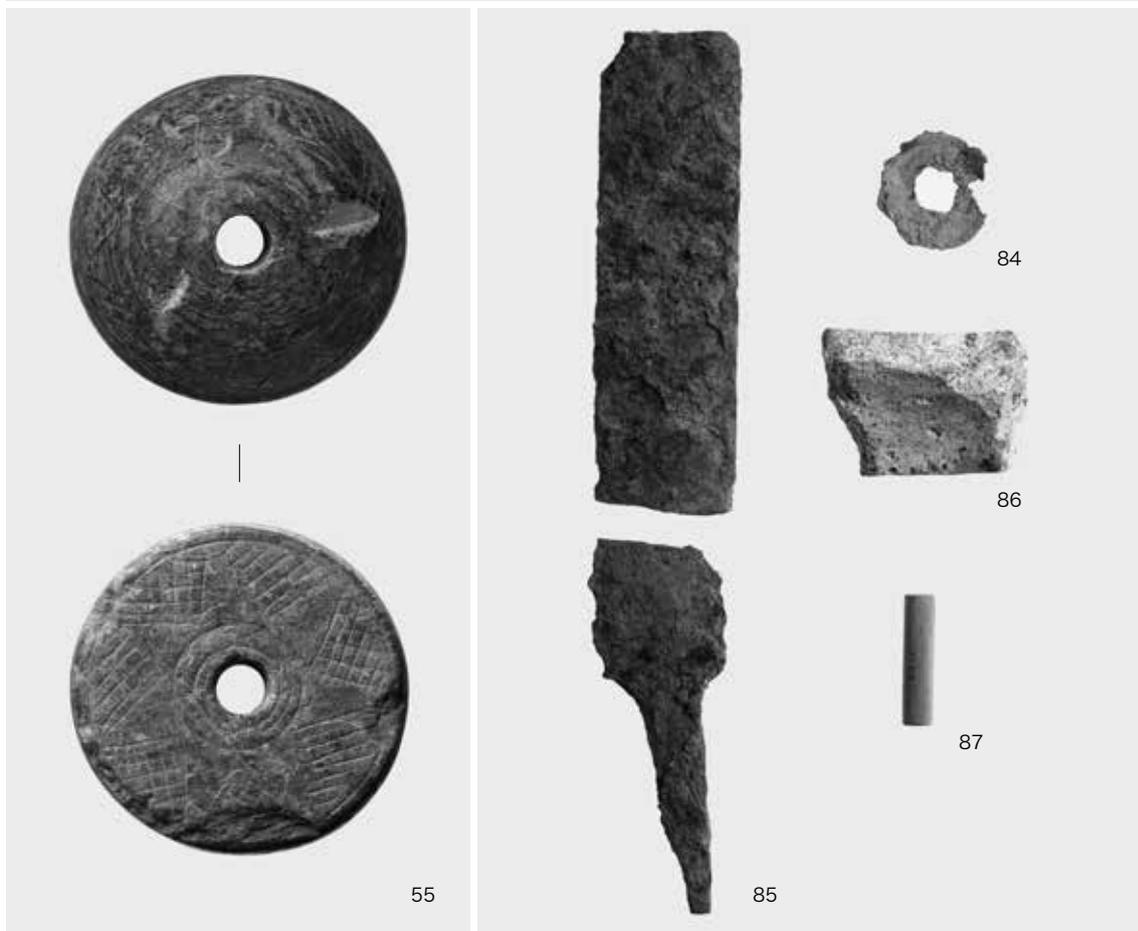
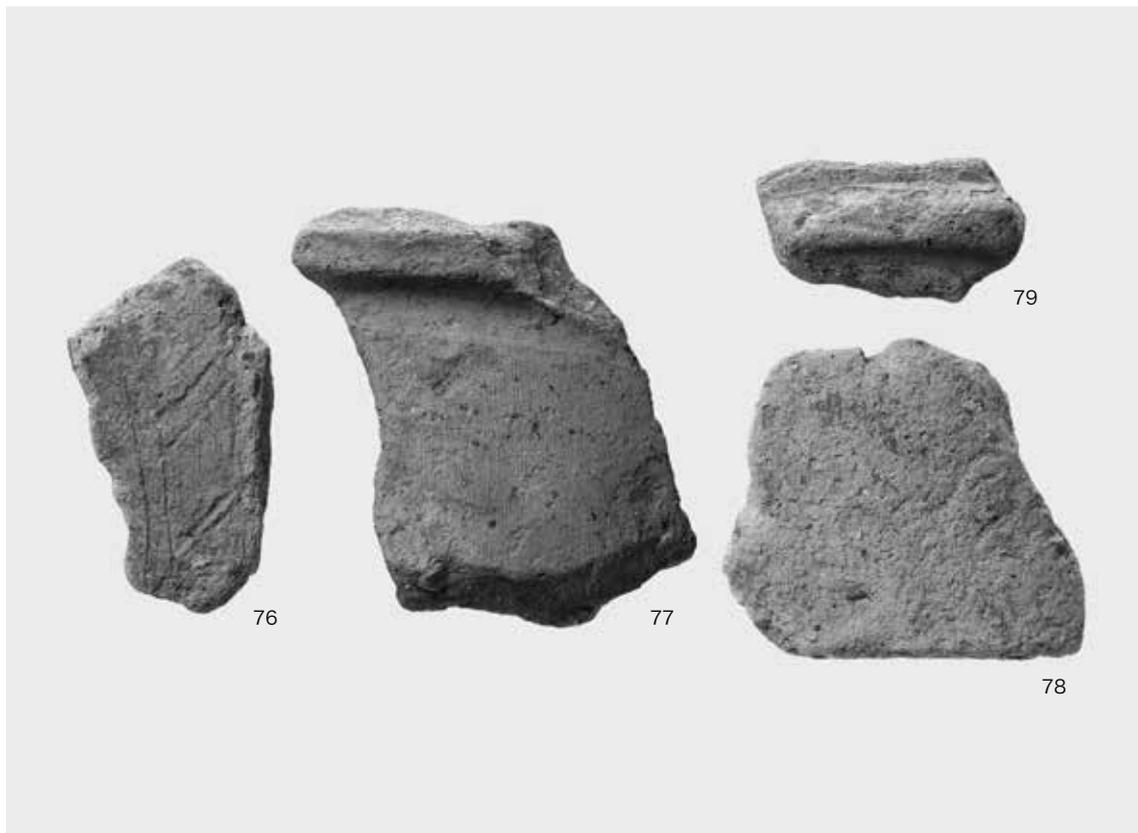
図版八



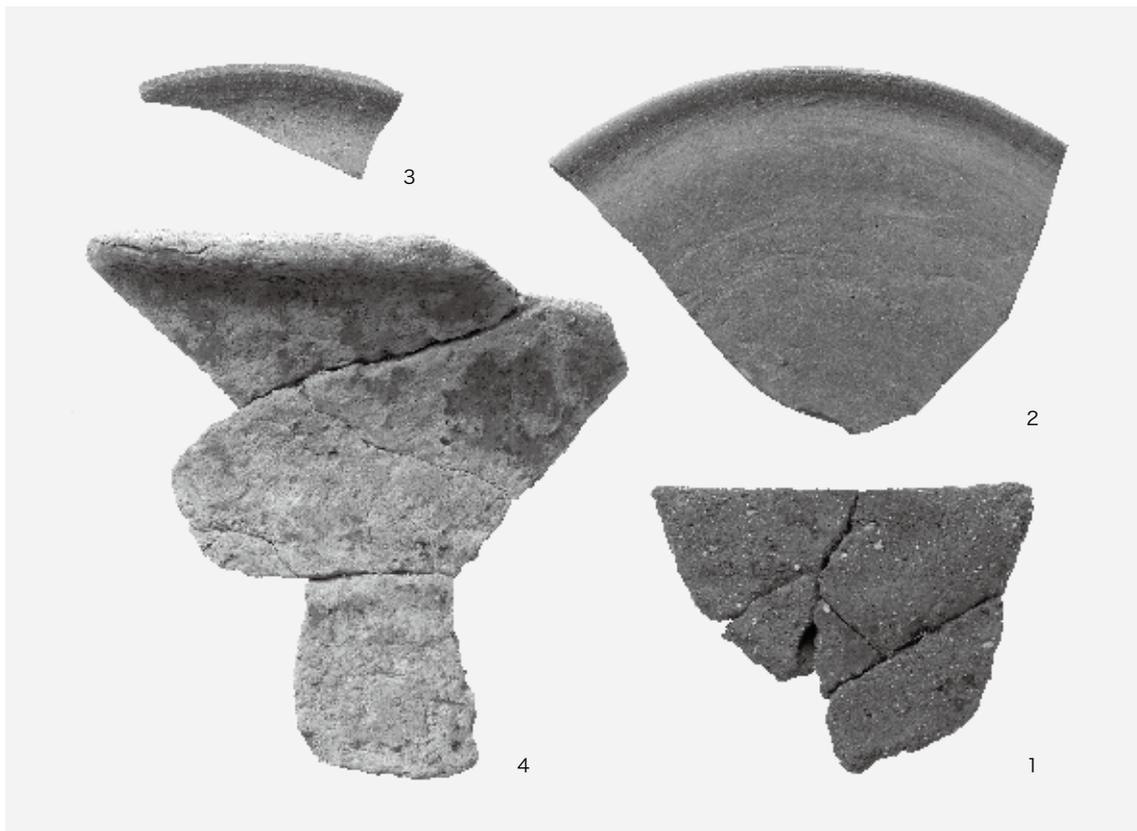
出土遺物 - 2



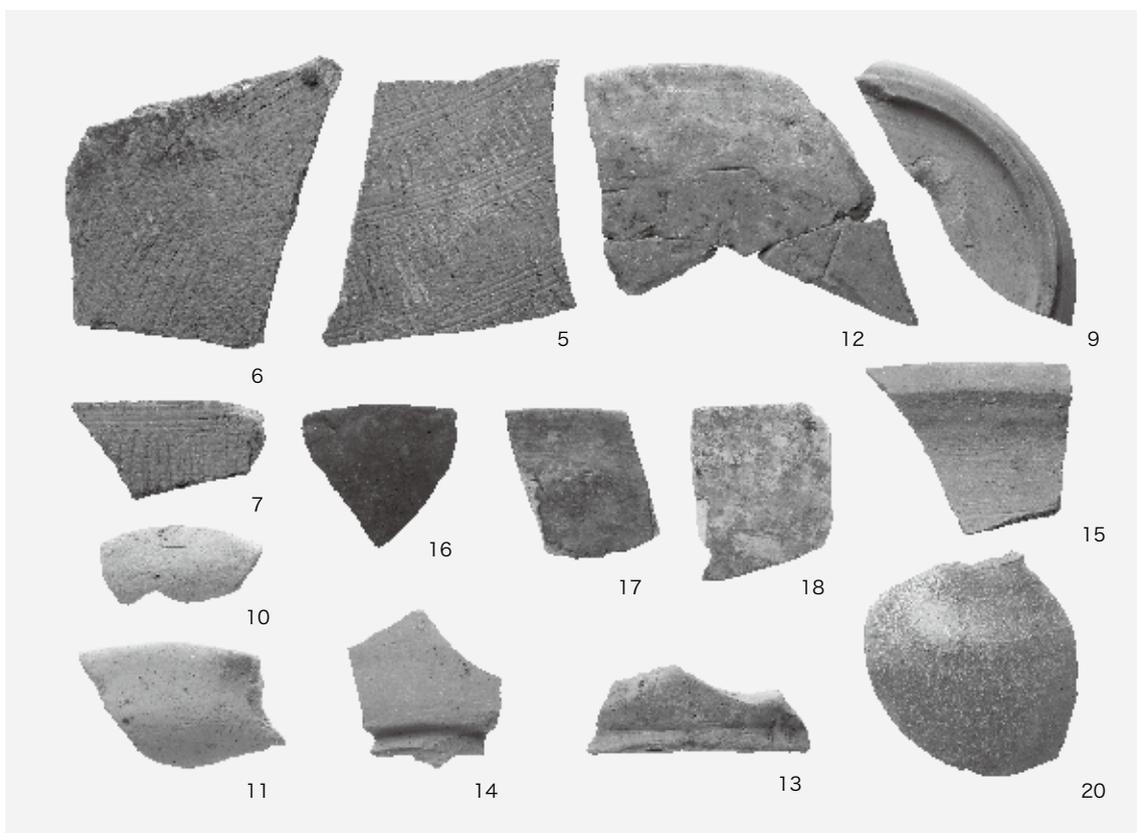
出土遺物- 3



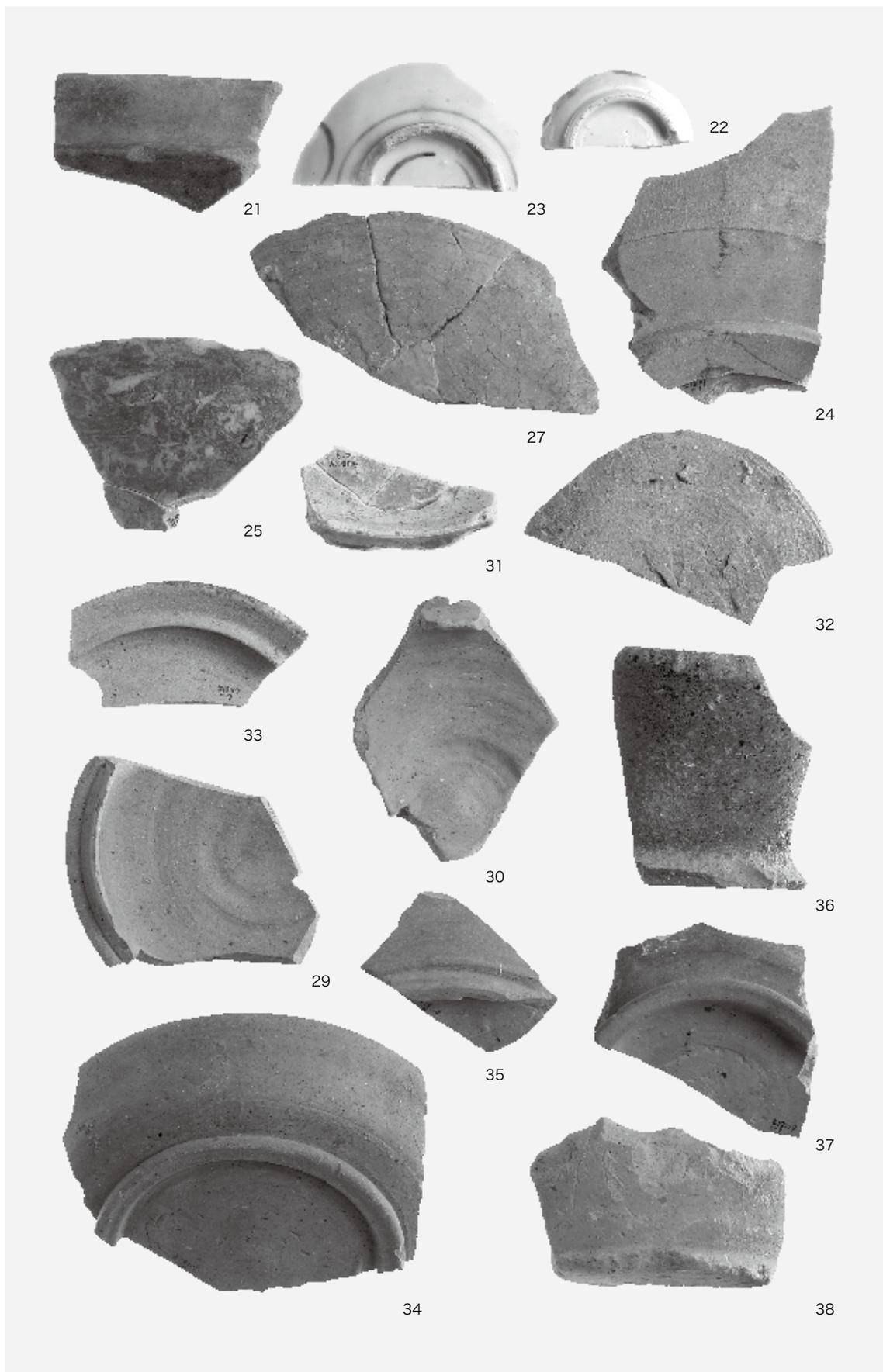
出土遺物- 4



(1) 出土遺物-1



(2) 出土遺物-2



出土遺物-3

長岡京市文化財調査報告書 第 72 冊

平成 31 (2019) 年 3 月 26 日 発行

編 集 公益財団法人 長岡京市埋蔵文化財センター
〒 617 - 0853 京都府長岡京市奥海印寺東条 10 番地の 1
電話 075 - 955 - 3622 FAX 075 - 951 - 0427

発 行 長岡京市教育委員会
〒 617 - 0851 京都府長岡京市開田一丁目 1 - 1
電話 075 - 951 - 2121 (代)

印 刷 ヨシダ印刷株式会社 関西支店
〒 532 - 0011 大阪市淀川区西中島 5 - 8 - 3
電話 06 - 6305 - 7888 FAX 06 - 6305 - 7300

